

(2) 理学療法学科

専門科目（理学療法学科）

科目名	頁	科目名	頁
理学療法学概論	1	高齢期理学療法学	64
運動学Ⅰ	4	高齢期理学療法学特別講義	66
運動学Ⅱ	7	内科系理学療法学Ⅰ	68
運動学演習	10	内科系理学療法学Ⅱ	70
運動療法学	14	内科系理学療法学特別講義	72
理学療法管理運営論	17	理学療法技術学	74
理学療法検査技術学Ⅰ	20	物理療法学	76
理学療法検査技術学Ⅱ	23	義肢装具学	80
理学療法検査技術学演習	26	生活支援系理学療法学Ⅰ	83
理学療法評価学Ⅰ	29	生活支援系理学療法学Ⅱ	85
理学療法評価学Ⅱ	32	地域リハビリテーション学	88
生体計測学演習	35	地域理学療法学	91
筋骨格系理学療法学Ⅰ	38	理学療法研究法	93
筋骨格系理学療法学Ⅱ	41	理学療法研究法演習	95
筋骨格系理学療法学特別講義	45	理学療法卒業研究	98
神経系理学療法学Ⅰ	48	臨床実習Ⅰ	100
神経系理学療法学Ⅱ	50	臨床特論	102
神経系理学療法学特別講義	52	臨床実習Ⅱ	104
小児理学療法学Ⅰ	55	臨床実習Ⅲ	107
小児理学療法学Ⅱ	58	臨床実習Ⅳ	109
小児理学療法学特別講義	61	臨床実習Ⅴ	111

授業科目	理学療法学概論	科目英語表記	Introduction to Physical Therapy		
職名、担当教員氏名	教授 鈴木 克彦 教授 加藤 浩 教授 渡部 潤一 准教授 丹野 克子 准教授 南澤 忠儀 講師 赤塚 清矢 講師 永瀬外希子 講師 室伏 祐介 講師 鈴木栄三郎 助教 工藤 大輔				
科目責任者氏名	鈴木 克彦				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科 - 必修		
授業形態	講義／演習／実習若しくは実技	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	理学療法とは何かについて教員が分担して教授する。				
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学2／理学5に関連して ① 理学療法に必要な知識と資質について説明できる。 ② 理学療法学をいかに学べばよいか説明できる。 ③ 専門職としての理学療法士の社会的役割を説明できる。				
成績評価方法	筆記試験またはレポート課題 100% 到達目標①・②・③を評価				
成績評価基準	到達目標①～③に対して 特に優れている ; 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる。 優れている ; 根拠をふまえて論理的に説明できる。 良好である ; 根拠を用いてある程度論理的に説明できる。 最低限の到達 ; 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる。 目標に到達していない ; 説明できない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	理学療法とリハビリテーション	理学療法・リハビリテーションとは何か？社会から求められる理学療法とは何か？について、理学療法の定義を踏まえながら、その理念について講義します。	講義	予習課題 理学療法の仕事をより深く理解するために参考書（概説理学療法）等を読んで予習しておいて下さい。	加藤 浩
2	理学療法士のキャリア形成	将来、理学療法士としてどのような分野に興味があり、その分野で何をやりたいのか？また、何をやらなければならないのか？ということを実体的に考えることをキャリアデザインといいます。本講義では、事例を示しながら将来のキャリアデザインについて講義します。	講義	予習課題 理学療法の仕事をより深く理解するために参考書（概説理学療法）等を読んで予習しておいて下さい。 復習課題：レポート 講義の最後に課題を出しますので、後日提出して下さい。	加藤 浩
3	理学療法士養成校で学ぶこと	本学科のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを明示し、カリキュラムマップについて討議する。	講義、演習	予習課題 本学科のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを確認しておいてください。 復習課題：レポート 授業の最後に課題を提示しますので、後日提出して下さい。	鈴木克彦
4	理学療法演習（基本動作観察）	基本動作としての椅子からの起立動作と着座動作を考え	講義、演習	復習課題：レポート 椅子からの起立動作・着座動	鈴木克彦

		る。		作に関する課題内容を提示しますので、後日提出してください。	
5	理学療法の対象と理学療法士の職域	理学療法士が関わる対象者と、働いている領域について学ぶ。	講義	復習課題：レポート	丹野克子
6	理学療法技術（関節可動域測定・関節可動域練習）	関節可動域測定と関節可動域練習について学ぶ	講義、演習	復習課題：レポート	赤塚清矢
7	障がいのとらえ方と評価の流れ	模擬症例情報から国際生活機能分類（ICF）を作成する。	講義、演習	復習課題：レポート 演習で行った模擬症例のICFを分析する。	鈴木栄三郎
8	理学療法と研究（理学療法を学ぶために）	科学的根拠に基づく理学療法の重要性を学習する。 演習を通して最善の理学療法を提供するための一連の行動様式を学習する。	講義、演習	復習課題：レポート	南澤忠儀
9	理学療法を学ぶための図書館活用方法	情報処理教室で実際にコンピュータを用いて文献検索を行う。	演習	復習課題 授業の内容を实际コンピュータを用いて復習しておいてください。	図書館司書
10	理学療法に関連する法規と保険制度	医療に携わる理学療法士の関連法規と保険制度について概説する。	講義と演習	予習課題 理学療法士に関する法律をより深く理解するために参考書（概説理学療法）等を読んで予習しておいて下さい。	渡部潤一
11	理学療法の組織と倫理	日本理学療法士協会についての説明をします。	講義	予習課題 日本理学療法士協会のホームページを見ておいてください。 復習課題 振り返りシートの提出	室伏祐介
12	医療専門職と接遇	医療専門職にふさわしい接遇について、ディベートを交えて講義する。	課題討論（ディベート）、講義	復習課題：レポート	永瀬外希子
13	施設見学オリエンテーション	施設見学の実習方法を説明し、実習での望ましい態度・挨拶を演習する。	講義、演習	学外（病院）実習にあたって学生として望ましい心構え・行動・言動等を考えること。	鈴木栄三郎
14	施設見学	病院の理学療法士に帯同し臨床場面を見学する。	学外実習	オリエンテーションの復習と準備	永瀬外希子 鈴木栄三郎 工藤大輔
15	施設見学報告会	見学内容を報告・発表し、共有する。	演習	課題：レポート 報告会での質疑応答も踏まえて、見学内容と感想を報告する。	永瀬外希子 鈴木栄三郎 工藤大輔

日付

6. 4.12 (金) 4・5
6. 4.19 (金) 4・5
6. 4.25 (木) 3
6. 5. 2 (木) 3
6. 5. 9 (木) 3
6. 5.16 (木) 3
6. 5.23 (木) 3
6. 5.30 (木) 3
6. 6. 6 (木) 3
6. 6.13 (木) 3
6. 6.20 (木) 3
6. 6.27 (木) 3・4
6. 7. 4 (木) 3・4
6. 7.11 (木) 3・4
6. 7.18 (木) 3・4

教科書	指定なし
-----	------

参考書	概説理学療法 第2版. 有馬慶美(編), 文光堂 シンプル理学療法学シリーズ 理学療法入門テキスト 改訂第4版, 細田多穂(監), 南江堂
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	鈴木克彦: 研究室31 ksuzuki@yachts.ac.jp 加藤 浩: 研究室36 hikato@yachts.ac.jp 渡部潤一: 研究室39 jwatanabe@yachts.ac.jp 丹野克子: 研究室6 ktanno@yachts.ac.jp 南澤忠儀: 研究室18 tminamisawa@yachts.ac.jp 赤塚清矢: 研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬外希子: 研究室23 tishiguri@yachts.ac.jp 室伏祐介: 研究室40 ymurofushi@yachts.ac.jp 鈴木栄三郎: 理・作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp 工藤大輔: 理・作共同研究室 dkudo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	運動学Ⅰ		科目英語表記	KinesiologyⅠ		
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃 教授 加藤 浩 教授 鈴木 克彦 教授 仁藤 充洋 講師 室伏 祐介					
科目責任者氏名	佐藤 寿晃					
学内連絡教員氏名						
学科／分野	理学療法学科／作業療法学科	学年	1年			
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科－必修 作業療法学科－必修			
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	2単位	
授業概要	人体にある様々な関節の構造やその機能・メカニズムについて教授する。身体の基本的な動作を運動学・運動学的に解説する。					
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学2／理学5／作業2に関連して ① 上肢・下肢・体幹の関節運動およびその仕組みを説明できる。 ② 主要な筋の起始、停止、走行、作用、神経支配を説明できる。					
成績評価方法	定期試験（100％）：到達目標①・②					
成績評価基準	到達目標①・②を評価する 特に優れている； 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明(表現)できる 優れている； 根拠をふまえて論理的に説明(表現)できる 良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明(表現)できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明(表現)できる 目標に到達していない； 説明(表現)できない					

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	運動学概説	運動学が臨床でどのように活用できるのか概説します。また、身体運動学の捉え方と空間的表現について講義します。	講義	予習課題 講義内容をより深く理解するために教科書（エッセンシャル・キネシオロジー）の第1章キネシオロジーの基本原則（pp1～）を予習しておいて下さい。 復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	加藤
2	運動器の構造と機能	関節分類、骨格筋構造、運動方向、筋収縮	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤 仁藤
3	肩複合体の運動学Ⅰ	肩関節複合体の構造と運動・筋Ⅰ	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤 仁藤
4	肩複合体の運動学Ⅱ	肩関節複合体の構造と運動・筋Ⅱ	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤 仁藤
5	肘関節・前腕の運動学	肘および前腕の構造と運動・筋	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤 仁藤
6	手関節・手指の運動学Ⅰ	手関節および手指の構造と運動・筋Ⅰ	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤 仁藤
7	手関節・手指の運動学Ⅱ	手関節および手指の構造と運動・筋Ⅱ	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤 仁藤

8	股関節の運動学Ⅰ	股関節の構造と運動・筋Ⅰ	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	室伏
9	股関節の運動学Ⅱ	股関節の構造と運動・筋Ⅱ	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	室伏
10	膝関節の運動学	膝関節の構造と運動・筋	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	室伏
11	足関節・足部の運動学	足関節および足部の構造と運動・筋の作用との関連について講義する。	講義	予習課題 講義内容をより深く理解するために教科書（エッセンシャル・キネシオロジー）の第11章 足関節と足部の構造と機能（pp292～）を予習しておいてください 復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	鈴木克彦
12	脊柱・体幹の運動学Ⅰ	脊柱の弯曲、頸椎・胸椎・腰椎・仙椎の構造と運動との関連について講義する。	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	予習課題 講義内容をより深く理解するために教科書（エッセンシャル・キネシオロジー）の第8章 脊柱の構造と機能（pp169～）を予習しておいてください。 復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	鈴木克彦
13	換気・呼吸の運動学	胸郭の構造と換気・呼吸の運動学について講義する。	講義	予習課題 講義内容をより深く理解するために教科書（エッセンシャル・キネシオロジー）の第13章 咀嚼と換気のキネシオロジー（pp358～）を予習しておいてください。 復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	鈴木克彦
14	姿勢と動作の捉え方	身体運動学での姿勢と動作の表現方法について講義します。	講義	予習課題 講義内容をより深く理解するために事前に配布する資料を予習しておいて下さい。 復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	加藤
15	歩行	歩行周期の分類について講義します。	講義	予習課題 講義内容をより深く理解するために教科書（エッセンシャル・キネシオロジー）の第12章歩行の基礎知識（pp331～）を予習しておいて下さい。 復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	加藤

日付

6.9.25 (水) 5
6.9.30 (月) 5
6.10.2 (水) 5
6.10.7 (月) 5
6.10.9 (水) 5
6.10.16 (水) 5
6.10.21 (月) 5

6.10.23 (水) 5
 6.10.28 (月) 5
 6.10.30 (水) 5
 6.11. 6 (水) 5
 6.11.11 (月) 5
 6.11.13 (水) 5
 6.11.18 (月) 5
 6.11.20 (水) 5

教科書	エッセンシャル・キネシオロジー（原著第3版）. Paul Jackson Mansfield（著）. 弓岡光徳、他（監訳）. 南江堂. 2020
参考書	プロメテウス解剖学アトラス 運動器系（第3版）. 医学書院. 2017 基礎運動学（第6版）. 医歯薬出版. 2020 必要に応じてプリントを配布します。
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5/作業2
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐藤：研究室37 tsato@yachts.ac.jp 加藤：研究室36 hikato@yachts.ac.jp 鈴木：研究室31 ksuzuki@yachts.ac.jp 仁藤：研究室26 mnito@yachts.ac.jp 室伏：研究室40 ymurofushi@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	運動学 II		科目英語表記	Kinesiology II		
職名、担当教員氏名	教授 加藤 浩 教授 佐藤 寿晃 准教授 鈴木 由美					
科目責任者氏名	加藤 浩					
学内連絡教員氏名						
学科／分野	理学療法学科／作業療法学科	学年	2年			
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科ー必修 作業療法学科ー必修			
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位	
授業概要	① 運動力学的分析に必要な重力、床反力、関節モーメントの概念を説明し、その分析方法を教授する。 ② 運動学 I で学んだ身体機能解剖の知識を利用して、運動や動作の具体的な分析方法を教授する。 ③ 基本動作として寝返りや起き上がり等を、日常生活活動として更衣動作や食事動作等を分析する。グループワークによる直視および動作観察・分析を中心に講義・演習を展開する。					
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学2／理学5／作業2に関連して ① 運動力学分析に必要な重力、床反力、関節モーメントの概念を理解し、ベクトルを用いて分析内容を可視化し説明できる。 ② 運動や動作を観察し、運動学的用語を用いて表現することができる。 ③ 基本的な起居動作や身の回り動作の運動パターンと各関節の可動域、筋活動、重心の動きを関連付けて説明できる。					
成績評価方法	筆記試験（期末）：100% [到達目標①・②・③を評価]					
成績評価基準	到達目標①・②・③ 特に優れている : 論理的、かつ明確に十分説明（表現）できる。 優れている : 論理的、かつ明確に概ね説明（表現）できる。 良好である : 論理的に概ね説明（表現）できる。 最低限の到達 : 一部不十分な所もあるが、ある程度説明（表現）できる。 目標に到達していない : 説明できない。					

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	力とベクトル	力の定義及びベクトルの概念と基本演算について学習します。	講義（聴講型）	予習課題 本講義は基礎物理（力学）の知識が必要です。参考図書（姿勢と運動の力学がやさしくわかる本）等で予習しておいて下さい。 復習課題 第1回講義内容の振り返りシートの提出	加藤 浩
2	重力と身体重心	重力と身体重心の概念、さらに重心の求め方について学習します。	講義（聴講型）	予習課題 第1回講義で配布した第2回講義資料を事前に読んでおくこと。 復習課題 第2回講義内容の振り返りシートの提出	加藤 浩
3	身体重心と支持基底面	姿勢・動作分析に必要な支持基底面と身体重心の関係について学習します。	講義（聴講型）	予習課題 第2回講義で配布した第3回講義資料を事前に読んでおくこと。 復習課題 第3回講義内容の振り返りシートの提出	加藤 浩
4	身体重心の分析	椅子からの立ち上がり動作や歩行動作を例に身体重心位置の分析を実習形式で行います。	講義（聴講型） 実技実習	予習課題 第3回講義で配布した第4回講義資料を事前に読んでおくこと。 復習課題	加藤 浩

				第4回講義内容の振り返りシートの提出	
5	運動の法則	運動力学的分析に必要な運動方程式と運動の法則（作用・反作用の法則）について学びます。	講義（聴講型）	予習課題 第4回講義で配布した第5回講義資料を事前に読んでおくこと。 復習課題 第5回講義内容の振り返りシートの提出	加藤 浩
6	床反力	ヒトが地面に体重や力を加えた時に地面から受ける反作用の力（床反力）の概念について学習します。	講義（聴講型）	予習課題 第5回講義で配布した第6回講義資料を事前に読んでおくこと。 復習課題 第6回講義内容の振り返りシートの提出	加藤 浩
7	関節モーメント	人体におけるテコと関節モーメントの概念について学習します。	講義（聴講型）	予習課題 第6回講義で配布した第7回講義資料を事前に読んでおくこと。 復習課題 第7回講義内容の振り返りシートの提出	加藤 浩
8	関節モーメントの分析	椅子からの立ち上がり動作や歩行動作を例に関節モーメント（外部・内部モーメント）の捉え方について学習します。	講義（聴講型）	予習課題 第7回講義で配布した第8回講義資料を事前に読んでおくこと。 復習課題 第8回講義内容の振り返りシートの提出	加藤 浩
9	日常生活活動に必要な肩複合体の機能	肩複合体の関節、運動	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤寿晃
10	日常生活活動に必要な肘複合体と前腕の機能	肘複合体と前腕の関節、運動	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤寿晃
11	日常生活活動に必要な手関節と手指機能	手関節と手指機能	スライド資料に基づいて学習内容を解説する。	講義終了後に復習してください。	佐藤寿晃
12	生活行為の観察と分析	更衣動作・食事動作の観察と分析を例に、生活行為の分析のポイントを学習します。	講義	上肢の運動学をしっかりと復習しておくこと。	鈴木由美
13	生活行為の観察と分析－更衣動作	更衣動作の観察と分析を通して、生活行為の分析を学習します。	実技実習 グループワーク	上肢の運動学をしっかりと復習しておくこと。	鈴木由美
14	生活行為の観察と分析－更衣動作	第13回に引き続き、更衣動作の観察と分析を通して、生活行為の分析を学習します。	実技実習 グループワーク	分析結果のまとめ・プレゼンテーションの準備をすること。 プレゼンテーション資料の提出	鈴木由美
15	生活行為の観察と分析	第13回、第14回で実施した内容を、グループごとに15分以内でプレゼンテーションします。	プレゼンテーション	各グループのプレゼンテーション内容を、配布資料とともに見返しておくこと。	鈴木由美

日付

6. 4.12 (金) 1
6. 4.19 (金) 1
6. 4.26 (金) 1
6. 5.10 (金) 1
6. 5.17 (金) 1
6. 5.24 (金) 1
6. 5.31 (金) 1
6. 6.14 (金) 1
6. 6.21 (金) 1
6. 6.28 (金) 1

6. 7. 5 (金) 1
 6. 7.12 (金) 1
 6. 7.19 (金) 1
 6. 7.24 (水) 1
 6. 7.26 (金) 1

教科書	エッセンシャル・キネシオロジー（原著第3版）. Paul Jackson Mansfield（著）. 弓岡光徳（訳）. 南江堂
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・筋骨格系のキネシオロジー. Neumann DA（著）. 嶋田智明（訳）. 医歯薬出版 ・姿勢と運動の力学がやさしくわかる本. 勝平純司（著）. ナツメ社 ・必要に応じてプリントを配布します。
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2／理学5／作業2
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	加藤 浩：研究室36 hikato@yachts.ac.jp 佐藤 寿晃：研究室37 tsato@yachts.ac.jp 鈴木 由美：研究室30 yusuzuki@yachts.ac.jp
備考	<p>動作の観察・分析は障がい構造を把握する上で、欠かすことのできない重要な評価手段です。</p> <p>普段の生活においても運動学的に観察・分析する思考パターンを身につけて下さい。</p> <p>第12回～第15回の生活行為の分析のプレゼンテーション（第15回）は、発表内容が多すぎて時間切れになってしまうグループが毎年出ています。発表時間を守ることはプレゼンテーションの重要な要素です。</p> <p>必ず事前に、全体を通して読み発表内容を絞り込んでください。</p>

授業科目	運動学演習	科目英語表記	Kinesiology (Lab)		
職名、担当教員氏名	教授 加藤 浩 准教授 南澤 忠儀 講師 赤塚 清矢 講師 永瀬外希子 講師 室伏 祐介 講師 鈴木栄三郎				
科目責任者氏名	加藤 浩				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科一必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	運動学に基づく定量的な評価方法を少人数のグループ実習を通して教授する。健常者を対象として、運動力学、筋電図学を加えて運動を解析する。具体的な実施方法を示すとともに、結果の解釈や評価方法の意義と限界についても解説する。				
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学2／理学5に関連して ① 姿勢の基本的な評価と機器を用いた筋力・バランス機能の測定と評価方法の説明ができる。 ② 歩行の速度因子の測定と評価方法の説明ができる。 ③ 筋電図や三次元動作解析装置、床反力計を用いた動作分析の基本的な測定と評価方法の説明ができる。 ④ データの基本的な解析や作図を表計算ソフトを用いて実施し、測定結果をまとめ、考察を加えて発表することができる。				
成績評価方法	課題レポート：60% [到達目標 ①・②・③を評価] 授業内でのプレゼンテーション：40% [到達目標 ④を評価]				
成績評価基準	到達目標 ①・②・③ 特に優れている : 課題内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に十分説明できる。 優れている : 課題内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に概ね説明できる。 良好である : 課題内容を理解し、論理的に正しく概ね説明できる。 最低限の到達 : 一部不十分な所もあるが、ある程度説明できる。 目標に到達していない : 説明できない。 到達目標 ④ 特に優れている : 課題内容を理解し、構成力、表現力、説得力が十分なプレゼンテーションができる。 優れている : 課題内容を理解し、構成力、表現力、説得力が概ね十分なプレゼンテーションができる。 良好である : 課題内容を理解し、構成力、表現力、説得力がある程度十分なプレゼンテーションができる。 最低限の到達 : 課題内容を理解し、一部不適切な部分はあるが、プレゼンテーションができる。 目標に到達していない : プレゼンテーションできない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	定量的評価方法とプレゼンテーション	臨床や研究に用いられている運動学的、運動力学的の評価方法を紹介し、レポート、レジュメ、スライド作成など、プレゼンテーション技術のポイントについて説明します。	講義（聴講型）	予習課題 本講義は運動・動作分析の計測に関する知識が必要です。 参考図書（計測法入門－計り方・計る意味）等で予習しておいて下さい。	加藤 浩
2	姿勢・筋力・筋活動の基本的評価(1)	実習Ⅰ：3班（A、B、C班）に分かれて以下の課題を実習する。 A班：姿勢の評価、身体重心位置の推定 B班：筋力の定量的評価法 C班：筋電図による動作分析	グループワーク	予習課題 本講義は運動・動作分析の計測に関する知識が必要です。 参考図書（計測法入門－計り方・計る意味）等で予習しておいて下さい。	加藤 浩 赤塚 清矢 永瀬 外希子
3	姿勢・筋力・筋活動の基本的評価(1)	実習Ⅰ：3班（A、B、C班）に分かれて以下の課題を実習する。 A班：姿勢の評価、身体重心位置の推定 B班：筋力の定量的評価法 C班：筋電図による動作分析	グループワーク	予習課題 本講義は運動・動作分析の計測に関する知識が必要です。 参考図書（計測法入門－計り方・計る意味）等で予習しておいて下さい。 復習課題 各班で与えられた課題の測定	加藤 浩 赤塚 清矢 永瀬 外希子

				結果をまとめ、レポートを作成する。	
4	姿勢・筋力・筋活動の基本的評価(2)	実習Ⅰ：3班(A、B、C班)に分かれて以下の課題を実習する。 C班：姿勢の評価、身体重心位置の推定 A班：筋力の定量的評価法 B班：筋電図による動作分析	グループワーク	予習課題 本講義は運動・動作分析の計測に関する知識が必要です。 参考図書(計測法入門-計り方・計る意味)等で予習しておいて下さい。	加藤 浩 赤塚 清矢 永瀬 外希子
5	姿勢・筋力・筋活動の基本的評価(2)	実習Ⅰ：3班(A、B、C班)に分かれて以下の課題を実習する。 C班：姿勢の評価、身体重心位置の推定 A班：筋力の定量的評価法 B班：筋電図による動作分析	グループワーク	予習課題 本講義は運動・動作分析の計測に関する知識が必要です。 参考図書(計測法入門-計り方・計る意味)等で予習しておいて下さい。 復習課題 各班で与えられた課題の測定結果をまとめ、レポートを作成する。	加藤 浩 赤塚 清矢 永瀬 外希子
6	姿勢・筋力・筋活動の基本的評価(3)	実習Ⅰ：3班(A、B、C班)に分かれて以下の課題を実習する。 B班：姿勢の評価、身体重心位置の推定 C班：筋力の定量的評価法 A班：筋電図による動作分析	グループワーク	予習課題 本講義は運動・動作分析の計測に関する知識が必要です。 参考図書(計測法入門-計り方・計る意味)等で予習しておいて下さい。	加藤 浩 赤塚 清矢 永瀬 外希子
7	姿勢・筋力・筋活動の基本的評価(3)	実習Ⅰ：3班(A、B、C班)に分かれて以下の課題を実習する。 B班：姿勢の評価、身体重心位置の推定 C班：筋力の定量的評価法 A班：筋電図による動作分析	グループワーク	予習課題 本講義は運動・動作分析の計測に関する知識が必要です。 参考図書(計測法入門-計り方・計る意味)等で予習しておいて下さい。 復習課題 各班で与えられた課題の測定結果をまとめ、レポートを作成する。	加藤 浩 赤塚 清矢 永瀬 外希子
8	動作やバランスの定量的評価(1)	実習Ⅱ：3班(A、B、C班)に分かれて以下の課題を実習する。 A班：三次元、床反力による動作解析 B班：バランス評価(重心動揺計) C班：速度因子の測定と解析	グループワーク	予習課題 本講義は運動・動作分析の計測に関する知識が必要です。 参考図書(計測法入門-計り方・計る意味)等で予習しておいて下さい。	南澤 忠儀 室伏 祐介 鈴木 栄三郎
9	動作やバランスの定量的評価(1)	実習Ⅱ：3班(A、B、C班)に分かれて以下の課題を実習する。 A班：三次元、床反力による動作解析 B班：バランス評価(重心動揺計) C班：速度因子の測定と解析	グループワーク	予習課題 本講義は運動・動作分析の計測に関する知識が必要です。 参考図書(計測法入門-計り方・計る意味)等で予習しておいて下さい。 復習課題 各班で与えられた課題の測定結果をまとめ、レポートを作成する。	南澤 忠儀 室伏 祐介 鈴木 栄三郎
10	動作やバランスの定量的評価(2)	実習Ⅱ：3班(A、B、C班)に分かれて以下の課題を実習する。 C班：三次元、床反力による動作解析 A班：バランス評価(重心動揺計) B班：速度因子の測定と解析	グループワーク	予習課題 本講義は運動・動作分析の計測に関する知識が必要です。 参考図書(計測法入門-計り方・計る意味)等で予習しておいて下さい。	南澤 忠儀 室伏 祐介 鈴木 栄三郎
11	動作やバランスの定量的評価(2)	実習Ⅱ：3班(A、B、C班)に分かれて以下の課題を実習する。 C班：三次元、床反力による動作解析 A班：バランス評価(重心動	グループワーク	予習課題 本講義は運動・動作分析の計測に関する知識が必要です。 参考図書(計測法入門-計り方・計る意味)等で予習しておいて下さい。	南澤 忠儀 室伏 祐介 鈴木 栄三郎

		揺計) B班：速度因子の測定と解析		復習課題 各班で与えられた課題の測定結果をまとめ、レポートを作成する。	
12	動作やバランスの定量的評価(3)	実習Ⅱ：3班(A、B、C班)に分かれて以下の課題を実習する。 B班：三次元、床反力による動作解析 C班：バランス評価(重心動揺計) A班：速度因子の測定と解析	グループワーク	予習課題 本講義は運動・動作分析の計測に関する知識が必要です。参考図書(計測法入門-計り方・計る意味)等で予習しておいて下さい。	南澤 忠儀 室伏 祐介 鈴木 栄三郎
13	動作やバランスの定量的評価(3)	実習Ⅱ：3班(A、B、C班)に分かれて以下の課題を実習する。 B班：三次元、床反力による動作解析 C班：バランス評価(重心動揺計) A班：速度因子の測定と解析	グループワーク	予習課題 本講義は運動・動作分析の計測に関する知識が必要です。参考図書(計測法入門-計り方・計る意味)等で予習しておいて下さい。 復習課題 各班で与えられた課題の測定結果をまとめ、レポートを作成する。	南澤 忠儀 室伏 祐介 鈴木 栄三郎
14	課題実習発表会	測定結果の発表を行い、教員を交えて議論します。	プレゼンテーション 講義(議論型)	予習課題 発表に向けたパワーポイント資料の作成 復習課題 発表で指摘・アドバイスされた事項の振り返りシートの提出	全員
15	課題実習発表会	測定結果の発表を行い、教員を交えて議論します。	プレゼンテーション 講義(議論型)	予習課題 発表に向けたパワーポイント資料の作成 復習課題 発表で指摘・アドバイスされた事項の振り返りシートの提出	全員

日付

6.9.30(月)3・4・5
6.10.7(月)3・4
6.10.21(月)3・4
6.10.28(月)3・4
6.11.11(月)3・4
6.11.18(月)3・4
6.11.25(月)3・4

教科書	
参考書	計測法入門-計り方・計る意味、内山靖、他(編)、協同医書出版社 エッセンシャル・キネシオロジー(原著第3版)、Paul Jackson Mansfield(著)、弓岡光徳、他(監訳)、南江堂
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	

実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	加藤 浩 : 研究室36 hikato@yachts.ac.jp 南澤 忠儀 : 研究室18 tminamisawa@yachts.ac.jp 赤塚 清矢 : 研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬 外希子 : 研究室23 tishiguri@yachts.ac.jp 室伏 祐介 : 研究室40 ymurofushi@yachts.ac.jp 鈴木 栄三郎 : 理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp
備考	3班に分かれて実習を行うので、各実習課題に合った服装で出席すること。

授業科目	運動療法学	科目英語表記	Therapeutic Exercise		
職名、担当教員氏名	講師 永瀬 外希子				
科目責任者氏名	永瀬 外希子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科一必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	理学療法における治療手段の主となる運動療法に関する授業の一つです。基本的な運動療法の基礎と実践に関する講義と実技演習を行います。				
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学2／理学5に関連して ① 運動療法の基礎知識、基本的運動療法手技およびその適応と禁忌などを説明できる。 ② 基本的運動療法手技（徒手抵抗運動、関節可動域運動、徒手ストレッチ）を適切に実施できる。				
成績評価方法	筆記試験50%：到達目標①を評価 実技試験50%：到達目標②を評価				
成績評価基準	<p>到達目標① 運動療法の基礎知識、基本的運動療法手技およびその適応と禁忌などを説明できる。</p> <p>特に優れている：論理的に正しく、かつ明確に十分説明できる。 優れている：論理的に正しく、かつ明確に概ね説明できる。 良好である：論理的に正しく、概ね説明できる。 最低限の到達：一部不十分なところもあるが、ある程度説明できる。 目標に到達していない：説明できない。</p> <p>到達目標② 基本的運動療法手技（徒手抵抗運動、関節可動域運動、徒手ストレッチ）を適切に実施できる。</p> <p>特に優れている：正しく理解し、適切に実施できる。 優れている：正しく理解し、概ね実施できる。 良好である：正しく理解し、ある程度実施できる。 最低限の到達：一部不十分なところもあるが、ある程度実施できる。 目標に到達していない：実施できない。</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	運動療法総論	・運動療法の定義や方法、運動療法の適応と禁忌、トレーニングの原理・原則について講義を行う。 ・運動療法を体験することで理解を深められるようにする。	講義と実技	【予習課題】教科書の第1章：総論を予習しておいてください。 【復習課題】教科書の第1章：まとめを解いてください。	永瀬外希子
2	筋機能と運動療法	筋収縮様式、筋力増強の生理学的効果、強度、時間について講義を行う。	講義	【予習課題】教科書の第2章：筋機能と運動療法を予習しておいてください。 【復習課題】教科書の第2章：まとめを解いてください。	永瀬外希子
3	徒手抵抗運動の実技	徒手抵抗運動について講義や視聴覚教材を交えながら実技を行う。	講義と実技	【復習課題】実技で実施した徒手抵抗運動を復習しておいてください。	永瀬外希子
4	関節可動性と運動療法	関節の可動性、関節可動性の制限因子、関節可動域運動について講義を行う。	講義	【予習課題】教科書の第3章：関節可動性と運動療法を予習しておいてください。 【復習課題】教科書の第3章：まとめを解いてください。	永瀬外希子
5	関節可動域運動の実技	関節可動域運動について講義や視聴覚教材を交えながら実技を行う。	講義と実技	【復習課題】実技で実施した関節可動域運動を復習しておいてください。	永瀬外希子

6	徒手ストレッチの実技（上肢）	上肢の徒手ストレッチについて講義や視聴覚教材を交えながら実技を行う。	講義と実技	【予習課題】教科書の第3章：関節可動性と運動療法を再度確認しておいてください。 【復習課題】実技で実施した徒手ストレッチを復習しておいてください。	永瀬外希子
7	徒手ストレッチの実技（下肢）	下肢の徒手ストレッチについて講義や視聴覚教材を交えながら実技を行う。	講義と実技	【復習課題】実技で実施した徒手ストレッチを復習しておいてください。	永瀬外希子
8	バランス・協調性機能と運動療法	姿勢・動作におけるバランス機能、運動における協調性機能と運動療法について実技を交えながら講義を行う。	講義と実技	【予習課題】教科書の第4・8章：バランス・協調性機能と運動療法を予習しておいてください。 【復習課題】教科書の第4・8章：まとめを解いてください。	永瀬外希子
9	呼吸、循環、代謝機能と運動療法	呼吸、循環、代謝機能と運動療法について実技を交えながら講義を行う。	講義と実技	【予習課題】教科書の第5～7章：呼吸・循環・代謝機能と運動療法を予習しておいてください。 【復習課題】教科書の第5～7章：まとめを解いてください。	永瀬外希子
10	中枢・末梢神経機能と運動療法	中枢・末梢神経機能と運動療法について実技を交えながら講義を行う。	講義と実技	【予習課題】教科書の第9～10章：中枢・末梢神経機能と運動療法を予習しておいてください。 【復習課題】教科書の第9～10章：まとめを解いてください。	永瀬外希子
11	前庭機能、加齢による運動機能変化と運動療法	前庭機能、加齢による運動機能変化と運動療法について実技を交えながら講義を行う。	講義と実技	【予習課題】教科書の第11～12章：前庭機能・加齢による運動機能変化と運動療法を予習しておいてください。 【復習課題】教科書の第11～12章：まとめを解いてください。	永瀬外希子
12	基本動作、運動学習と運動療法	基本動作、運動学習と運動療法について実技を交えながら講義を行う。	講義と実技	【予習課題】教科書の第13章：基本動作と運動療法を予習しておいてください。 【復習課題】教科書の第13章：まとめを解いてください。	永瀬外希子
13	運動学習と運動療法	運動療法における運動学習の基本、運動学習理論、実践例について実技を交えて講義する。	講義と実技	【予習課題】教科書の第14章：運動学習と運動療法を予習しておいてください。 【復習課題】教科書の第14章：まとめを解いてください。	永瀬外希子
14	運動療法技術の確認と振り返り	運動療法技術である徒手抵抗運動を適切に実施できるかを確認する。	実技	【予習課題】実技で行った徒手抵抗運動を練習しておいてください。 【復習課題】指摘事項があれば修正して練習してください。	永瀬外希子
15	運動療法技術の確認と振り返り	運動療法技術である関節可動域運動、徒手ストレッチを適切に実施できるかを確認する。	実技	【予習課題】実技で行った関節可動域運動、徒手ストレッチを練習しておいてください。 【復習課題】指摘事項があれば修正して練習してください。	永瀬外希子

日付

6.9.27 (金) 3
6.10.4 (金) 4・5

6.10.11 (金) 3・4
 6.10.18 (金) 1・2
 6.10.25 (金) 3・4
 6.11.1 (金) 3・4
 6.11.8 (金) 3・4
 6.11.15 (金) 3・4

教科書	Crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学, 対馬栄輝 (編), メジカルビュー社
参考書	・最新運動療法大全 基礎と実践&エビデンス情報, 黒澤 和生 (監), ガイアブックス ・運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版, 市橋則明 (編), 文光堂
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	永瀬外希子: 23研究室 (tishiguri@yachts.ac.jp)
備考	運動のしやすい服装で参加してください。

授業科目	理学療法管理運営論	科目英語表記	Physical Therapy Service Management		
職名、担当教員氏名	講師 赤塚 清矢 非常勤講師 渡邊 好孝 教授 鈴木 克彦 講師 永瀬外希子 講師 室伏 祐介 講師 鈴木栄三郎 助教 工藤 大輔				
科目責任者氏名	赤塚 清矢				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科一必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	理学療法士として社会の一員として働く上で必要な管理運営（マネジメント）の考え方を教授する。 学習者の人生に役立つ「学びとは」、価値創造、目的志向、目標の設定等を論じ「仕事とは何か」を教授する。 仕事とは何かを論じ、学生自身の今後の人生に崇高な目的・目標を掲げられるよう教授する。 DX時代（IoT、AI等）の進化と社会変化に対応し、役割・立場を理解して社会課題の解決に向けた行動できるよう教授する。 理学療法士として過ごす人生での幅広いキャリア形成を教授する。				
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学3／理学5に関連して 認知領域 ① 働く思考手順を理解し、仕事・業務・作業の組み立てができる。 情意領域 ② 他職種の働きをVTRにて観賞し、そこからの学びを通してディスカッションし“仕事の原点”（仕事の志、到達したい夢）を説明できる。自らの仕事の大原点を確認し他者に表現できる。 精神運動領域 ③ 働くことから創出される価値をセルフアセスメントし客観的に組織と自身の仕事を評価できる。 * 生きることの意味、健康の意味、予防の意味を理解し未来向き志向を養う。 * 経営資源である「人」の管理の、目的・目標を理解し論じることができる。 * 「深い人間理解とそれに基づく愛」によって、人生・仕事・愛・幸せを論じることができる。				
成績評価方法	課題レポート 100% 到達目標①・②・③				
成績評価基準	到達目標①・②・③ 特に優れている ; 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている ; 根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である ; 根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達 ; 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない ; 説明できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	管理運営（マネジメント）で重視する考え方 総論	理学療法士が目指す理想的な姿に照らして、現代のDigital社会と近未来に予測される環境変化から将来の問題と課題のに取り組むためのマネジメントを知る。	講義 対話による知の創造	政治や経済とリハビリテーション・理学療法の関りを学ぶ	渡邊好孝
2	世界と日本の社会課題に取り組む 予防（管理）は何のために必要なかを理解する	仕事や業務管理をする上で何を予防するのかわかる。ヒューマンエラーを知る。	講義 対話による知の創造	政治や経済とリハビリテーション・理学療法の関りを学ぶ	渡邊好孝
3	提供価値・顧客認識・競争認識・経営資源認識	理学療法士が提供する価値とは何か。顧客認識と競争社会を認識する。理学療法士として経営とは何か、その資源とは何を理解する。	講義 対話による知の創造	政治や経済とリハビリテーション・理学療法の関りを学ぶ	渡邊好孝
4	業務の管理 仕事のリーダーシップ	管理者とリーダー、役割と立場の違いを知る。個人と組織	講義 対話による知の創造	政治や経済とリハビリテーション・理学療法の関りを学ぶ	渡邊好孝

	ブ 社会的責任 人材育成	の社会的責任を知る。キャリアの考え方とライフステージと働き方、人を育てる仕事とは何かを知る。				
5	顧客市場の理解と経営資源の理解 ブランディング	マーケティングとは何か、顧客心理と経営資源管理の意味を知る。	講義 対話による知の創造 をVTR鑑賞	他職種	政治や経済とリハビリテーション・理学療法の関りを学ぶ	渡邊好孝
6	個人と組織の仕事の原点を知る Vision、Missionの考え方	マネジメントの基本的考え方を学び、目的（戦略）、目標（戦術）立案し行動することの意味を知る。	講義 対話による知の創造 をVTR鑑賞	他職種	政治や経済とリハビリテーション・理学療法の関りを学ぶ	渡邊好孝
7	リスク	イノベーションのリスク。価値創造のリスク。組織と個人の習慣のリスクを知る。	講義 対話による知の創造		政治や経済とリハビリテーション・理学療法の関りを学ぶ	渡邊好孝
8	PDCA OODA PREP	セルフアセスメントを学ぶ。情報と時間・空間と存在・人間と繋がりに、情報と行動の関係を知る。	講義 対話による知の創造		政治や経済とリハビリテーション・理学療法の関りを学ぶ	渡邊好孝
9	報告・連絡・相談	報告・連絡・相談の根本を知る。欲求と願望、確認・承認・教育の意味を知る。	講義 対話による知の創造		政治や経済とリハビリテーション・理学療法の関りを学ぶ	渡邊好孝
10	理学療法の倫理と教育	コンプライアンス・法令違反・ハラスメント	講義		予習 理学療法士協会のHPにアクセスし倫理について調べて下さい。 復習 振り返りシートの提出	室伏祐介
11	理学療法の倫理と教育	医療広告ガイドライン・利害衝突・コンフリクトマネジメントの概要を解説し、実例を提示しながら講義する。	講義+討論		レポート課題 授業の最後に課題を提示します。	鈴木克彦
12	理学療法の倫理と教育	理学療法教育の歴史と内容	講義、グループワーク、発表		復習課題 レポート課題を提出する。	永瀬外希子
13	理学療法の倫理と教育	理学療法士国家試験の出題基準	講義+演習		復習課題 レポート課題を提出する。	工藤大輔
14	理学療法の倫理と教育	診療参加型臨床実習・臨床実習前後の評価	講義+演習		復習課題 レポート課題を提出する。	赤塚清矢
15	理学療法の倫理と教育	臨床教育の方法・生涯学習制度	講義+演習		復習課題 レポート課題を提出する。	鈴木栄三郎

日付

6.9.17 (火) 3・4・5
6.9.24 (火) 3・4・5
6.10.4 (金) 3・4・5
6.10.8 (火) 3・4
6.10.15 (火) 3・4
6.10.22 (火) 3・4

教科書	指定なし。 講義・演習に必要な資料は配布する。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学3/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当

実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	赤塚 清矢：研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp 渡邊 好孝：松田病院 w.yoshitaka1006@gmail.com 鈴木 克彦：研究室31 ksuzuki@yachts.ac.jp 永瀬外希子：研究室23 tishiguri@yachts.ac.jp 室伏 祐介：研究室40 ymurofushi@yachts.ac.jp 鈴木栄三郎：理・作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp 工藤 大輔：理・作共同研究室 dkudo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	理学療法検査技術学Ⅰ	科目英語表記	Physical Therapy Examination Ⅰ		
職名、担当教員氏名	教授 鈴木 克彦 講師 室伏 祐介 講師 永瀬外希子				
科目責任者氏名	鈴木 克彦				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科－必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	理学療法評価および治療手技に必要な触診技術と形態測定技術を身につけるため、実技をとおして教授する。				
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学2／理学5に関して ① 理学療法に必要な主要な骨・関節・筋・神経・血管の解剖学について説明できる。 ② 理学療法に必要な主要な骨・関節・筋・神経・血管を触診できる。 ③ 四肢長および周径測定の目的を説明し、計測できる。				
成績評価方法	筆記試験 40% 到達目標①・③ 実技試験 60% 到達目標②・③				
成績評価基準	<p>到達目標①</p> <p>特に優れている ; 適切で十分で明確な説明ができる 優れている ; 適切で明確な説明ができる 良好である ; ある程度適切な説明ができる 最低限の到達 ; 正確性に乏しいところはあるが説明できる 目標に到達していない ; 説明できない</p> <p>到達目標②・③</p> <p>特に優れている ; 適切な手順で十分正確に触診ならびに計測ができる 優れている ; 適切な手順で正確に触診ならびに計測ができる 良好である ; 適切な手順である程度正確に触診ならびに計測ができる 最低限の到達 ; ある程度の手順で触診ならびに計測が行えるが、技術の正確性に欠ける部分がある 目標に到達していない ; 触診ならびに計測の説明と実施ができない</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	触診：総論・肩関節	触診技術の概要を解説する。 肩関節に関連する骨、関節、筋、神経、血管の触診技術を実技を通して解説する。	事前学習型授業（講義）＋実技	予習課題 教科書（触診解剖学アトラス）該当ページを予習しておいてください。	鈴木 克彦
2	触診：肩関節	肩関節に関連する骨、関節、筋、神経、血管の触診技術を実技を通して解説する。	事前学習型授業（講義）＋実技	予習課題 教科書（触診解剖学アトラス）と配布資料の該当ページを予習しておいてください。 復習課題 講義内容の振り返りシートを提出してください。	鈴木 克彦
3	触診：上腕・肘関節	上腕部と肘関節の骨、関節、筋、神経、血管の触診技術を実技を通して解説する。	事前学習型授業（講義）＋実技	予習課題 教科書（触診解剖学アトラス）と配布資料の該当ページを予習しておいてください。 復習課題 講義内容の振り返りシートを提出してください。	鈴木 克彦
4	触診：前腕	前腕部の骨、関節、筋、神経、血管の触診技術を実技を通して解説する。	事前学習型授業（講義）＋実技	予習課題 教科書（触診解剖学アトラス）と配布資料の該当ページを予習しておいてください。 復習課題 講義内容の振り返りシートを提出してください。	鈴木 克彦

5	触診：手関節・手指	手関節・手指の骨、関節、筋、神経、血管の触診技術を実技を通して解説する。	事前学習型授業（講義）＋実技	予習課題 教科書（触診解剖学アトラス）と配布資料の該当ページを予習しておいてください。 復習課題 講義内容の振り返りシートを提出してください。	鈴木 克彦
6	触診：頸部	頸部の骨、関節、筋、神経、血管の触診技術を実技を通して解説する。	事前学習型授業（講義）＋実技	予習課題 教科書（触診解剖学アトラス）と配布資料の該当ページを予習しておいてください。 復習課題 講義内容の振り返りシートを提出してください。	鈴木 克彦
7	触診：体幹	体幹部の骨、関節、筋、神経、血管の触診技術を実技を通して解説する。	事前学習型授業（講義）＋実技	予習課題 教科書（触診解剖学アトラス）と配布資料の該当ページを予習しておいてください。 復習課題 講義内容の振り返りシートを提出してください。	鈴木 克彦
8	触診：骨盤・股関節	股関節に関連する骨、関節、筋、神経、血管の触診技術を実技を通して解説する。	事前学習型授業（講義）＋実技	予習 教科書の該当ページを一読しておくこと 復習 振り返りシートの提出	室伏 祐介
9	触診：大腿部	股関節・膝関節に関連する骨、関節、筋、神経、血管の触診技術を実技を通して解説する。	事前学習型授業（講義）＋実技	予習 教科書の該当ページを一読しておくこと 復習 振り返りシートの提出	室伏 祐介
10	触診：膝関節	膝関節に関連する骨、関節、筋、神経、血管の触診技術を実技を通して解説する。	事前学習型授業（講義）＋実技	予習 教科書の該当ページを一読しておくこと 復習 振り返りシートの提出	室伏 祐介
11	触診：下腿部	膝関節・足関節に関連する骨、関節、筋、神経、血管の触診技術を実技を通して解説する。	事前学習型授業（講義）＋実技	予習 教科書の該当ページを一読しておくこと 復習 振り返りシートの提出	室伏 祐介
12	触診：足関節・足部	足関節に関連する骨、関節、筋、神経、血管の触診技術を実技を通して解説する。	事前学習型授業（講義）＋実技	予習 教科書の該当ページを一読しておくこと 復習 振り返りシートの提出	室伏 祐介
13	形態測定：総論	形態測定の種類や注意事項を解説する。 形態計測の実際について実技を交えて解説する。	事前学習型授業（講義）＋実技	予習課題 教科書「理学療法評価学」該当ページ（第3章：形態測定）を予習しておくこと 復習課題 授業における振り返りの提出	永瀬外希子
14	形態測定：四肢長	形態計測の評価の一つである四肢長について実技を交えて解説する。	事前学習型授業（講義）＋実技	予習課題 教科書「理学療法評価学」該当ページ（第3章：形態測定）を予習しておくこと 復習課題 授業における振り返りの提出	永瀬外希子
15	形態測定：周径	形態計測の評価の一つである周径について実技を交えて解説する。	事前学習型授業（講義）＋実技	予習課題 教科書「理学療法評価学」該当ページ（第3章：形態測定）を予習しておくこと 復習課題 授業における振り返りの提出	永瀬外希子

日付

教科書	・触診解剖学アトラス, 奈良勲 (監訳), 医学書院 ・理学療法評価学 第6版補訂版, 松澤正・江口勝彦 (著), 金原出版
参考書	運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢・下肢 第2版, 林典雄 (著), メジカルビュー
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	鈴木 克彦 (理学療法士) 室伏 祐介 (理学療法士) 永瀬外希子 (理学療法士)
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	鈴木 克彦: 研究室31 ksuzuki@yachts.ac.jp 室伏 祐介: 研究室40 ymurofushi@yachts.ac.jp 永瀬外希子: 研究室23 tishiguri@yachts.ac.jp
備考	実技ができる服装で出席すること。 第13回-15回では、各自メジャーを持参し、服装はジャージのインナーに肩を表出できるTシャツと大腿全体を表出できる半ズボンを着用すること。

授業科目	理学療法検査技術学Ⅱ	科目英語表記	Physical Therapy Examination II		
職名、担当教員氏名	講師 赤塚 清矢 教授 鈴木 克彦 講師 室伏 祐介 講師 永瀬外希子 講師 鈴木栄三郎				
科目責任者氏名	赤塚 清矢				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科－必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	理学療法評価に欠かせない、関節可動域（ROM）測定、徒手筋力検査法（MMT）、筋長検査の意義や手技を学び習得する。				
到達目標	ディプロマポリシー理学2／理学5に関連して ① 各種理学療法評価の方法や判定について説明できる。 ② ROM測定を的確に実施することができる。 ③ MMTの適切なオリエンテーションと迅速かつ正確な検査を実施することができる。 ④ 二関節筋の筋長検査を的確に実施し、判定することができる。				
成績評価方法	筆記試験（50％）到達目標の①を評価 実技試験（50％）到達目標の①～④を評価				
成績評価基準	到達目標① 特に優れている ; 正しく明確に、十分説明できる。 優れている ; 正しく明確に、概ね説明できる。 良好である ; 正しく、概ね説明できる。 最低限の到達 ; 一部不十分なところもあるが、ある程度説明できる。 目標に到達していない ; 説明できない。 到達目標①～④ 特に優れている ; 適切で明確な説明ができ、十分正確な検査手技が実施できる。 優れている ; 明確な説明ができ、正確な検査手技が実施できる。 良好である ; 明確な説明ができ、ある程度正確な検査手技が実施できる。 最低限の到達 ; ある程度の内容の説明ができ、正確ではないがある程度の検査手技が実施できる。 目標に到達していない ; 説明できず、検査手技が実施できない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	ROM①総論	関節可動域表示ならびに測定法の総論	講義と実技演習	予習課題 教科書（理学療法評価学）の第4章関節可動域Ⅰ～Ⅷを予習する。	赤塚清矢 鈴木栄三郎
2	ROM②上肢（肩関節、肘関節、前腕、手関節、手指）	上肢（肩関節、肘関節、前腕、手関節、手指）の関節可動域表示ならびに測定法	講義と実技演習	予習課題 教科書（理学療法評価学）の第4章関節可動IX関節可動域の実際を予習する。 復習課題 第2回目で習得した内容について、反復練習を行う。	赤塚清矢 鈴木栄三郎
3	ROM③上肢（肩関節、肘関節、前腕、手関節、手指）	上肢（肩関節、肘関節、前腕、手関節、手指）の関節可動域表示ならびに測定法	講義と実技演習	予習課題 教科書（理学療法評価学）の第4章関節可動IX関節可動域の実際を予習する。 復習課題 第3回目で習得した内容について、反復練習を行う。	赤塚清矢 鈴木栄三郎
4	ROM④上肢（肩関節、肘関節、前腕、手関節、手指）	上肢（肩関節、肘関節、前腕、手関節、手指）の関節可動域表示ならびに測定法	講義と実技演習	予習課題 教科書（理学療法評価学）の第4章関節可動IX関節可動域	赤塚清矢 鈴木栄三郎

				<p>の実際を予習する。 復習課題 第4回目で習得した内容について、反復練習を行う。</p>	
5	ROM⑤下肢（股関節、膝関節、足関節、頸部、体幹）	下肢（股関節、膝関節、足関節、頸部、体幹）の関節可動域表示ならびに測定法	講義と実技演習	<p>予習課題 教科書（理学療法評価学）の第4章関節可動IX関節可動域の実際を予習する。 復習課題 第5回目で習得した内容について、反復練習を行う。</p>	赤塚清矢 鈴木栄三郎
6	ROM⑥下肢（股関節、膝関節、足関節、頸部、体幹）	下肢（股関節、膝関節、足関節、頸部、体幹）の関節可動域表示ならびに測定法	講義と実技演習	<p>予習課題 教科書（理学療法評価学）の第4章関節可動IX関節可動域の実際を予習する。 復習課題 第6回目で習得した内容について、反復練習を行う。</p>	赤塚清矢 鈴木栄三郎
7	ROM⑦下肢（股関節、膝関節、足関節、頸部、体幹）	下肢（股関節、膝関節、足関節、頸部、体幹）の関節可動域表示ならびに測定法	講義と実技演習	<p>予習課題 教科書（理学療法評価学）の第4章関節可動IX関節可動域の実際を予習する。 復習課題 第7回目で習得した内容について、反復練習を行う。</p>	赤塚清矢 鈴木栄三郎
8	MMT①下肢 総論、股関節、膝関節	総論、股関節および膝関節のMMTについて要点を説明し、実技演習を行う。	講義と実技演習	実技練習を反復すること。	室伏祐介
9	MMT②下肢 股関節、膝関節	股関節および膝関節のMMTについて要点を説明し、実技演習を行う。	講義と実技演習	実技練習を反復すること。	室伏祐介
10	MMT③下肢 足関節、足部	足関節および足部のMMTについて要点を説明し、実技演習を行う。	講義と実技演習	実技練習を反復すること。	室伏祐介
11	MMT④下肢 足関節、足部、体幹	足関節および足部、体幹のMMTについて要点を説明し、実技演習を行う。	講義と実技演習	実技練習を反復すること。	室伏祐介
12	MMT⑤上肢 肩関節・上肢帯	肩関節および上肢帯のMMTについて要点を説明し、実技演習を行う。	講義と実技演習	<p>予習課題 実技実習の習得のために教科書（新・徒手筋力検査法）第5章 上肢の筋力テスト（pp93～153）を読んでおいてください。 復習課題 講義内容の振り返りシートを提出してください。</p>	鈴木克彦
13	MMT⑥上肢 肘関節・前腕・手関節	肘関節・前腕・手関節のMMTについて要点を説明し、実技演習を行う。	講義と実技演習	<p>予習課題 実技実習の習得のために教科書（新・徒手筋力検査法）第5章 上肢の筋力テスト（pp154～182）を読んでおいてください。 復習課題 講義内容の振り返りシートを提出してください。</p>	鈴木克彦
14	MMT⑦上肢 手指・頸部	手指・頸部のMMTについて要点を説明し、実技演習を行う。	講義と実技演習	<p>予習課題 実技実習の習得のために教科書（新・徒手筋力検査法）第3章 頸筋のテスト（pp23～）、第5章 上肢の筋力テスト（pp183～221）を読んでおいてください。 復習課題 講義内容の振り返りシートを提出してください。</p>	鈴木克彦

15	筋長検査	下肢の短縮筋の判定方法について要点を説明し、筋長検査法の実技演習を行う。	講義と実技演習	二関節筋の起始・停止と作用を復習しておくこと。	永瀬外希子
日付					
6.4.10 (水) 3 6.4.17 (水) 3・4 6.4.24 (水) 3・4 6.5.1 (水) 3・4 6.5.8 (水) 3・4 6.5.15 (水) 3・4 6.5.22 (水) 3・4 6.5.29 (水) 3・4					

教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・PT・OTのための測定評価シリーズ ROM測定, 福田修 (監), 三輪書店 ・新・徒手筋力検査法, 津山直一・中村耕三 (訳), 協同医書出版 ・理学療法評価学 第6版補訂版, 松澤正・江口勝彦 (著), 金原出版株式会社
参考書	標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学, 奈良 勲 (監) 内山 靖・岩井 信彦 (編), 医学書院
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	赤塚 清矢: 研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp 鈴木 克彦: 研究室31 ksuzuki@yachts.ac.jp 室伏 祐介: 研究室40 ymurofushia@yachts.ac.jp 永瀬外希子: 研究室23 tishiguri@yachts.ac.jp 鈴木栄三郎: 理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp
備考	実技が可能な服装で参加してください。

授業科目	理学療法検査技術学演習	科目英語表記	Practice of Physical Therapy Examination		
職名、担当教員氏名	講師 赤塚 清矢 講師 永瀬外希子 講師 室伏 祐介 講師 鈴木栄三郎				
科目責任者氏名	赤塚 清矢				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科一必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	臨床的狀況で適切に検査を実施できるようになるために、基本的な理学療法検査技術を用いた臨床的な展開方法を教授する。				
到達目標	ディプロマポリシー理学2／理学5に関連して、 ① 対象者の安全に配慮ができ、適切な態度や言葉遣いで接することができる。 ② 臨床的な状況に応じて、適切な検査項目を選択し、その検査を適切に実施することができる。				
成績評価方法	実技試験（100％）にて、到達目標の①②を評価。				
成績評価基準	到達目標①② 特に優れている : 正しく理解し、十分実施できる。 優れている : 正しく理解し、概ね実施できる。 良好である : 正しく理解し、ある程度実施できる。 最低限の到達 : 一部不十分な所もあるが、ある程度実施できる。 目標に到達していない : 実施できない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	理学療法検査技術の臨床的展開方法とROM-Tの実際	オリエンテーション 基本的な理学療法検査技術の臨床的な展開方法とROM-Tの実施方法について講義・演習する。	講義と演習	技術の習得度を高めるために自主的な学習・練習を行うことが望ましい。	赤塚清矢
2	医療面接・バイタルサイン計測の実際	医療面接における基本的な態度と臨床におけるバイタルサイン計測の実施方法を講義・演習する。	講義と演習	技術の習得度を高めるために自主的な学習・練習を行うことが望ましい。	鈴木栄三郎
3	MMTの実際	臨床的狀況におけるMMTの実施方法について講義・演習する。	講義と演習	予習 MMTの方法について復習をしてください。 復習 振り返りシートの提出	室伏祐介
4	肢長、周径の実際	臨床的狀況における肢長、周径の実施方法について講義・演習する。	講義と演習	技術の習得度を高めるために自主的な学習・練習を行うことが望ましい。	永瀬外希子
5	実技演習①	臨床的狀況に応じて、バイタルサイン計測、ROM-T、MMT、肢長と周計の計測が適切に実施できる技術を習得するための演習を行う。	演習	技術の習得度を高めるために自主的な学習・練習を行うことが望ましい。	赤塚清矢 永瀬外希子 室伏祐介 鈴木栄三郎
6	実技演習②	臨床的狀況に応じて、バイタルサイン計測、ROM-T、MMT、肢長と周計の計測が適切に実施できる技術を習得するための演習を行う。	演習	技術の習得度を高めるために自主的な学習・練習を行うことが望ましい。	赤塚清矢 永瀬外希子 室伏祐介 鈴木栄三郎
7	実技演習③	臨床的狀況に応じて、バイタルサイン計測、ROM-T、MMT、肢長と周計の計測が	演習	技術の習得度を高めるために自主的な学習・練習を行うことが望ましい。	赤塚清矢 永瀬外希子 室伏祐介 鈴木栄三郎

		適切に実施できる技術を習得するための演習を行う。			
8	実技演習④	臨床的状况に応じて、バイタルサイン計測、ROM-T、MMT、肢長と周計の計測が適切に実施できる技術を習得するための演習を行う。	演習	技術の習得度を高めるために自主的な学習・練習を行うことが望ましい。	赤塚清矢 永瀬外希子 室伏祐介 鈴木栄三郎
9	実技演習⑤	臨床的状况に応じて、バイタルサイン計測、ROM-T、MMT、肢長と周計の計測が適切に実施できる技術を習得するための演習を行う。	演習	技術の習得度を高めるために自主的な学習・練習を行うことが望ましい。	赤塚清矢 永瀬外希子 室伏祐介 鈴木栄三郎
10	実技演習⑥	臨床的状况に応じて、バイタルサイン計測、ROM-T、MMT、肢長と周計の計測が適切に実施できる技術を習得するための演習を行う。	演習	技術の習得度を高めるために自主的な学習・練習を行うことが望ましい。	赤塚清矢 永瀬外希子 室伏祐介 鈴木栄三郎
11	実技演習⑦	臨床的状况に応じて、バイタルサイン計測、ROM-T、MMT、肢長と周計の計測が適切に実施できる技術を習得するための演習を行う。	演習	技術の習得度を高めるために自主的な学習・練習を行うことが望ましい。	赤塚清矢 永瀬外希子 室伏祐介 鈴木栄三郎
12	実技演習⑧	臨床的状况に応じて、バイタルサイン計測、ROM-T、MMT、肢長と周計の計測が適切に実施できる技術を習得するための演習を行う。	演習	技術の習得度を高めるために自主的な学習・練習を行うことが望ましい。	赤塚清矢 永瀬外希子 室伏祐介 鈴木栄三郎
13	理学療法検査技術の確認①	実技演習の習得度を評価する。	演習	技術の習得度を高めるために自主的な学習・練習を行うことが望ましい。	赤塚清矢 永瀬外希子 室伏祐介 鈴木栄三郎
14	理学療法検査技術の確認②	実技演習の習得度を評価する。	演習	技術の習得度を高めるために自主的な学習・練習を行うことが望ましい。	赤塚清矢 永瀬外希子 室伏祐介 鈴木栄三郎
15	理学療法検査技術の確認③	実技演習の習得度を評価する。	演習	習得度が不十分な技術についての再学習が望まれる。	赤塚清矢 永瀬外希子 室伏祐介 鈴木栄三郎

日付

6.9.25 (水) 3・4
6.10.2 (水) 3・4
6.10.9 (水) 3・4
6.10.16 (水) 3・4
6.10.23 (水) 3・4
6.10.30 (水) 3・4
6.11.6 (水) 3・4・5

教科書	指定なし。講義・演習に必要な資料は配布する。
参考書	・PT・OTのための測定評価シリーズ ROM測定, 福田修(監), 三輪書店 ・新・徒手筋力検査法, 津山直一・中村耕三(訳), 協同医書出版 ・理学療法評価学 第6版補訂版, 松澤正・江口勝彦(著), 金原出版
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかな	非該当

なければならない科目	
実務経験のある教員	赤塚 清矢 (理学療法士) 永瀬外希子 (理学療法士) 室伏 祐介 (理学療法士) 鈴木栄三郎 (理学療法士)
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	赤塚 清矢：研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬外希子：研究室23 tishiguri@yachts.ac.jp 室伏 祐介：研究室40 ymurofushi@yachts.ac.jp 鈴木栄三郎：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp
備考	実技が可能な服装で参加してください。

授業科目	理学療法評価学 I	科目英語表記	Physical Therapy Evaluation I		
職名、担当教員氏名	准教授 南澤 忠儀 講師 赤塚 清矢 講師 永瀬外希子 講師 鈴木栄三郎 助教 工藤 大輔				
科目責任者氏名	南澤 忠儀				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科－必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	中枢神経系に関連する各種検査測定について学習する。				
到達目標	ディプロマポリシー理学2／理学5に関連して ① 各種検査の意義を説明できる。 ② 各種検査測定方法を説明できる。 ③ 検査結果を適切に記録できる。				
成績評価方法	筆記試験100% 到達目標①・②・③を評価				
成績評価基準	到達目標①・②・③について以下により評価する。 特に優れている ; 各種検査測定に関する知識が十分にあり、記録も適切に行える。 優れている ; 各種検査測定に関する知識があり、記録も適切に行える。 良好である ; 各種検査測定に関する知識がある程度あり、おおむね記録も適切に行える。 最低限の到達 ; 各種検査測定に関する最低限の知識があり、記録もなんとか行える。 目標に到達していない ; 各種検査測定に関する知識がなく、記録も行えない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	神経学的検査の概論	神経学的検査の概要、目的、および手順について学習する。	講義	予習課題 教科書「理学療法評価学」総論について熟読しておいてください。	南澤忠儀
2	バイタルサイン	リスク管理としてのバイタルサインについて学習する。	講義、演習	予習課題 教科書「理学療法評価学」第2章：バイタルサインについて予習しておいてください。 復習課題 授業内容の振り返りの提出	鈴木栄三郎
3	反射の診かた	反射（腱反射、病的反射、表在反射）の機序と検査の意義、目的、手順を学習し、疾患の病態を理解する。	講義、演習	予習課題 教科書「理学療法評価学」第8章：深部腱反射・病的反射について予習しておいてください。	南澤忠儀
4	知覚検査	知覚検査の手順、注意事項、検査方法、解釈について、実技を交えながら講義を行う。	講義、演習	予習課題 教科書「理学療法評価学」第7章：知覚検査について予習しておいてください。 復習課題 授業内容の振り返りの提出	永瀬外希子
5	脳神経検査	脳神経検査の目的、手順を学習する。	講義、演習	予習課題 教科書「理学療法評価学」第19章：脳神経検査について予習しておいてください。 復習課題 授業内容の振り返りの提出	鈴木栄三郎
6	協調性検査	四肢体幹の運動失調検査	講義、演習	予習課題 教科書「理学療法評価学」第	赤塚清矢

				17章：協調性検査を予習しておいてください。 復習課題 授業内容の振り返りの提出	
7	片麻痺機能検査 (Brunstrom test)	片麻痺の運動機能や回復過程、特徴を解説する。 片麻痺機能検査であるBrunstrom testの評価方法と判定について、実技を交えながら講義を行う。	講義、演習	予習課題 教科書「理学療法評価学」第18章：片麻痺機能検査について予習しておいてください。 復習課題 授業内容の振り返りの提出	永瀬外希子
8	片麻痺機能検査 (12段階式片麻痺機能テスト、脳卒中機能評価法)	片麻痺機能検査である12段階式片麻痺機能テストおよび脳卒中機能評価法の評価方法と判定について、実技を交えながら講義を行う。	講義、演習	予習課題 教科書「理学療法評価学」第18章：片麻痺機能検査について予習しておいてください。 復習課題 授業内容の振り返りの提出	永瀬外希子
9	錐体外路疾患の診かた	錐体路徴候パーキンソン病、パーキンソン症候群を伴う関連疾患、不随意運動	講義	予習課題 教科書「病気がみえる」神経変性疾患 (p.340-345) を熟読しておいてください。	南澤忠儀
10	疼痛評価	VAS、NRS、フェイススケールなどの評価方法を学習する。	講義、演習	予習課題 教科書「理学療法評価学」第6章：痛みの評価について予習しておいてください。	南澤忠儀
11	筋緊張検査	Modified Ashworth Scale等の筋緊張評価について学習する。	講義、演習	予習課題 教科書「理学療法評価学」第10章：筋トーン検査について予習しておいてください。	南澤忠儀
12	バランス評価	バランス障害について理解し、その検査法および評価法を学習する。	講義、演習	予習課題 教科書「理学療法評価学」第9章：バランステストについて予習しておいてください。 復習課題 授業内容の振り返りの提出	工藤大輔
13	高次脳機能検査	失語、失行、失認および認知機能の検査の意義、目的、方法を学ぶ。	講義、演習	予習課題 教科書「理学療法評価学」第20章：高次脳機能検査について予習しておいてください。	南澤忠儀
14	包括的演習①	本講義でこれまで学習した内容を踏まえてケーススタディを行なう。	講義、演習	予習課題 事前に配布する資料を熟読しておいてください。	南澤忠儀
15	包括的演習②	本講義でこれまで学習した内容を踏まえてケーススタディを行なう。	講義、演習	予習課題 事前に配布する資料を熟読しておいてください。	南澤忠儀

日付

6.4.8 (月) 4
6.4.15 (月) 4
6.4.22 (月) 4
6.5.13 (月) 4
6.5.20 (月) 4
6.5.27 (月) 4
6.6.3 (月) 4
6.6.10 (月) 4
6.6.17 (月) 4
6.6.24 (月) 4
6.7.1 (月) 4
6.7.8 (月) 4
6.7.22 (月) 4
6.7.23 (火) 4
6.7.29 (月) 4

教科書	病気がみえる vol.7 脳・神経, 医療情報科学研究所 (編), メディックメディア 理学療法評価学 (第6版補訂版), 松澤正・江口勝彦 (著), 金原出版
参考書	ベッドサイドの神経の診かた, 田崎義昭・斎藤佳雄 (著), 坂井文彦 (改), 南山堂 PT・OTのための測定評価シリーズ 7 片麻痺機能検査・協調性検査, 伊藤俊一 (監), 三輪書店

ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	南澤：研究室18 tminamisawa@yachts.ac.jp 赤塚：研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬：研究室23 tishiguri@yachts.ac.jp 鈴木(栄)：理学・作業共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp 工藤：理学・作業共同研究室 dkudo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	理学療法評価学Ⅱ	科目英語表記	Physical Therapy Evaluation II		
職名、担当教員氏名	准教授 南澤 忠儀 講師 永瀬 外希子 講師 室伏 祐介				
科目責任者氏名	南澤 忠儀				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科－必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	理学療法を実施するための情報収集、評価結果の統合と解釈、問題点の抽出、プログラム立案、効果判定の一連の手順について、論理的思考を基にした臨床推論能力を身につける為の講義を行なう。				
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学2／理学5に関連して ① 症例に即した評価項目の選択ができる。 ② 評価結果の解釈および問題点の抽出ができる。 ③ 目標設定、治療プログラム作成までの過程を、障害構造モデルを用いながら実践することができる。				
成績評価方法	課題レポート30% 到達目標②・③を評価 筆記試験 70% 到達目標①・②・③を評価				
成績評価基準	<p>筆記試験 到達目標①～③</p> <p>特に優れている : 適切で十分な根拠をふまえて、論理的に説明できる。 優れている : 根拠をふまえて、論理的に説明できる。 良好である : 根拠を用いて、ある程度論理的に説明できる。 最低限の到達 : 根拠は乏しいが、ある程度論理的に説明できる。 目標に到達していない : 説明できない。</p> <p>課題レポート 到達目標②③</p> <p>特に優れている : 課題内容の理解、論理構成、表現、国内外雑誌の引用が十分整ったレポートを作成することができる。 優れている : 課題内容の理解、論理構成、表現、国内外雑誌の引用が概ね整ったレポートを作成することができる。 良好である : 課題内容の理解、論理構成、表現、国内外雑誌の引用がある程度整ったレポートを作成することができる。 最低限の到達 : 課題内容の理解、論理構成、表現、国内外雑誌の引用が一部不十分だが、レポートを作成することができる。 目標に到達していない : レポートの作成ができない。</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	理学療法評価の目的	理学療法評価の目的について学ぶ。	講義	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀
2	障害構造の分析法	障害構造モデルを用いた理学療法評価過程を学ぶ。	講義および演習	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀
3	理学療法評価方法と情報収集	理学療法実施に必要な評価項目の選択方法とその評価の意義を学ぶ。	講義および演習	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀
4	統合と解釈、問題点の抽出、目標設定、プログラムの立案方法	理学療法評価から得られた情報を基に統合と解釈、プログラム立案までの学習を行なう。	講義	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀
5	Paper patientによる臨床推論	急性期、回復期、外来、在宅などの場面を想定して、事例を通して臨床推論を学ぶ。	講義および演習	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀
6	Paper patientによる臨床推論	急性期、回復期、外来、在宅などの場面を想定して、事例を通して臨床推論を学ぶ。	講義および演習	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀
7	診療記録・ケースレポートの作成方法	症例報告書作成法および診療記録法について学ぶ。	講義および演習	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀

8	診療記録・ケースレポートの作成方法	症例報告書作成法および診療記録法について学ぶ。	講義および演習	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀
9	歩行分析による理学療法評価①	歩行分析の方法、異常歩行のメカニズムについて学習する。	講義	予習 正常歩行について復習しておいてください。 復習 振り返りシートの提出	室伏 祐介
10	歩行分析による理学療法評価②	変形性膝関節症症例の異常歩行の分析を実際に行い、異常歩行について学習する。	講義	予習 変形性膝関節症についての復習をしておいてください。 復習 振り返りシートの提出	室伏祐介
11	歩行分析による理学療法評価③	変形性股関節症の異常歩行について実際に分析を行い、異常歩行について学習する。	講義	予習 変形性股関節症について復習をしておいてください。 復習 振り返りシートの提出	室伏 祐介
12	歩行分析による理学療法評価④	人工膝関節全置換術後症例の動作分析を実際に行い、異常歩行について学習する。	講義	予習 人工膝関節全置換術について調べておいてください 復習 振り返りシートの提出	室伏 祐介
13	論理的思考を基にした臨床推論の実践	実在する脳卒中片麻痺症例について、歩行、寝返り、起き上がり、立ち上がり動作の動画を見て、問題点や理学療法評価項目を検討する演習を行う。	演習、グループワーク、発表	予習課題 教科書「理学療法評価学」第18章：片麻痺機能検査、巻末：臨床応用1 脳卒中片麻痺について予習しておいてください。 復習課題 授業内容の振り返りの提出	永瀬外希子
14	脳卒中片麻痺事例における理学療法の進め方	実在する脳卒中片麻痺症例が行う理学療法評価（SIAS）の動画および評価結果の情報を得たうえで、問題点の抽出やプログラムを立案する演習を行う。	演習、グループワーク、発表	予習課題 教科書「理学療法評価学」第18章：片麻痺機能検査、巻末：臨床応用1 脳卒中片麻痺について予習しておいてください。 復習課題 授業で提示した症例の報告書をまとめて、後日提出してください。	永瀬外希子
15	症例ノートのまとめ方	各自作成した症例報告書を振り返り、症例ノートのまとめ方などについて演習する。	講義および演習	予習課題 自分が作成した症例報告書を振り返り、さらに相手にわかりやすく伝えるために工夫できることはないかを考えてください。 復習課題 授業内容の振り返りの提出	永瀬外希子

日付

6.5.29 (水) 4・5
6.6. 5 (水) 1・2
6.6.12 (水) 1・2
6.6.19 (水) 1・2
6.6.26 (水) 1・2
6.7. 3 (水) 1・2
6.7.17 (水) 1・2
6.7.24 (水) 2

教科書	理学療法評価学（第6版補訂版）、松澤正、江口勝彦（著）、金原出版
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5

先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	南澤 忠儀 18研究室 tminamisawa@yachts.ac.jp 永瀬外希子 23研究室 tishiguri@yachts.ac.jp 室伏 祐介 40研究室 ymurofushi@yachts.ac.jp
備考	第15回の授業では、前回自分が作成した症例報告書と症例に関する資料を持参してください。

授業科目	生体計測学演習		科目英語表記	Biomechanical Measurement & Science		
職名、担当教員氏名	教授 加藤 浩 准教授 南澤 忠儀 講師 赤塚 清矢 講師 永瀬外希子 講師 室伏 祐介 講師 鈴木栄三郎 助教 工藤 大輔					
科目責任者氏名	加藤 浩					
学内連絡教員氏名						
学科/分野	理学療法学科	学年	3年			
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科一必修			
授業形態	講義/演習	開講時期	後期	単位数	1単位	
授業概要	筋電図、経頭蓋磁気刺激法、三次元動作解析装置、床反力計、重心動揺計、筋トルク測定機器、超音波測定装置等を用いた評価方法とその意義について学習する。グループワークを通して、テーマの選択から実際の計測、データ解析、プレゼンテーションまでを経験する。					
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学2/理学5に関連して ① 計測機器を用いた評価方法とその意義を理解し、かつ実践し実験の概略ならびに得られた結果を科学的手法により分析検討できる。 ② 計測機器を用いた評価方法とその意義を理解し、かつ実践し実験の概略ならびに得られた結果を科学的手法により分析検討しプレゼンテーションできる。					
成績評価方法	第1～7回までの講義		課題レポート：50%	[到達目標 ①を評価]		
	第8～15回までの講義		授業内でのプレゼンテーション：50%	[到達目標 ②を評価]		
成績評価基準	到達目標 ① 特に優れている：課題内容の理解、論理構成、表現（文字の正確さ）、引用が十分なレポートを作成することができる。 優れている：課題内容の理解、論理構成、表現（文字の正確さ）、引用が概ね十分なレポートを作成することができる。 良好である：課題内容の理解、論理構成が概ね十分なレポートを作成することができる。 最低限の到達：課題内容の理解、論理構成が一部不十分だが、ある程度体裁の整ったレポートを作成することができる。 目標に到達していない：レポートの作成ができない。					
	到達目標 ② 特に優れている：課題内容を理解し、構成力、表現力、説得力が十分なプレゼンテーションができる。 優れている：課題内容を理解し、構成力、表現力、説得力が概ね十分なプレゼンテーションができる。 良好である：課題内容を理解し、構成力、表現力、説得力がある程度十分なプレゼンテーションができる。 最低限の到達：課題内容を理解し、一部不適切な部分はあるが、プレゼンテーションができる。 目標に到達していない：プレゼンテーションできない。					

授業計画						
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員	
1	オリエンテーション及び表面筋電図解析の基礎	オリエンテーション及び表面筋電図の整流処理方法について学びます。	講義（聴講型） 演習	予習課題 本講義は表面筋電図の知識が必要です。参考図書（臨床にいかす表面筋電図）等で予習しておいて下さい。	加藤 浩	
2	表面筋電図解析の基礎	表面筋電図の積分解析及び移動平均（ARV）の方法について学びます。	演習	予習課題 本講義は表面筋電図の知識が必要です。参考図書（臨床にいかす表面筋電図）等で予習しておいて下さい。	加藤 浩	
3	表面筋電図解析の応用	歩行時のサンプルデータを用いて歩行周期を100%にしたEMGグラフ作成の方法を学びます。	演習	予習課題 本講義は表面筋電図の知識が必要です。参考図書（臨床にいかす表面筋電図）等で予習しておいて下さい。 復習課題 講義終了時に課題テーマを発表しますので、課題内容に沿ってレポートを提出してください。	加藤 浩	

4	経頭蓋磁気刺激法の基礎	経頭蓋磁気刺激法の概要、運動誘発電位、磁気刺激の種類などの基本的な知識について学びます。	講義（聴講型） 演習	予習課題 本講義は経頭蓋磁気刺激法の知識が必要です。参考図書（リハビリテーションのための臨床神経生理学）等で予習しておいて下さい。 復習課題 課題レポートの提出	工藤 大輔
5	経頭蓋磁気刺激法による脳機能計測	経頭蓋磁気刺激法による脳機能計測の基本的な知識と技術を学びます。	演習	予習課題 本講義は経頭蓋磁気刺激法の知識が必要です。参考図書（リハビリテーションのための臨床神経生理学）等で予習しておいて下さい。 復習課題 課題レポートの提出	工藤 大輔
6	三次元動作解析と関節モーメント	三次元動作解析と関節モーメントに関する基本的な知識と技術を学ぶ。	講義（聴講型） 演習	復習課題 課題レポートの提出	南澤 忠儀
7	三次元動作解析と関節モーメント	三次元動作解析と関節モーメントに関する基本的な知識と技術を学ぶ。	演習	復習課題 課題レポートの提出	南澤 忠儀
8	等速性筋力測定 徒手筋力計 超音波検査 重心動揺計 パフォーマンステスト	グループワーク 筋機能やバランス機能に関連する各種計測を実施し、全員の測定結果を基に各項目間の関連性などを検討する。	グループワーク 演習	復習課題 次回のためにデータを整理する。	赤塚 清矢 室伏 祐介 永瀬 外希子 鈴木 栄三郎
9	等速性筋力測定 徒手筋力計 超音波検査 重心動揺計 パフォーマンステスト	グループワーク 筋機能やバランス機能に関連する各種計測を実施し、全員の測定結果を基に各項目間の関連性などを検討する。	グループワーク 演習	復習課題 次回のためにデータを整理する。	赤塚 清矢 室伏 祐介 永瀬 外希子 鈴木 栄三郎
10	等速性筋力測定 徒手筋力計 超音波検査 重心動揺計 パフォーマンステスト	グループワーク 筋機能やバランス機能に関連する各種計測を実施し、全員の測定結果を基に各項目間の関連性などを検討する。	グループワーク 演習	復習課題 次回のためにデータを整理する。	赤塚 清矢 室伏 祐介 永瀬 外希子 鈴木 栄三郎
11	等速性筋力測定 徒手筋力計 超音波検査 重心動揺計 パフォーマンステスト	グループワーク 筋機能やバランス機能に関連する各種計測を実施し、全員の測定結果を基に各項目間の関連性などを検討する。	グループワーク 演習	復習課題 次回のためにデータを整理する。	赤塚 清矢 室伏 祐介 永瀬 外希子 鈴木 栄三郎
12	発表テーマ検討 データ解析	グループワーク 前回計測したデータを用い、グループのテーマを決定し、データ解析を行う。	グループワーク	復習課題 各班で与えられた課題の測定結果をまとめ、スライドを作成する。	赤塚 清矢 室伏 祐介 永瀬 外希子 鈴木 栄三郎
13	発表テーマ検討 データ解析	グループワーク 前回計測したデータを用い、グループのテーマを決定し、データ解析を行う。	グループワーク	復習課題 各班で与えられた課題の測定結果をまとめ、スライドを作成する。	赤塚 清矢 室伏 祐介 永瀬 外希子 鈴木 栄三郎
14	グループワーク発表会	実験の概略ならびに得られた結果を、スライドを用いたプレゼンテーションにて発表する。	プレゼンテーション 講義（議論型）	予習課題 発表の準備をする。	赤塚 清矢 室伏 祐介 永瀬 外希子 鈴木 栄三郎
15	グループワーク発表会	実験の概略ならびに得られた結果を、スライドを用いたプレゼンテーションにて発表する。	プレゼンテーション 講義（議論型）	予習課題 発表の準備をする。	赤塚 清矢 室伏 祐介 永瀬 外希子 鈴木 栄三郎
日付					

教科書	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床にいかす表面筋電図, 加藤浩、他(編), 医学書院 ・計測法入門 計り方・計る意味, 内山靖、他(編), 協同医書出版社 ・観察による歩行分析, 月城慶一、他(訳), 医学書院 ・リハビリテーションのための臨床神経生理学, 正門由久(編著), 中外医学社
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	加藤 浩 : 研究室36 hikato@yachts.ac.jp 南澤 忠儀 : 研究室18 tminamisawa@yachts.ac.jp 赤塚 清矢 : 研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬 外希子 : 研究室23 tishiguri@yachts.ac.jp 室伏 祐介 : 研究室40 ymurofushi@yachts.ac.jp 鈴木 栄三郎 : 理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp 工藤 大輔 : 理作共同研究室 dkudo@yachts.ac.jp
備考	種々の機器を用いた評価・研究法に関する講義と実習を行うので、実習可能な服装で臨むこと。発表会におけるテーマに関しては各グループで検討し決定する。

授業科目	筋骨格系理学療法学Ⅰ	科目英語表記	Musculoskeletal Physical Therapy II		
職名、担当教員氏名	講師 室伏 祐介 教授 鈴木 克彦 教授 加藤 浩 教授 村 成幸				
科目責任者氏名	室伏 祐介				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科Ⅰ-必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	理学療法士が臨床場面で触れることの多い股・膝・肩関節疾患を取り上げ、これらの疾患を有する症例や術後患者に対する理学療法評価と治療に関して講義および実技を通して教授する。リスク管理や理学療法治療・指導の根拠となるバイオメカニクスについても説明を加える。				
到達目標	ディプロマ・ポリシー-理学2/理学5に関連して ① 肩・股・膝関節疾患の病態ならびに障がい像を説明できる。 ② 肩・股・膝関節疾患に対する必要な評価項目と、理学療法の進め方を説明できる。 ③ 疼痛を有する患者への基本的な触れ方や関節の動かし方を、健常者を対象に実施・説明することができる。 ④ 機能障がいに対する問題点を列挙し、必要となる理学療法推論を説明することができる。				
成績評価方法	期末試験 100% 到達目標①・②・③・④				
成績評価基準	到達目標 ①～④ 特に優れている : 適切で十分な根拠を踏まえて、疾患や理学療法について十分な説明ができる 優れている : 適切な根拠を踏まえて、疾患や理学療法について説明できる 良好である : 根拠を踏まえて、疾患や理学療法についてある程度説明できる 最低限の到達 : 根拠は乏しいが、ある程度疾患や理学療法について説明できる 目標に到達していない : 説明できない				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	組織修復と治癒過程・骨折について	組織修復と治癒過程・骨折に関する総論を講義します。	講義	予習課題 運動器疾患の理学療法の基礎となるため教科書（Crosslink 運動器障害理学療法学）の第1章各論 2. 組織修復・治癒過程総論（pp16～）を予習しておいてください。 復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	鈴木克彦
2	膝靭帯・半月板損傷や膝蓋大腿関節障害について	疾患総論に関する講義	講義・演習	予習 靭帯損傷について調べてくること 復習 振り返りシートの作成	室伏
3	膝靭帯・半月板損傷や膝蓋大腿関節障害に対する理学療法	膝靭帯損傷後の理学療法について説明する。	講義・演習	予習 半月板損傷について調べてくること 復習 振り返りシートの作成	室伏
4	半月板損傷や膝蓋大腿関節障害に対する理学療法について説明する。	膝靭帯・半月板損傷や膝蓋大腿関節障害の理学療法プログラムについての学習	講義・演習	予習 膝蓋大腿関節障害について調べてくること 復習 振り返りシートの作成	室伏
5	変形性膝関節症・人工膝関節置換術後の理学療法①	変形性膝関節症の病態を概説します。その後、理学療法評価、治療方法について実技を交えながら講義を行います。	講義＋実技実習	予習課題 変形性膝関節症をより深く理解するために教科書（Crosslink 運動器障害理学療法学）の第2章各論 5. 変	加藤 浩

				形性膝関節症 (pp240～) を予習しておいて下さい。	
6	変形性膝関節症・人工膝関節置換術後の理学療法②	変形性膝関節症に対する理学療法評価、治療方法について実技を交えながら講義を行います。	講義+実技実習	予習課題 変形性膝関節症をより深く理解するために教科書 (Crosslink 運動器障害理学療法学)の第2章各論 5, 変形性膝関節症 (pp240～) を予習しておいて下さい。 復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	加藤 浩
7	変形性股関節症の理学療法①	変形性股関節症の病態を概説します。その後、変形性股関節症に対する理学療法評価、治療方法について実技を交えながら講義を行います。	講義+実技実習	予習課題 変形性股関節症をより深く理解するために教科書 (Crosslink 運動器障害理学療法学)の第2章各論 4, 変形性股関節症 (pp190～) を予習しておいて下さい。	加藤 浩
8	変形性股関節症の理学療法②	変形性股関節症に対する筋緊張の評価や疼痛評価の方法について実技を交えながら講義を行います。	講義+実技実習	予習課題 変形性股関節症をより深く理解するために教科書 (Crosslink 運動器障害理学療法学)の第2章各論 4, 変形性股関節症 (pp190～) を予習しておいて下さい。	加藤 浩
9	変形性股関節症の理学療法③	変形性股関節症の疼痛に対する治療方法について実技を交えながら講義を行います。	講義+実技実習	予習課題 変形性股関節症をより深く理解するために教科書 (Crosslink 運動器障害理学療法学)の第2章各論 4, 変形性股関節症 (pp190～) を予習しておいて下さい。 復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	加藤 浩
10	大腿骨近位部骨折および人工股関節置換術後の理学療法	大腿骨近位部骨折後の理学療法について説明する。	講義・演習	予習 大腿骨近位部骨折についての復習をしてくる。 復習 振り返りシートの提出	室伏
11	大腿骨近位部骨折および人工股関節置換術後の理学療法	人工股関節全置換術後の理学療法評価・治療について講義・演習を行う。	講義・演習	予習 人工股関節全置換術について調べてくる 復習 振り返りシートの作成	室伏
12	肩関節周囲炎、腱板断裂、肩関節脱臼の理学療法	総論・画像・手術に関する講義	肩関節の代表的疾患、外傷の病態、治療についてスライドを通して理解する。 手術法については、動画・スライドで学習する。	運動器障がい論の肩のプリントを復習してください。	村
13	肩関節周囲炎、腱板断裂、肩関節脱臼の理学療法	疾患の障害像の特徴を明示し、理学療法評価について実技を交えて講義する。	講義・実技実習	予習課題 肩関節疾患をより深く理解するために教科書 (Crosslink 運動器障害理学療法学)の第2章各論 6-1肩関節周囲炎 6-2腱板断裂 (pp276～) を予習しておいてください。 復習課題 講義内容の振り返りシートを提出してください。	鈴木克彦
14	肩関節周囲炎、腱板断裂、肩関節脱臼の理学療法	肩関節周囲炎症例を提示し、評価・問題点抽出・治療について討論し、必要に応じて実技を交えて講義する。	演習・講義・実技実習	予習課題 前回の授業内容を復習しておいてください。 復習課題 肩関節周囲炎症例について振	鈴木克彦

				り返りシートを提出してください。	
15	肩関節周囲炎、腱板断裂、肩関節脱臼の理学療法	疾患に対する理学療法治療理論について実技を交えて講義する。	講義・実技実習	レポート課題 授業最後に復習課題を配布しますので、内容をまとめて後日提出してください。	鈴木克彦

日付
6.11.22 (金) 3 6.11.29 (金) 3・4・5 6.12. 6 (金) 3・4 6.12.13 (金) 3・4・5 6.12.20 (金) 3・4・5 7. 1.10 (金) 3・4・5

教科書	Crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学, 加藤浩 (編), メジカルビュー社
参考書	理学療法NAVI “臨床思考”が身につく運動療法Q&A, 高橋哲也 (編), 医学書院 骨関節障害理学療法学, 対馬栄輝・有馬慶美 (編), 文光堂
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	室伏：研究室40 ymurofushi@yachts.ac.jp 鈴木：研究室31 ksuzuki@yachts.ac.jp 加藤：研究室36 hikato@yachts.ac.jp 村：研究室35 nmura@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	筋骨格系理学療法Ⅱ	科目英語表記	Musculoskeletal Physical Therapy I		
職名、担当教員氏名	教授 鈴木 克彦 講師 赤塚 清矢 講師 永瀬外希子				
科目責任者氏名	鈴木 克彦				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科－必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	理学療法士が臨床現場で関わることが多い疾患に対する理学療法評価と治療に関して講義および演習を通して教授する。				
到達目標	ディプロマポリシー理学2／理学5に関連して ① 疾患の病態と障害像を説明できる。 ② 必要な理学療法評価を列挙し、治療理論を論理的に説明できる。 ③ 機能障がいに対する問題点を列挙し、必要となる理学療法推論を説明できる。				
成績評価方法	筆記試験 100% 到達目標①・②・③を評価				
成績評価基準	到達目標①・②・③ 疾患の病態・障害像・評価項目・治療項目・臨床推論を説明できる。 特に優れている ; 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる。 優れている ; 根拠をふまえて論理的に説明できる。 良好である ; 根拠を用いてある程度論理的に説明できる。 最低限の到達 ; 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる。 目標に到達していない ; 説明できない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	関節リウマチの概要および治療の種類と特徴	関節リウマチの概要および治療の種類と特徴について講義を行います。	事前学習型授業（講義）	予習課題 教科書の第2章・10関節リウマチ①疾患の概要②治療の種類と特徴を予習しておいて下さい。 復習課題 授業内容の振り返りの提出	赤塚清矢
2	関節リウマチの理学療法評価および治療	関節リウマチの理学療法評価および治療について、実技を交えながら講義を行います。	事前学習型授業（講義）＋演習	予習課題 教科書の第2章・10関節リウマチ③理学療法評価④理学療法プログラムを予習しておいて下さい。 復習課題 授業内容の振り返りの提出	赤塚清矢
3	脊髄損傷の病態、主症状、予後予測	脊髄損傷の病態と障害像の特徴、予後予測について、視聴覚教材を活用しながら講義を行います。	事前体験型授業（講義）	予習課題 2年後期「運動器障がい論」教科書（標準整形外科学）の脊髄疾患について復習しておいてください。 復習課題 授業内容の振り返りの提出	永瀬外希子
4	脊髄損傷の随伴症状、理学療法評価および治療	脊髄損傷の随伴症状、理学療法評価および治療について、視聴覚教材を活用しながら講義を行います。	事前体験型授業（講義）	予習課題 2年後期「生活支援系理学療法Ⅰ」教科書（PT・OTビジュアルテキスト ADL）の脊髄疾患について復習しておいてください。 復習課題 授業内容の振り返りの提出	永瀬外希子

5	脊髄損傷者に対する実践的な理学療法評価および治療	脊髄損傷者に対する実践的な理学療法評価および治療について実技や動画を交えながら講義を行います。	事前体験型授業（講義）＋演習	予習課題 当科目の第3回、第4回で実施した脊髄損傷の内容を復習しておいてください。 3年前期「生活支援系理学療法Ⅱ」脊髄損傷者のADLについて復習しておいてください。 復習課題 授業内容の振り返りの提出	永瀬外希子
6	脊髄損傷者の基本動作やADLの特徴	脊髄損傷者の基本動作やADLの特徴を捉えるために、実技や動画を交えながら講義を行います。	事前体験型授業（講義）＋演習	予習課題 当科目の第3回、第4回で実施した脊髄損傷の内容を復習しておいてください。 3年前期「生活支援系理学療法Ⅱ」脊髄損傷者のADLについて復習しておいてください。 復習課題 授業内容の振り返りの提出	永瀬外希子
7	腰部疾患の理学療法評価	非特異的腰痛、腰部椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症の病態と障害像の特徴を明示し、実践的な理学療法評価方法について実技を交えながら講義を行います。	事前学習型授業（講義）＋演習	予習課題 本講義は非特異的腰痛、腰部椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症の知識が必要です。教科書の第2章・7 腰部・脊椎疾患；①疾患の概要、③理学療法評価の該当ページを予習しておいて下さい。	鈴木克彦
8	腰部疾患の理学療法治療理論と実践	非特異的腰痛、腰部椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症の実践的な理学療法治療戦略について実技を交えながら講義を行います。	事前学習型授業（講義）＋演習	予習課題 本講義は非特異的腰痛、腰部椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症の知識が必要です。教科書の第2章・7 腰部・脊椎疾患；④理学療法プログラムの該当ページを予習しておいて下さい。	鈴木克彦
9	腰部疾患の症例検討	代表的な腰部疾患症例の理学療法評価および治療理論について臨床推論を深めるグループディスカッションを行います。	討論＋演習	予習課題 本講義は非特異的腰痛、腰部椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症の知識をもとに症例検討を行います。これまでの第7回と第8回の内容を復習しておいて下さい。 復習課題 講義内容の振り返りシートを提出して下さい。	鈴木克彦
10	頸部疾患の理学療法評価および治療	頸椎性脊髄症、頸椎性神経根症の病態と障害像の特徴を明示し、理学療法評価方法および治療戦略について実技を交えながら講義を行います。	事前学習型授業（講義）＋演習	予習課題 本講義は頸椎性脊髄症、頸椎性神経根症の知識が必要です。教科書の第2章・7 腰部・脊椎疾患；①疾患の概要、③理学療法評価の該当ページを予習しておいて下さい。 復習課題 講義内容の振り返りシートを提出して下さい。	鈴木克彦
11	上肢の骨折の理学療法	代表的な上肢の骨折の障害像の特徴を明示し、理学療法評価方法および治療戦略について実技を交えながら講義を行います。	事前学習型授業（講義）＋演習	予習課題 本講義は上肢の骨折の知識が必要です。教科書の第2章・1 上肢（上肢帯）の骨折；①疾患の概要、②評価と治療を予習しておいて下さい。 復習課題 講義内容の振り返りシートを提出して下さい。	鈴木克彦

12	末梢神経損傷の理学療法	代表的な末梢神経損傷の障害像の特徴を明示し、理学療法評価方法および治療戦略について講義を行います。	事前学習型授業（講義）	予習課題 本講義は上肢・下肢の末梢神経損傷の知識が必要です。事前に配布する参考資料を予習しておいて下さい。 復習課題 講義内容の振り返りシートを提出して下さい。	鈴木克彦
13	足関節・足部疾患の理学療法評価および治療	足関節捻挫、アキレス腱断裂、足関節果部骨折、踵骨骨折の障害像の特徴を明示し、実践的な理学療法評価方法について実技を交えながら講義を行います。	事前学習型授業（講義）＋演習	予習課題 本講義は足関節捻挫、アキレス腱断裂、足関節果部骨折、踵骨骨折の知識が必要です。教科書の第2章・9 足部・足関節疾患；①疾患の概要、②理学療法評価の該当ページを予習しておいて下さい。	鈴木克彦
14	足関節・足部疾患の理学療法評価および治療	足関節捻挫、アキレス腱断裂、足関節果部骨折、踵骨骨折の障害像の特徴を明示し、実践的な理学療法治療戦略について実技を交えながら講義を行います。	事前学習型授業（講義）＋演習	予習課題 本講義は足関節捻挫、アキレス腱断裂、足関節果部骨折、踵骨骨折の知識が必要です。教科書の第2章・9 足部・足関節疾患；③理学療法・装具療法プログラムの該当ページを予習しておいて下さい。	鈴木克彦
15	足関節・足部疾患の理学療法評価および治療	代表的な足関節・足部疾患症例の理学療法評価および治療理論について臨床推論を深めるグループディスカッションを行います。	討論＋演習	予習課題 本講義は足関節捻挫、アキレス腱断裂、足関節果部骨折、踵骨骨折の知識をもとに症例検討を行います。これまでの第13回と第14回の内容を復習しておいて下さい。 復習課題 講義内容の振り返りシートを提出して下さい。	鈴木克彦

日付

6.5.27 (月) 1・2
6.6. 3 (月) 1・2
6.6.10 (月) 1・2
6.6.17 (月) 1・2
6.6.24 (月) 1・2
6.7. 1 (月) 1・2
6.7. 8 (月) 1・2・3

教科書	Crosslink理学療法テキスト 運動器障害理学療法学, 加藤浩 (編), メジカルビュー社
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	

教員の連絡先	鈴木克彦：研究室31 ksuzuki@yachts.ac.jp 赤塚清矢：研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬外希子：研究室23 tishiguri@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	筋骨格系理学療法学特別講義	科目英語表記	Advanced Musculoskeletal Physical Therapy		
職名、担当教員氏名	教授 加藤 浩 講師 永瀬外希子 非常勤講師 大浦 徹男				
科目責任者氏名	加藤 浩				
学内連絡教員氏名	非常勤講師 大浦 徹男先生（学内連絡担当：鈴木 克彦） スポット非常勤講師 小泉 圭介先生（学内連絡担当：室伏 祐介）				
学科／分野	理学療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科－選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	① 運動器疾患を有する患者の歩行の特徴と臨床での観察・分析方法を教授する。 ② 筋骨格系理学療法学Ⅰ、Ⅱの授業で取り扱わなかった疾患等に対する理学療法について、講義・実技を行う。				
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学2／理学5に関連して ① 代表的な運動器疾患々々の歩行上の特徴を説明できる。 ② スポーツ分野の理学療法士の役割、足部スポーツ外傷に対する理学療法評価と治療理論を説明できる。 ③ ウィメンズヘルスにおける理学療法の関わりかた、特徴を説明できる。				
成績評価方法	筆記試験（期末）：100% [到達目標①・②・③を評価]				
成績評価基準	到達目標①・②・③ 特に優れている : 論理的に正しく、かつ明確に十分説明できる。 優れている : 論理的に正しく、かつ明確に概ね説明できる。 良好である : 論理的に正しく、概ね説明できる。 最低限の到達 : 一部不十分な所もあるが、ある程度説明できる。 目標に到達していない : 説明できない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	運動連鎖からみた下肢運動器疾患の理学療法評価	下肢運動器疾患の異常歩行の分析から障害像の特徴を明示し、実践的な理学療法評価方法について実技を交えながら、講義を行います。	講義（聴講型） 実技実習	予習課題 本講義は多関節運動連鎖の知識が必要です。参考図書（多関節運動連鎖からみた変形性関節症の保存療法）等で予習しておいて下さい。	加藤 浩
2	運動連鎖からみた下肢運動器疾患の理学療法治療戦略	下肢運動器疾患の異常歩行の分析から障害像の特徴を明示し、実践的な理学療法治療戦略について実技を交えながら、講義を行います。	講義（聴講型） 実技実習	予習課題 本講義は多関節運動連鎖の知識が必要です。参考図書（多関節運動連鎖からみた変形性関節症の保存療法）等で予習しておいて下さい。 復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	加藤 浩
3	ウィメンズヘルス	ウィメンズヘルスにおける理学療法について説明し、実践的な理学療法治療について実技を交えながら、講義を行います。	講義（聴講型） 実技実習	予習課題 日本理学療法士協会ホームページ>刊行物>理学療法ハンドブック10（女性のライフステージ）をみて予習しておいてください。 https://www.japanpt.or.jp/assets/pdf/activity/books/handbook10_whole_210308.pdf 復習課題 授業内容の振り返りの提出	永瀬 外希子
4	アスレチックリハビリテーション①	トレーナーの役割やアスレチックリハビリテーションについての講義を行います。	講義（聴講型）	予習課題 本講義はスポーツ理学療法学の知識が必要です。参考図書（スポーツ理学療法学）等で予習しておいて下さい。	スポット 東都大学 小泉 圭介

5	アスレチックリハビリテーション②	スポーツ現場で行っているスポーツ理学療法について実技を交えて講義をします。	講義（聴講型） 実技実習	予習課題 本講義はスポーツ理学療法学の知識が必要です。参考図書（スポーツ理学療法学）等で予習しておいて下さい。 復習課題 講義内容の振り返りシートの提出。	スポット 東都大学 小泉 圭介
6	スポーツ外傷の理学療法①	スポーツ分野の理学療法士の役割と業務について実例を交えながら講義を行います。	講義（聴講型）	予習課題 本講義はスポーツ分野の理学療法の知識が必要です。参考図書（アスリートのリハビリテーションとリコンディショニング上巻・下巻）等で予習しておいて下さい。	大浦 徹男
7	スポーツ外傷の理学療法②	足部・足関節外傷後の競技復帰に向けたスポーツ理学療法について、実技を交えながら講義を行います。	講義（聴講型） 実技実習	予習課題 本講義はスポーツ外傷後の評価とプログラミング知識が必要です。参考図書（アスリートのリハビリテーションとリコンディショニング上巻・下巻）等で予習しておいて下さい。	大浦 徹男
8	スポーツ外傷の理学療法③	足関節内反捻挫を例に、理学療法評価に基づいた機能的なテーピングの考え方について、実技を交えながら講義を行います。	講義（聴講型） 実技実習	予習課題 本講義はテーピングの知識が必要です。参考図書（ファンクショナルテーピング）等で予習しておいて下さい。 復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	大浦 徹男

日付

教科書	
参考書	多関節運動連鎖からみた変形性関節症の保存療法－刷新的理学療法－，井原秀俊、他（編），全日本病院出版会 観察による歩行分析，月城慶一、他（訳），医学書院 アスリートのリハビリテーションとリコンディショニング上巻 外傷学総論/検査・測定と評価－リスクマネジメントに基づいたアプローチ，小林寛和（編），文光堂 アスリートのリハビリテーションとリコンディショニング下巻 プログラミングの実際と手法の活用－リスクマネジメントに基づいたアプローチ，小林寛和（編），文光堂 ファンクショナルテーピング，川野哲英（著），ブックハウスHD スポーツ理学療法学－動作に基づく外傷・障害の理解と評価・治療の進め方，陶山哲夫（監），赤坂清和（編），メジカルビュー社
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	加藤 浩 : 研究室36 hikato@yachts.ac.jp 永瀬 外希子 : 研究室23 tishiguri@yachts.ac.jp

	大浦 徹男 : 山形徳洲会病院 beima0316@gmail.com 小泉 圭介 : 東都大学 keisuke.koizumi@tohto.ac.jp
備考	

授業科目	神経系理学療法学Ⅰ		科目英語表記	Neurological Physical Therapy Ⅰ		
職名、担当教員氏名	准教授 南澤 忠儀 講師 永瀬外希子					
科目責任者氏名	南澤 忠儀					
学内連絡教員氏名						
学科／分野	理学療法学科	学年	2年			
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科Ⅰ-必修			
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	2単位	
授業概要	脳血管障害に対する理学療法について、基礎的な医学的知識やリスク管理を含めた各病期に応じた理学療法を教示する。					
到達目標	① 脳血管障害の病期に応じた基本的な理学療法の方法とリスク管理方法を説明できる。					
成績評価方法	筆記試験100% 到達目標①を評価					
成績評価基準	到達目標①に対して 特に優れている ; 適切で十分な根拠をふまえて、論理的に説明できる。 優れている ; 根拠をふまえて、論理的に説明できる。 良好である ; 根拠を用いて、ある程度論理的に説明できる。 最低限の到達 ; 根拠は乏しいが、ある程度論理的に説明できる。 目標に到達していない ; 説明できない。					

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	概論・病態	脳血管障害に対する理学療法 の概略を学習する。	講義	予習 事前に配布する資料を熟読 すること	南澤 忠儀
2	急性期の理学療法	急性期におけるリスク管理、 評価手順や評価項目および治 療法について学習する。	講義および演習	予習 事前に配布する資料を熟読す ること	南澤 忠儀
3	急性期の理学療法	急性期におけるリスク管理、 評価手順や評価項目および治 療法について学習する。	講義および演習	予習 事前に配布する資料を熟読す ること	南澤 忠儀
4	急性期の理学療法	急性期におけるリスク管理、 評価手順や評価項目および治 療法について学習する。	講義および演習	予習 事前に配布する資料を熟読す ること	南澤 忠儀
5	急性期の理学療法	急性期におけるリスク管理、 評価手順や評価項目および治 療法について学習する。	講義および演習	予習 事前に配布する資料を熟読す ること	南澤 忠儀
6	回復期の理学療法に おける目的や方法	回復期の理学療法について目 的や方法、回復過程などを視 聴覚教材を交えながら講義を 行う。	講義および演習	復習課題 授業内容の振り返りの提出	永瀬 外希子
7	回復期リハビリテー ションの実際	回復期の理学療法などについ て、視聴覚教材を交えながら 講義を行う。 片麻痺患者に対する理学療法 について、実技を交えながら 講義を行う。	講義および演習、実技	復習課題 授業内容の振り返りの提出	永瀬 外希子
8	回復期の理学療法	回復期の運動障害および高次 脳機能障害に対する介入方法 を学習する。	講義および演習	予習 事前に配布する資料を熟読す ること	南澤 忠儀
9	回復期の理学療法	回復期の運動障害および高次 脳機能障害に対する介入方法 を学習する。	講義および演習	予習 事前に配布する資料を熟読す ること	南澤 忠儀
10	早期離床にむけた理 学療法アプローチの 実際	画像所見と神経症状および予 後予測について学習する。	講義	予習 事前に配布する資料を熟読す ること	「スポット」今川 英俊

11	早期離床にむけた理学療法アプローチの実際	画像所見と神経症状および予後予測について学習する。		予習 事前に配布する資料を熟読すること	「スポット」今川 英俊
12	脳血管障害と画像所見	CT、MRIの見方を学習する。	講義	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀
13	起居動作の動作観察および動作分析	基本動作の分析方法について学習する。	講義および実技	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀
14	ケーススタディ	症例を通して、理学療法評価から治療プログラム立案までを学習する。	講義および演習	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀
15	ケーススタディ	症例を通して、理学療法評価から治療プログラム立案までを学習する。	講義および演習	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀

日付

教科書	・ 配布資料
参考書	・ 今日の理学療法指針, 医学書院 ・ 病気がみえるvol.7 脳・神経 (第2版), MEDIC MEDIA
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	南澤：研究室18 tminamisawa@yachts.ac.jp 永瀬：研究室23 tishiguri@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	神経系理学療法学Ⅱ		科目英語表記	Neurological Physical Therapy II		
職名、担当教員氏名	准教授 南澤 忠儀 講師 赤塚 清矢					
科目責任者氏名	南澤 忠儀					
学内連絡教員氏名						
学科／分野	理学療法学科	学年	3年			
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科－必修			
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	1単位	
授業概要	神経系疾患の理学療法や新たな治療戦略について教示する。					
到達目標	ディプロマポリシー理学2／理学5に関連して ① 神経・筋疾患の病態および一般的な理学療法評価項目を列挙できる。					
成績評価方法	筆記試験100% 到達目標①を評価					
成績評価基準	到達目標①について 特に優れている ; 適切で十分な根拠をふまえて、論理的に説明できる。 優れている ; 根拠をふまえて、論理的に説明できる。 良好である ; 根拠を用いて、ある程度論理的に説明できる。 最低限の到達 ; 根拠は乏しいが、ある程度論理的に説明できる。 目標に到達していない ; 説明できない。					

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	神経・筋疾患と理学療法	神経・筋疾患に対する理学療法の概略を学習する。	講義	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀
2	パーキンソン病	パーキンソン病に対する理学療法評価、手順および介入方法について講義を行なう。	講義	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀
3	筋萎縮性側索硬化症 (ALS)	筋萎縮性側索硬化症 (ALS) に対する理学療法評価、手順および介入方法について講義を行なう。	講義	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀
4	多発性硬化症	多発性硬化症に対する理学療法評価、手順および介入方法について講義を行なう。	講義	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀
5	重症筋無力症・皮膚筋炎	重症筋無力症・皮膚筋炎に対する理学療法評価、手順および介入方法について講義を行なう。	講義	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀
6	末梢神経障害 (ギランバレー症候群)	末梢神経障害 (ギランバレー症候群) に対する理学療法評価、手順および介入方法について講義を行なう。	講義	予習 事前に配布する資料を熟読すること	赤塚 清矢
7	脊髄小脳変性症	脊髄小脳変性症に対する理学療法評価、手順および介入方法について講義を行なう。	講義と演習	予習 事前に配布する資料を熟読すること	赤塚 清矢
8	神経難病に対する理学療法の進め方	神経難病に対する理学療法の進め方について学習する。	講義	予習 事前に配布する資料を熟読すること	「スポット」石川 慎一郎
9	ケーススタディ①	初期評価から統合解釈までの過程を学習する。 治療プログラム立案から介入までを学習する。	演習	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀

10	ケーススタディ②	初期評価から統合解釈までの過程を学習する。 治療プログラム立案から介入までを学習する。	演習	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀
11	ケーススタディ③	初期評価から統合解釈までの過程を学習する。 治療プログラム立案から介入までを学習する。	演習	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀
12	ケーススタディ④	初期評価から統合解釈までの過程を学習する。 治療プログラム立案から介入までを学習する。	演習	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀
13	ケーススタディ⑤	初期評価から統合解釈までの過程を学習する。 治療プログラム立案から介入までを学習する。	演習	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀
14	ケーススタディ⑥	初期評価から統合解釈までの過程を学習する。 治療プログラム立案から介入までを学習する。	演習	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀
15	ケーススタディ⑦	初期評価から統合解釈までの過程を学習する。 治療プログラム立案から介入までを学習する。	演習	予習 事前に配布する資料を熟読すること	南澤 忠儀

日付

6.5.16 (木) 4
6.5.23 (木) 4・5
6.5.30 (木) 4・5
6.6. 6 (木) 4・5
6.6.13 (木) 4・5
6.6.20 (木) 4・5
6.6.27 (木) 4・5
6.7. 4 (木) 4・5

教科書	配布資料
参考書	・今日の理学療法指針，内山 靖（総編集），医学書院 ・病気がみえるvol.7 脳・神経（第2版），医療情報科学研究所（編），MEDIC MEDIA
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2／理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	南澤：18研究室 tminamisawa@yachts.ac.jp 赤塚：14研究室 sakatsuka@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	神経系理学療法学特別講義	科目英語表記	Advanced Neurological Physical Therapy		
職名、担当教員氏名	教授 渡部 潤一 准教授 南澤 忠儀				
科目責任者氏名	渡部 潤一				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科一選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	中枢神経系の障がい考えたとき、脳実質の損傷や難治性疾患によって多様な病態や症候が出現する。重度な神経障がい患者への試みとして、臨床の第一線で行われている理学療法を紹介し、今後の展望を考える。				
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学2／理学5に関連して ① 神経障がい者の動作観察による臨床推論過程を説明できる。 ② 運動制御理論と姿勢制御理論を説明できる。 ③ 脳血管疾患や神経難病の病期に応じた理学療法プログラムを作成し、実行できるようになるために、評価から問題点抽出、プログラム立案、実施できる能力を身につける。 ④ 最先端の知見より必要な情報を利用し、理学療法の介入方法に応用することができる。				
成績評価方法	期末試験（80％） 到達目標①・②・③・④を評価 小テスト（10％） 到達目標①を評価 授業内プレゼンテーション（10％） 到達目標②・④を評価 との合計点により最終評価を行う。				
成績評価基準	【期末試験／小テスト／授業内プレゼンテーション】の成績評価基準は、到達目標①～④に関して、下記の通りとする。 特に優れている ; 適切で十分な根拠をふまえて、論理的に説明できる。 優れている ; 根拠をふまえて、論理的に説明できる。 良好である ; 根拠を用いて、ある程度論理的に説明できる。 最低限の到達 ; 根拠は乏しいが、ある程度論理的に説明できる。 目標に到達していない ; 説明できない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	ニューロリハビリテーションの基礎	ニューロリハビリテーションの基礎的内容を学習する。	講義形式	【予習】事前配布資料をよく読んでくること。	南澤忠儀
2	バーチャルリアリティを取り入れた理学療法の実際—上肢に対するアプローチ①	バーチャルリアリティを取り入れた上肢に対する理学療法を学習する。	講義と演習形式	【予習】事前配布資料をよく読んでくること。	南澤忠儀
3	バーチャルリアリティを取り入れた理学療法の実際—上肢に対するアプローチ②	バーチャルリアリティを取り入れた上肢に対する理学療法を学習する。	演習形式	【予習】事前配布資料をよく読んでくること。	南澤忠儀
4	世界における理学療法①	アジアにおける理学療法 Japan Qualityの展開について理解を深める。	講義形式	【予習】事前配布資料をよく読んでくること。 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること。	スポット：西尾 匡紀 (KITAHARA Medical Strategies International)
5	世界における理学療法②	カンボジアとベトナムにおける遠隔リハビリテーションサービスの実証調査事業について理解を深める。	講義形式	【予習】事前配布資料をよく読んでくること。 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること。	スポット：西尾 匡紀 (KITAHARA Medical Strategies International)

6	中枢神経疾患に対する言語聴覚士の介入と理学療法士に求めること	中枢性疾患に対する多職種介入の実際やその効果について学習する。	講義形式	【予習】事前配布資料をよく読んでくること。 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること。	スポット：三瀬和人（愛媛県立中央病院）
7	コミュニケーションに影響を与える高次脳機能障がい	高次脳機能障がいに対する介入の実際やその効果について理解する。	講義形式とグループワーク	【予習】事前配布資料をよく読んでくること。 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること。	スポット：三瀬和人（愛媛県立中央病院）
8	誤嚥性肺炎を予防するチームアプローチ	中枢性疾患に対する摂食機能療法、多職種介入の実際やその効果について学習する。	講義形式と実技	【予習】事前配布資料をよく読んでくること。 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること。	スポット：三瀬和人（愛媛県立中央病院）
9	神経系理学療法領域における製薬企業での理学療法士の仕事	製薬企業での理学療法士の仕事に理解を深め、キャリア形成について議論する。	講義形式	【予習】事前配布資料をよく読んでくること。 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること。	スポット：久保 航（グラクソ・スミスクライン株式会社）
10	神経系理学療法領域における理学療法士のキャリア形成と可能性	製薬企業での理学療法士の仕事に理解を深め、キャリア形成について議論する。	反転授業（学生によるプレゼンテーション）	【予習】事前配布資料をよく読んでくること。 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること。	スポット：久保 航（グラクソ・スミスクライン株式会社）
11	脳血管障がいに対する急性期理学療法（リスク管理/ポジショニング/座位耐性）	急性期脳血管障害に対する理学療法の目的を理解するとともに、理学療法技術の実際を学ぶ。	実技形式	【予習】事前配布資料をよく読んでくること。 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること。	渡部潤一
12	脳血管障がいに対する回復期理学療法（座位姿勢⇒立位・歩行アプローチ）	脳機能と姿勢バランスの関連や、脳血管障がいの姿勢バランス障害の評価・理学療法の展開について学ぶ。	実技形式	【予習】事前配布資料をよく読んでくること。 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること。	渡部潤一
13	脳血管障がいに対する慢性期理学療法（歩行/身体活動量の確保/シーティング）	慢性期脳血管障害に対する理学療法の目的を理解するとともに、理学療法技術の実際を学ぶ。	反転授業（学生によるプレゼンテーション）	【予習】事前配布資料をよく読んでくること。 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること。	渡部潤一
14	リハビリテーションロボットと理学療法	リハビリテーションロボットの治療原理、リハビリテーションロボットによる効果、リハビリテーションロボットの臨床とその実施手順、HAL、WPAL-G、歩行練習ロボット	講義形式	【予習】事前配布資料をよく読んでくること。 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること。	渡部潤一
15	片麻痺の様々なアプローチ法の紹介（考え方の基本）	筋緊張のコントロール、CI療法、川平法、装具療法など	反転授業（学生によるプレゼンテーション）・小テスト	【予習】事前配布資料をよく読んでくること。 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術である	渡部潤一

				ため、よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること。
日付				

教科書	資料を配布します。
参考書	随時紹介します。
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2／理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	渡部潤一：研究室39 jwatanabe@yachts.ac.jp 南澤忠義：研究室18 tminamisawa@yachts.ac.jp
備考	学生の理解度によっては、シラバスの項目内容の変更が発生することもあります。 神経系障害に対して理学療法士は何ができるのか？可能性を考えてください。

授業科目	小児理学療法学Ⅰ	科目英語表記	小児理学療法学Ⅰ		
職名、担当教員氏名	教授 渡部 潤一				
科目責任者氏名	渡部 潤一				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科Ⅰ-必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	障がい児を理解する上で必要な正常運動発達を解説する。 脳性麻痺を中心に障がい児に関する基礎的知識、理学療法評価及び治療の考え方を解説する。				
到達目標	ディプロマ・ポリシー-理学2/理学5に関連して、次の3つを科目の到達目標とする。 ①療育、小児理学療法の意義を説明できる。 ②運動発達の連続性のある内容を説明できる。 ③脳性麻痺の障がい特性および理学療法の基本的概念を説明でき、どのような評価が必要となるのか事例を通して理解する。				
成績評価方法	期末テスト (80%)：到達目標①・② レポート課題 (授業内試験) (10%)：到達目標①・②・③ 発言や質問・演習など授業への参加度 (10%)：到達目標③から、総合的に評価する。				
成績評価基準	【期末テスト/レポート課題 (授業内試験)/発言や質問・演習など授業への参加度】の成績評価基準 到達目標①～③に関して、下記の理解度によって評価する。 特に優れている ; 適切で十分な根拠をふまえて、論理的に説明できる。 優れている ; 根拠をふまえて、論理的に説明できる。 良好である ; 根拠を用いて、ある程度論理的に説明できる。 最低限の到達 ; 根拠は乏しいが、ある程度論理的に説明できる。 目標に到達していない ; 説明できない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	小児理学療法総論	療育について、小児理学療法の意義を学ぶ。	講義	【予習】配布した資料を事前に読んでおくこと 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
2	正常運動発達1 (反射・反応)	小児の反射・反応の体験を通して学ぶ。	講義・演習	【予習】教科書の第1章を事前に読んでおくこと 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
3	正常運動発達2 (身体の形成)	人の身体形成の過程と、姿勢反射の役割を理解する。	講義・演習	【予習】教科書の第1章を事前に読んでおくこと 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
4	正常運動発達3 (粗大運動発達：0-3ヶ月)	0-3ヶ月までの粗大運動と上肢運動の発達過程を理解する。	講義・演習	【予習】教科書の第1章及び配布された資料を事前に読んでおくこと 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
5	正常運動発達4 (粗大運動発達：6-12ヶ月)	6-12ヶ月までの粗大運動と上肢運動の発達過程を理解する。	講義・演習	【予習】教科書の第1章及び配布された資料を事前に読んでおくこと 【復習】実施した内容は臨床	渡部

				に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	
6	認知行動のメカニズム1 (感覚・運動模倣・空間認知)	感覚・空間認知の発達と動作模倣について理解する。	講義	【予習】教科書の第2章を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
7	認知行動のメカニズム2 (摂食嚥下・言語と日常生活の発達)	摂食と言語を介した日常生活活動は、理学療法の目的手段なることを理解する。	講義	【予習】教科書の第2章を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
8	発達にかかわる理学療法評価1 (Dubowitzの新生児神経学的評価・遠城寺式乳幼児分析検査)	疾患・発達時期に応じた適切な検査・評価法の選択および実施について理解できる。	講義・演習・実技 レポート課題 (授業内試験)	【予習】教科書の第3章を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
9	発達にかかわる理学療法評価2 (GMFM・GMFCS・PEDI)	疾患・発達時期に応じた適切な検査・評価法の選択および実施について理解できる。	講義・演習・実技	【予習】教科書の第3章を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
10	ライフサイクルに応じて必要とされる理学療法と他職種	ライフサイクルに応じたりハビリテーションの流れと、他職種の役割と連携について理解できる。	講義	【予習】教科書の第8章を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
11	脳性麻痺の原因と病理	脳性麻痺の障がい特性および理学療法の基本的概念を学ぶ。	講義	【予習】教科書の第4章を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
12	脳性麻痺の分類	脳性麻痺の障がい特性および理学療法の基本的概念を学ぶ。	講義	【予習】教科書の第4章を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
13	胎児の発達	正常運動発達を理解する。	講義・演習・実技	【予習】配布された資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
14	脳性麻痺に対する理学療法評価	理学療法を実践するうえで必要となる評価、介入の概要と構成要素を理解する。	反転授業 (学生によるプレゼンテーション)	【予習】配布された資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
15	発達性協調運動障害に対する理学療法評価	理学療法を実践するうえで必要となる評価、介入の概要と構成要素を理解する。	反転授業 (学生によるプレゼンテーション)	【予習】配布された資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部

日付

6.12.2 (月) 3・4

6.12.9 (月) 3・4

6.12.16 (月) 3・4
 6.12.23 (月) 3・4
 7.1.6 (月) 3・4
 7.1.20 (月) 3・4
 7.1.27 (月) 3・4・5

教科書	最新理学療法学講座 小児理学療法学, 新田収 (編著), 医歯薬出版
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	渡部潤一：研究室39 jwatanabe@yachts.ac.jp
備考	講義中に実技も行いますので、動きやすい服装で出席してください。 全ての講義に出席することが前提となります。ただし、公欠等の場合には、その都度、課題を与えて対応しますので、事後であっても必ず申し出てください。

授業科目	小児理学療法学Ⅱ	科目英語表記	Pediatric Physical Therapy II		
職名、担当教員氏名	教授 渡部 潤一				
科目責任者氏名	渡部 潤一				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科一必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	代表的な小児疾患の発達の特性、臨床像、理学療法評価および理学療法の原則を解説する。				
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学2/理学5に関連して ① 運動発達・認知発達の過程を理解し、その運動や認知の成り立ちを説明できる。 ② 達期の中枢系疾患・運動器疾患の病態・障害像を理解して説明できる。 ③ 発達期の疾患別理学療法の評価と治療、関連する装具・福祉用具の活用法について説明できる。 ④ 発達期に関連する社会制度、在宅医療を理解して、説明できる。				
成績評価方法	期末試験（80％） 到達目標①・②・③・④を評価 小テスト（10％） 到達目標①を評価 授業内プレゼンテーション（10％） 到達目標②・④を評価 との合計点により最終評価を行う。				
成績評価基準	【期末試験 小テスト/授業内プレゼンテーション】の成績評価基準は下記の通りとする。 ①～④の到達目標に関して 特に優れている ; 適切で十分な根拠をふまえて、論理的に説明できる。 優れている ; 根拠をふまえて、論理的に説明できる。 良好である ; 根拠を用いて、ある程度論理的に説明できる。 最低限の到達 ; 根拠は乏しいが、ある程度論理的に説明できる。 目標に到達していない ; 説明できない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	脳性麻痺①（痙直型四肢麻痺）	痙直型四肢麻痺に特徴的な痙直性分布、代償運動により生じる姿勢や運動発達の特徴、理学療法評価と介入を理解する 脳性麻痺児に使用する補装具について理解する	スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
2	脳性麻痺②（痙直型両麻痺）	痙直型両麻痺の特徴的な痙直性分布、代償運動により生じる姿勢や運動発達の特徴、理学療法評価と介入を理解する 脳性麻痺児に使用する補装具について理解する	スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
3	脳性麻痺③（痙直型片麻痺）	痙直型片麻痺の特徴的な痙直性分布、代償運動により生じる姿勢や運動発達の特徴、理学療法評価と介入を理解する 脳性麻痺児に使用する補装具について理解する	スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
4	脳性麻痺④（アトローゼ型）	アトローゼ型脳性麻痺に認められる、特徴的な運動障害（異常運動）や運動発達の特徴、理学療法評価と介入を理解する	スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
5	脳性麻痺⑤（失調型）	失調型脳性麻痺に認められる、特徴的な運動障害や運動	スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床	渡部

		発達の特徴、理学療法評価と介入を理解する	学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。	に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	
6	脳性麻痺の理学療法と治療の実際	痙縮治療の種類を列挙し、それぞれのメリットとデメリットを説明できる。また観血的治療前後の理学療法評価と介入を理解する	スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。	【予習】教科書第6章を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
7	低出生体重児・ハイリスク児の理学療法	低出生体重児・ハイリスク児に対する理学療法の評価と治療について学ぶ。	スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。	【予習】教科書第9章を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
8	ダウン症候群	ダウン症候群に対する理学療法の評価と治療について学ぶ。	スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。	【予習】教科書第14章を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
9	デュシェンヌ型筋ジストロフィー：その他の筋ジストロフィー、SMAなど	デュシェンヌ型筋ジストロフィー、その他の筋ジストロフィー、SMAなどの疾患、障害像、理学療法の評価と治療について学ぶ。	スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。	【予習】教科書第11章を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
10	骨形成不全症、先天性多発性関節拘縮症、発育性股関節形成不全、ペルテス病	小児整形疾患（骨形成不全症・先天性多発性関節拘縮症・発育性股関節形成不全、ペルテス病）の疾患、理学療法の評価と治療を学ぶ	スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
11	呼吸機能障害に対する理学療法（呼吸理学療法）	小児における呼吸機能障害に対する理学療法の概要と評価・治療を理解する	スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。	【予習】教科書第12章を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
12	二分脊椎の理学療法	二分脊椎について理解し、理学療法の評価と治療を学ぶ	スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。	【予習】教科書第13章を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
13	重症心身障害児に対する理学療法	重症心身障害児について説明が行え、理学療法評価と介入の考え方について理解する	スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。	【予習】教科書第10章を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
14	発達性協調運動障害	発達障害の定義、その範囲と特徴、理学療法の評価と治療、社会的な支援について学ぶ。	スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。	【予習】教科書第15章を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部
15	発達性協調運動障害における理学療法の実際	発達障害の定義、その範囲と特徴を理解し、今後、増加すると思われる発達障害への理学療法介入の特徴について理解する	反転授業（学生によるプレゼンテーション） 小テスト	【予習】教科書第15章を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部

日付

6.4.10 (水) 1・2

6.4.17 (水) 1・2

6.4.24 (水) 1・2
 6.5.1 (水) 1・2
 6.5.8 (水) 1・2
 6.5.15 (水) 1・2
 6.5.22 (水) 1・2
 6.5.29 (水) 2

教科書	最新理学療法学講座 小児理学療法学, 新田收 (編著), 医歯薬出版
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	渡部潤一：研究室39 jwatanabe@yachts.ac.jp
備考	講義中に実技も行いますので、動きやすい服装で出席してください。 この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。

授業科目	小児理学療法学特別講義	科目英語表記	Advanced Pediatric Physical Therapy		
職名、担当教員氏名	教 授 渡部 潤一 非常勤講師 大西 康平				
科目責任者氏名	渡部 潤一				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科一選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	小児疾患に対する総合的な評価・治療計画立案までを学生自ら実践するために、症例を提示し解説する。 運動発達検査、背臥位から歩行までの誘導方法、新生児集中治療における理学療法、重症心身障がい児の理学療法について解説する。 運動発達障がい児者に理学療法を実施する上で、理学療法介入がどのような影響を与えるのか科学的な検証を探っていくために、対象者の身体機能を中心に客観的に評価する方法論について研究する。 また、発達協調運動障がいのある小児の身体機能の評価と必要な理学療法介入および立案について考察する。				
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学2／理学5に関連して ① 症例検討を通して、理学療法評価及び治療計画を立案できる。 ② 発達障がい児に対する理学療法技術を提案できる。 ③ 重症心身障がい児の理学療法について理解できる。 ④ 新生児集中治療における理学療法の概要を説明できる。				
成績評価方法	期末試験（80％） 到達目標①・②・③・④を評価 小テスト（10％） 到達目標①を評価 授業内プレゼンテーション（10％） 到達目標②・③を評価 との合計点により最終評価を行う。				
成績評価基準	【期末試験／小テスト／授業内プレゼンテーション】の成績評価基準は到達目標①～④に関して、下記のように評価する。 特に優れている ; 適切で十分な根拠をふまえて、論理的に説明できる。 優れている ; 根拠をふまえて、論理的に説明できる。 良好である ; 根拠を用いて、ある程度論理的に説明できる。 最低限の到達 ; 根拠は乏しいが、ある程度論理的に説明できる。 目標に到達していない ; 説明できない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	小児疾患とその関わり	小児疾患に対する総合的な評価・治療計画立案までを自ら実践することを理解できる。	講義形式	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	非常勤講師・大西 康平
2	演習・症例検討①	グループワークにより小児理学療法評価及び治療計画を立案し、発表する。	講義形式・学生によるグループワーク	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	非常勤講師・大西 康平
3	演習・症例検討②	グループワークにより理学療法評価及び治療計画を立案し発表する	講義形式・学生によるグループワーク	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	非常勤講師・大西 康平
4	演習・症例検討③	グループワークにより理学療法評価及び治療計画を立案し発表する。	反転授業（学生によるプレゼンテーション）	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	非常勤講師・大西 康平

5	演習・運動発達検査①	GMFMとGMFCSの活用について学習する。	講義形式・演習	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一
6	演習・運動発達検査②	発達検査（遠城寺式乳幼児分析的発達検査法、CO-OP、PEDI）について、紹介する。	講義形式・演習	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一
7	重症心身障がい児の理学療法①	重症心身障がい児に対する評価、理学療法の実施までを身につける。	講義形式・演習	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一
8	重症心身障がい児の理学療法②	重症心身障がい児に対する評価、理学療法の実施までを身につける。	学生によるグループワーク・小テスト	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一
9	障害児者通所支援による小児理学療法士の関わり①	障害児者通所支援における、小児分野での理学療法士の取り組みと実態を理解する。	講義形式	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	スポット講師・赤塚 郁奈
10	障害児者通所支援による小児理学療法士の関わり②	障害児者通所支援における、小児分野での理学療法士の取り組みと実態を理解する。	講義形式・演習	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	スポット講師・赤塚 郁奈
11	小児における子ども用車いすと座位保持装置の実際	障がい児における、子ども用車いすと座位保持装置の作成方法、行政手続き方法を理解する。	講義形式・演習	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一
12	新生児理学療法（ポジショニングとハンドリング）	NICUにおける新生児集中治療における理学療法（ポジショニングとハンドリング）の実際を学ぶ。	講義形式・演習	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一
13	新生児理学療法（呼吸理学療法）	NICUにおける新生児集中治療における理学療法（呼吸理学療法）の実際を学ぶ。	講義形式・演習	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一
14	発達障がい児の運動指導①	発達障がい児の運動指導の実際を、グループワークにより理学療法評価及び治療計画を立案し発表する。	学生によるプレゼンテーション	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一
15	発達障がい児の運動指導②	発達障がい児の運動指導の実際を、グループワークにより理学療法評価及び治療計画を立案し発表する。	発達障害児をシミュレーションした学生による反転授業を行う。	【予習】配布した資料を事前に読んでくること 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため、繰り返し練習し、習得すること	渡部 潤一

日付

教科書	授業で使用する資料は、配布します。
参考書	・GMFM粗大運動能力尺度, 近藤泉・福田道隆 (監訳), 医学書院 ・重症心身障害児・者の呼吸リハビリテーション (DVD), 金子断行・花井丈夫 (監修), アローウィン
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	渡部潤一：研究室39 jwatanabe@yachts.ac.jp
備考	実技実習も行います。積極的な参加を望みます。 これまでに学習した基礎知識を十分復習した上で臨んでください。

授業科目	高齢期理学療法学	科目英語表記	Geriatric Physical Therapy		
職名、担当教員氏名	准教授 丹野 克子 助教 工藤 大輔				
科目責任者氏名	丹野 克子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科ー必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢に伴う生理・運動・精神・心理機能の変化に対する理学療法の関わりについて解説する。 ・高齢者に対する各種制度を概観し、制度下で実施されている理学療法を解説する。 				
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学2／理学5に関連して ① 加齢に伴う生理機能や運動機能および精神・心理機能の変化を説明できる。 ② 高齢者の姿勢・運動および精神・心理の特徴を説明できる。 ③ 高齢者に対する種々の制度と理学療法の関与を説明できる。				
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト：第1回～第13回の授業終了後にFormsによる試験 65点配点：到達目標①・②・③を評価。 ・定着度テスト：第14・15回授業中の学習態度と内容定着度 35点配点：到達目標①・②を評価。 				
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト（第1回～第13回授業外課題）は、各回5点換算で採点する。5点×13回＝65点 ・定着度テスト（第14・15回）は、実技内容を以下に従って採点する。最高35点 <ul style="list-style-type: none"> ・35点：提示された課題を誤りなく適切な時間内に実施・評価できる。かつ、グループメンバーの支援を積極的に行える。 ・30点：提示された課題を、支援されながら適切な時間内に実施・評価できる。かつ、グループメンバーの支援を積極的に行える。 ・25点：提示された課題を、支援されながら実施・評価できるが時間がかかる。かつ、グループメンバーの支援を積極的に行える。 ・15点：提示された課題に取り組むが、ほとんどを支援される必要がある。または、課題実施は35～25点に相当するがグループメンバーの支援を行えない。 ・5点：提示された課題にグループメンバーの支援に加えて教員の指導が必要である。または、課題実施が15点程度に相当するがグループメンバーの支援を行えない。 ・0点：提示された課題に取り組まない。 ・小テストと定着度テストの合計得点に基づき、以下の基準に従って成績評価を行う。 A：100点～90点、B：89点～80点、C：79点～70点、D：69点～60点、F：59点以下 				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	・授業オリエンテーション ・高齢期理学療法の概念	・高齢者に対する理学療法の 特徴 ・理学療法士が認識すべき高 齢者の尊厳保持	講義	【授業後課題】小テスト	丹野
2	高齢期の諸機能の特性と理学療法に影響する課題	低栄養、フレイル及びサルコペニアと理学療法	講義	【授業後課題】小テスト	丹野
3	高齢期の諸機能の特性と理学療法に影響する課題	加齢に伴う生理機能の変化	講義	【授業後課題】小テスト	工藤
4	高齢期の諸機能の特性と理学療法に影響する課題	加齢に伴う神経機能の変化	講義	【授業後課題】小テスト	工藤
5	高齢期の諸機能の特性と理学療法に影響する課題	高齢期の摂食嚥下障がいと排泄障がいと理学療法	講義	【授業後課題】小テスト	工藤
6	高齢期の諸機能の特性と理学療法に影響する課題	加齢に伴う運動機能の変化	講義	【授業後課題】小テスト	工藤
7	高齢期の諸機能の特性と理学療法に影響する課題	ロコモティブシンドロームと理学療法	講義	【授業後課題】小テスト	工藤

8	高齢期の諸機能の特性と理学療法に影響する課題	転倒への対応	講義	【授業後課題】小テスト	工藤
9	高齢期の諸機能の特性と理学療法に影響する課題	高齢者の姿勢・運動の特徴と分析方法	講義	【授業後課題】小テスト	工藤
10	高齢期の諸機能の特性と理学療法に影響する課題	加齢に伴う精神・心理・記憶機能の変化	講義	【授業後課題】小テスト	丹野
11	高齢期の諸機能の特性と理学療法に影響する課題	認知症と理学療法	講義	【授業後課題】小テスト	丹野
12	高齢者とのコミュニケーション	高齢者とのコミュニケーションの技術と注意点	講義 演習	【授業後課題】小テスト	丹野
13	高齢期の保健・医療・福祉制度と理学療法士の関わり	健康増進・介護予防と理学療法士の関与	講義	【授業後課題】小テスト	丹野
14	高齢者の機能・能力の評価	高齢者に対する身体機能と能力の評価方法の実技	実技	【事前】測定方法の予習	丹野 工藤
15	高齢者の機能・能力の評価	高齢者に対する身体機能と能力の評価方法の実技	実技	【事前】測定方法の予習	丹野 工藤
日付					

教科書	Crosslink 理学療法学テキスト 高齢者理学療法学, 池添冬芽(編), メジカルビュー社
参考書	随時紹介します。
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	丹野克子 工藤大輔
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	丹野: 研究室6 ktanno@yachts.ac.jp 工藤: 理作共同研究室 dkudo@yachts.ac.jp
備考	第14・15回は実技のため、動きやすい服装と身だしなみで出席してください。

授業科目	高齢期理学療法学特別講義	科目英語表記	Advanced Geriatric Physical Therapy		
職名、担当教員氏名	准教授 丹野 克子 非常勤講師 石川 雅樹 非常勤講師 佐藤 美香				
科目責任者氏名	丹野 克子				
学内連絡教員氏名	丹野 克子 (芦埜) 永瀬外希子 (石川・佐藤)				
学科/分野	理学療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科一選択		
授業形態	講義/演習	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に対する予防的介入を教授する。 ・高齢者とのコミュニケーション方法を教授する。 ・介護保険制度下で提供される訪問理学療法について臨床の実際を教授する。 ・がん、熱傷、褥瘡への理学療法士の介入について臨床の実際を教授する。 				
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学2/理学5に関連して ① 高齢者を対象にした介護予防の事業設計を体験する。 ② 高齢者の理学療法実施に必要なコミュニケーション技術の基本を体験する。 ③ がんのリハビリテーションにおける理学療法について、評価・治療上の特徴、留意点を説明できる。 ④ 熱傷の理学療法について、評価・治療上の特徴、留意点を説明できる。 ⑤ 褥瘡対応チームへの理学療法士の関与について、評価・治療上の特徴、留意点を説明できる。 ⑥ 訪問による理学療法の実際をイメージできる。				
成績評価方法	丹野 (50%) : 授業時の演習成果で評価する。[到達目標①・②・⑥] 石川 (35%) : レポート課題で評価する。[到達目標③・④] 佐藤 (15%) : レポート課題で評価する。[到達目標⑤]				
成績評価基準	丹野 (50%) : 授業時の演習の様子とプレゼンテーションで評価する。[到達目標①②⑥] ・特に優れている：グループメンバーと協力しあって、課題に対応した適切な内容を十分に見やすい構成で、極めてわかりやすく説明できる。 ・優れている：グループメンバーと協力しあって、課題に対応した適切な内容を見やすい構成でわかりやすく説明できる。 ・良好である：課題に対応した適切な内容を見やすい構成でわかりやすく説明できる。 ・最低限の到達：課題に対応した内容を説明できる。 ・目標に到達していない：課題に対応した内容を表現できないか、またはグループメンバーと協力しようとしなない。 石川 (35%)・佐藤 (15%) : レポート課題で評価する。[到達目標③④⑤] ・特に優れている：課題に対応した適切な内容を、適切な国語表現・表記で記述し、提出ルールに従って提出できる。 ・優れている：課題に対応した適切な内容を、ある程度適切な国語表現・表記で記述し、提出ルールに従って提出できる。 ・良好である：課題に対応した適切な内容を、ある程度適切な国語表現・表記で記述し、提出できる。 ・最低限の到達：課題に対応したある程度適切な内容を、ある程度適切な国語表現・表記で記述し、提出できる。 ・目標に到達していない：課題に対応した内容を記述できない。または課題を提出しない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	理学療法実施上のコミュニケーション技術	理学療法実施上の事例を提示し、演劇的手法を用いてコミュニケーション技術を演習する。	講義 演習 グループワーク	【事前】3年後期科目「高齢期理学療法学」で学んだコミュニケーションの基本の復習	丹野
2	理学療法実施上のコミュニケーション技術	理学療法実施上の事例を提示し、演劇的手法を用いてコミュニケーション技術を演習する。	講義 演習 グループワーク	【事前】3年後期科目「高齢期理学療法学」で学んだコミュニケーションの基本の復習	丹野
3	がんのリハビリテーション	臨床におけるがんのリハビリテーションについて学ぶ。	講義	【予習】成人老年疾病論等で学習したがんの病因、病態生理、臨床的特徴などの基礎知識を確認したうえで授業に臨んでください。	石川 ※1
4	熱傷の理学療法	臨床における熱傷の理学療法を学ぶ。	講義	【復習】課題を出しますので、後日レポートを提出してください。	石川 ※1

5	褥瘡対応チームにおける理学療法士の活動と介入	褥瘡の基本的な理解と対応チームにおける理学療法士の役割について講義を行う。	講義	【復習】課題を出しますので、後日レポートを提出してください。	佐藤 ※1
6	訪問理学療法	介護保険・医療保険による訪問理学療法の実際を理解する。	講義 演習	【予習】3年前期科目「地域リハビリテーション学」「高齢期理学療法学」で学んだ介護保険制度と訪問サービス	芦埜達哉 ※2
7	高齢者に対する介護予防の事業設計	高齢者の介護予防事業設計	講義 グループワーク	【事前】【予習】3年前期科目「地域リハビリテーション学」「高齢期理学療法学」で学んだ介護予防	丹野
8	高齢者に対する介護予防の事業設計	高齢者の介護予防事業設計	講義 グループワーク	【予習】3年前期科目「地域リハビリテーション学」「高齢期理学療法学」で学んだ介護予防	丹野

日付

教科書	授業時に資料を配布します。
参考書	Crosslink 理学療法学テキスト 高齢者理学療法学, 池添冬芽 (編), メジカルビュー社
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	丹野：研究室6 ktanno@yachts.ac.jp 石川・佐藤：教務学生課
備考	※1 山形大学医学部附属病院リハビリテーション科 ※2 在宅リハビリ看護ステーションつばさ天童サテライト

授業科目	内科系理学療法学Ⅰ	科目英語表記	Inter Medical Physical Therapy Ⅰ		
職名、担当教員氏名	講師 赤塚 清矢 講師 鈴木栄三郎				
科目責任者氏名	赤塚 清矢				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科Ⅰ-必修		
授業形態	講義	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	内科系疾患（呼吸器疾患、循環器疾患、代謝性疾患）の病態に応じた理学療法を教授する。				
到達目標	ディプロマポリシー理学2／理学5に関連して ① 内科系疾患の各種病態を説明できる。 ② 内科系疾患に対する基本的な理学療法（評価および治療技術）を説明できる。				
成績評価方法	筆記試験 100% 到達目標①・②を評価				
成績評価基準	到達目標①・②を評価 特に優れている : 論理的に正しく、かつ明確に十分説明できる。 優れている : 論理的に正しく、かつ明確に概ね説明できる。 良好である : 論理的に正しく、概ね説明できる。 最低限の到達 : 一部不十分な所もあるが、ある程度説明できる。 目標に到達していない : 説明できない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	内科系理学療法学総論	内科系理学療法学の解説	講義	関連する解剖学・生理学・病理学・内科学の基礎知識を復習すること。	赤塚
2	代謝性疾患の理学療法	代謝性疾患総論・エネルギー消費量・運動強度と運動プログラム・代謝性疾患の運動療法	講義	関連する解剖学・生理学・病理学・内科学の基礎知識を復習すること。	赤塚
3	代謝性疾患の理学療法	代謝性疾患総論・エネルギー消費量・運動強度と運動プログラム・代謝性疾患の運動療法	講義	関連する解剖学・生理学・病理学・内科学の基礎知識を復習すること。	赤塚
4	腎疾患の理学療法	慢性腎不全の理学療法	講義	関連する解剖学・生理学・病理学・内科学の基礎知識を復習すること。	赤塚
5	循環器疾患の理学療法	心疾患の理学療法総論	講義	関連する解剖学・生理学・病理学・内科学の基礎知識を復習すること。	鈴木
6	循環器疾患の理学療法	虚血性心疾患の理学療法	講義	関連する解剖学・生理学・病理学・内科学の基礎知識を復習すること。	鈴木
7	循環器疾患の理学療法	心不全の理学療法①	講義	関連する解剖学・生理学・病理学・内科学の基礎知識を復習すること。	鈴木
8	循環器疾患の理学療法	心不全の理学療法②	講義	関連する解剖学・生理学・病理学・内科学の基礎知識を復習すること。	鈴木
9	循環器疾患の理学療法	大血管疾患の理学療法	講義	関連する解剖学・生理学・病理学・内科学の基礎知識を復習すること。	鈴木
10	循環器疾患の理学療法	末梢動脈・静脈疾患の理学療法	講義	関連する解剖学・生理学・病理学・内科学の基礎知識を復習すること。	鈴木

11	呼吸器疾患の理学療法	呼吸疾患の理学療法総論	講義	関連する解剖学・生理学・病理学・内科学の基礎知識を復習すること。	鈴木
12	呼吸器疾患の理学療法	慢性閉塞性肺疾患の理学療法①	講義	関連する解剖学・生理学・病理学・内科学の基礎知識を復習すること。	鈴木
13	呼吸器疾患の理学療法	慢性閉塞性肺疾患の理学療法②	講義	関連する解剖学・生理学・病理学・内科学の基礎知識を復習すること。	鈴木
14	呼吸器疾患の理学療法	間質性肺炎の理学療法	講義	関連する解剖学・生理学・病理学・内科学の基礎知識を復習すること。	鈴木
15	運動負荷試験	トレッドミル、自転車エルゴメータ、6分間歩行試験、Shuttle Walking test	講義	関連する解剖学・生理学・病理学・内科学の基礎知識を復習すること。	赤塚

日付

6.10.1 (火) 4・5
6.10.8 (火) 4・5
6.10.15 (火) 4・5
6.10.22 (火) 4・5
6.10.29 (火) 3・4
6.11.5 (火) 3・4
6.11.12 (火) 3・4
6.11.19 (火) 3

教科書	Crosslink 理学療法学テキスト 内部障害理学療法学, 解良武士、椿淳裕 (編), メジカルビュー社
参考書	・ビジュアルレクチャー 内部障害理学療法学, 高橋哲也 (編), 医歯薬出版 ・心臓リハビリテーション必携, 株式会社コンパス ・呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法ー第2版, 照林社 この他は授業中に紹介する。
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	赤塚 清矢 鈴木栄三郎
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	赤塚 清矢: 研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp 鈴木栄三郎: 理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp
備考	内科系の理学療法を修得すると、理学療法士としての幅が広がります。

授業科目	内科系理学療法学Ⅱ		科目英語表記	Inter Medical Physical Therapy Ⅱ		
職名、担当教員氏名	講師 赤塚 清矢 講師 鈴木栄三郎 非常勤講師 舟見 敬成					
科目責任者氏名	赤塚 清矢					
学内連絡教員氏名	赤塚 清矢					
学科／分野	理学療法学科	学年	3年			
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科－必修			
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	1単位	
授業概要	内科系疾患（呼吸器疾患、循環器疾患、代謝性疾患）の病態に応じた理学療法技術を教授する。					
到達目標	ディプロマポリシー理学2／理学5に関連して ① 内科系疾患（呼吸器疾患、循環器疾患、代謝性疾患）に対する基本的な評価および治療技術を説明できる。 ② 内科系疾患に対する理学療法実践の最新知見（トピックス）を理解できる。					
成績評価方法	筆記試験 80% 到達目標①を評価 授業「内科系理学療法トピックス」のレポート課題 20% 到達目標②を評価					
成績評価基準	到達目標①・②について 特に優れている : 論理的に正しく、かつ明確に十分説明できる。 優れている : 論理的に正しく、かつ明確に概ね説明できる。 良好である : 論理的に正しく概ね説明できる。 最低限の到達 : 一部不十分な所もあるが、ある程度説明できる。 目標に到達していない : 説明できない。					

授業計画						
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員	
1	呼吸器疾患の理学療法評価技術	呼吸音聴診	講義・実技	内科系理学療法学Ⅰを復習して臨むこと。	鈴木	
2	呼吸器疾患の理学療法評価技術	呼吸音聴診	講義・実技	内科系理学療法学Ⅰを復習して臨むこと。	鈴木	
3	呼吸器疾患の理学療法介入技術	呼吸介助手技	講義・実技	内科系理学療法学Ⅰを復習して臨むこと。	鈴木	
4	呼吸器疾患の理学療法介入技術	呼吸介助手技	講義・実技	内科系理学療法学Ⅰを復習して臨むこと。	鈴木	
5	呼吸器疾患の理学療法介入技術	呼吸介助手技	講義・実技	内科系理学療法学Ⅰを復習して臨むこと。	鈴木	
6	循環器疾患の理学療法評価技術	心電図と不整脈	講義・実技	内科系理学療法学Ⅰを復習して臨むこと。	鈴木	
7	循環器疾患の理学療法評価技術	心電図と不整脈	講義・実技	内科系理学療法学Ⅰを復習して臨むこと。	鈴木	
8	内科系理学療法トピックス	心疾患を中心に臨床的視点を学ぶ	講義	内科系理学療法学Ⅰを復習して臨むこと。	舟見	
9	内科系理学療法トピックス	心疾患を中心に臨床的視点を学ぶ	講義	内科系理学療法学Ⅰを復習して臨むこと。	舟見	
10	内科系理学療法トピックス	心疾患を中心に臨床的視点を学ぶ	講義	内科系理学療法学Ⅰを復習して臨むこと。 レポート課題	舟見	
11	運動負荷試験と理学療法プログラムの作成	運動負荷試験を行い、理学療法プログラムを作成する	実技	内科系理学療法学Ⅰを復習して臨むこと。	赤塚	
12	運動負荷試験と理学療法プログラムの作成	運動負荷試験を行い、理学療法プログラムを作成する	実技	内科系理学療法学Ⅰを復習して臨むこと。	赤塚	

13	運動負荷試験と理学療法プログラムの作成	運動負荷試験を行い、理学療法プログラムを作成する	実技	内科系理学療法学Ⅰを復習して臨むこと。	赤塚
14	運動負荷試験と理学療法プログラムの作成	運動負荷試験を行い、理学療法プログラムを作成する	実技	内科系理学療法学Ⅰを復習して臨むこと。	赤塚
15	運動負荷試験と理学療法プログラムの作成	運動負荷試験を行い、理学療法プログラムを作成する	実技	内科系理学療法学Ⅰを復習して臨むこと。	赤塚

日付

6.6.18 (火) 3・4
6.6.25 (火) 3・4・5
6.7.2 (火) 3・4
6.7.6 (火) 3・4・5
6.7.9 (火) 3・4・5
6.7.16 (火) 3・4

教科書	Crosslink 理学療法学テキスト 内部障害理学療法学, 解良武士・椿淳裕 (編), メジカルビュー社
参考書	・ビジュアルレクチャー-内部障害理学療法学-, 高橋哲也 (編), 医歯薬出版株式会社 ・心臓リハビリテーション必携, 日本心臓リハビリテーション学会 (編), 株式会社コンパス この他は授業中に紹介する。
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	赤塚 清矢 鈴木栄三郎
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	赤塚 清矢: 研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp 鈴木栄三郎: 理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp
備考	内科系の理学療法を修得すると、理学療法士としての幅が広がります。

授業科目	内科系理学療法学特別講義	科目英語表記	Advanced Inter Medical Physical Therapy		
職名、担当教員氏名	講師 赤塚 清矢 講師 鈴木栄三郎				
科目責任者氏名	赤塚 清矢				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科一選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	内科系理学療法に関連した課題への対応を学ぶ。				
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学2／理学5に関連して ① ヘルスプロモーションと理学療法について説明できる。 ② 急性期・周術期の呼吸理学療法について説明できる。 ③ 脳損傷、脊髄損傷の呼吸理学療法について説明できる ④ 種々の呼吸障がいが必要となる喀痰等の吸引技術を習得する。 ⑤ 集中治療室における理学療法士の役割について説明できる。				
成績評価方法	レポート課題	50%	到達目標①・②・③を評価		
	授業「喀痰等の吸引技術」のレポート課題	10%	到達目標④を評価		
	演習課題	40%	到達目標⑤を評価		
成績評価基準	到達目標①～⑤に対して 特に優れている : 課題内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に十分説明できる。 優れている : 課題内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に概ね説明できる。 良好である : 課題内容を理解し、論理的に正しく、概ね説明できる。 最低限の到達 : 一部不十分な所もあるが、ある程度説明できる。 目標に到達していない : 説明できない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	ヘルスプロモーションと理学療法	ヘルスプロモーションと理学療法	講義、討論	内科系理学療法学Ⅰ・Ⅱを復習して臨むこと。	赤塚
2	ヘルスプロモーションと理学療法	ヘルスプロモーションと理学療法	講義、討論	内科系理学療法学Ⅰ・Ⅱを復習して臨むこと。 レポート課題	赤塚
3	急性期・周術期の呼吸理学療法	急性期・周術期の理学療法評価と治療	講義、討論	内科系理学療法学Ⅰ・Ⅱを復習して臨むこと。	鈴木
4	脳損傷・脊髄損傷の呼吸理学療法	脳損傷・脊髄損傷の呼吸理学療法評価と治療	講義、討論	内科系理学療法学Ⅰ・Ⅱを復習して臨むこと。 レポート課題	鈴木
5	喀痰等の吸引技術	喀痰等の吸引技術	講義、実技	口腔、咽頭、喉頭の構造・機能を復習して臨むこと。	看護学科教員
6	喀痰等の吸引技術	喀痰等の吸引技術	講義、実技	口腔、咽頭、喉頭の構造・機能を復習して臨むこと。 レポート課題	看護学科教員
7	集中治療室における理学療法	集中治療室における理学療法	講義、演習	第3回授業回を復習して臨むこと。	スポット 県立中央病院 諸橋 赤塚 鈴木
8	集中治療室における理学療法	集中治療室における理学療法	講義、演習	第3回授業回を復習して臨むこと。	スポット 県立中央病院 諸橋 赤塚 鈴木
日付					

教科書	特に指定しない。
参考書	授業中に紹介する。
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	赤塚 清矢：研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp 鈴木栄三郎：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp
備考	内科系の理学療法を修得すると、理学療法士としての幅が広がります。

授業科目	理学療法技術学	科目英語表記	Physical Therapy Intervention		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 星 真行 非常勤講師 浅田 啓嗣				
科目責任者氏名	星 真行				
学内連絡教員氏名	永瀬 外希子 (星 真行先生担当) 鈴木 栄三郎 (浅田 啓嗣先生担当)				
学科/分野	理学療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科一選択		
授業形態	講義/演習	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法治療技術の一つである神経生理学的アプローチの中で、体系的な治療技術である固有受容性神経筋促通手技PNFの理論を説明し、基本的技術の実技指導を行う。 ・理学療法重要な治療手段である徒手療法の基礎を教授し、基本的技術の指導を行う。 				
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学2/理学5に関連して ① 固有受容性神経筋促通手技PNF、徒手療法の理論及び基本的技術を理解し、説明できる。 ② PNF、徒手療法の基本的技術を実施できる。				
成績評価方法	共通：授業内での実技・プレゼンテーション 60% 到達目標②を評価 第1～4回：授業内小テスト 20% 到達目標①を評価 第5～8回：レポート課題 20% 到達目標①を評価				
成績評価基準	到達目標① 固有受容性神経筋促通手技PNF、徒手療法の理論及び基本的技術を理解し、説明できる。 特に優れている : 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる。 優れている : 根拠をふまえて論理的に説明できる。 良好である : 根拠を用いてある程度論理的に説明できる。 最低限の到達 : 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる。 目標に達していない : 説明できない。 到達目標② PNF、徒手療法の基本的技術を実施できる。 特に優れている : 適切で十分な根拠をふまえて基本的技術を実施できる。 優れている : 根拠をふまえて基本的技術を実施できる。 良好である : 根拠を用いてある程度基本的技術を実施できる。 最低限の到達 : 根拠は乏しいがある程度基本的技術を実施できる。 目標に達していない : 実施できない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	固有受容性神経筋促通手技PNFの概念と基礎 概要、促通要素	固有受容性神経筋促通手技PNFに対する基礎的な知識を習得させる。	講義、実技	グループまたは個人で運動課題に取り組むことがある。	星 真行
2	固有受容性神経筋促通手技PNFの実際 上肢、肩甲帯	上肢・肩甲帯の実技によって、固有受容性神経筋促通手技PNFに対する基礎的な知識と技術を習得させる。	講義、実技	グループまたは個人で運動課題に取り組むことがある。	星 真行
3	固有受容性神経筋促通手技PNFの実際 下肢、骨盤帯	下肢・骨盤帯の実技によって、固有受容性神経筋促通手技PNFに対する基礎的な知識と技術を習得させる。	講義、実技	グループまたは個人で運動課題に取り組むことがある。	星 真行
4	固有受容性神経筋促通手技PNFの臨床的応用 (寝返り、起居動作)、学習状況の確認 (小テスト含む) とまとめ	固有受容性神経筋促通手技PNFに対する臨床的な応用を学び、知識と技術を習得させる。	講義、実技、小テスト	グループまたは個人で運動課題に取り組むことがある。	星 真行
5	徒手療法の概念と基礎	徒手療法に対する基礎的な知識と技術を習得させる。	講義、実技	グループまたは個人で運動課題に取り組むことがある。	浅田 啓嗣
6	筋に対する評価と治療	徒手療法に対する基礎的な知識と技術を習得させる。	講義、実技	グループまたは個人で運動課題に取り組むことがある。	浅田 啓嗣

7	関節に対する評価と治療	徒手療法に対する基礎的な知識と技術を習得させる。	講義、実技	グループまたは個人で運動課題に取り組むことがある。	浅田 啓嗣
8	神経組織に対する評価と治療	徒手療法に対する基礎的な知識と技術を習得させる。	講義、実技	グループまたは個人で運動課題に取り組むことがある。 レポート課題 第5～8回の内容を踏まえてレポートを作成する。	浅田 啓嗣
日付					

教科書	
参考書	PNFマニュアル 改訂第3版 柳澤健・乾公美（編）、南江堂
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	教務学生課
備考	集中講義ですので欠席しないよう注意すること。 講義中にも実技を行いますので、動きやすい服装で出席してください。

授業科目	物理療法学	科目英語表記	Physical Modalities		
職名、担当教員氏名	教授 鈴木 克彦 講師 永瀬外希子 講師 室伏 祐介 講師 鈴木栄三郎				
科目責任者氏名	鈴木 克彦				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科ー必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	1. 種々の物理療法の原理、目的、生体反応、適応および禁忌、実施方法について教授する。 2. 温熱、寒冷、水治、牽引、電磁波、電気、振動刺激の物理療法を臨床場面で安全かつ適切に実践するためのオリエンテーション、リスク管理、機器操作、効果判定について教授する。				
到達目標	ディプロマポリシー理学2、理学5に関連する。生体機能学、物理学、理学療法検査技術学の知識を応用する。 ① 物理療法の生体反応に基づく適応および禁忌を説明できる。 ② 物理療法における効果判定を論理的に説明できる。 ③ 種々の物理療法についての実施方法を説明し、リスクに配慮しながら適切に実施できる。				
成績評価方法	筆記試験 60% 到達目標①・②を評価 実技試験 30% 到達目標①・②・③を評価 レポート 10% 到達目標①・②を評価				
成績評価基準	到達目標①・② 特に優れている ; 論理的に適切かつ明確に十分説明できる。 優れている ; 論理的に適切かつ明確に概ね説明できる。 良好である ; 論理的に適切かつ明確にある程度説明できる。 最低限の到達 ; 一部不十分であるが、ある程度説明できる。 目標に到達していない ; 説明できない。 到達目標③ 特に優れている ; 適切な実施方法が説明でき、リスクを十分に配慮して実施できる。 優れている ; 実施方法が説明でき、リスクを十分に配慮して実施できる。 良好である ; 実施方法が説明でき、リスクにある程度配慮して実施できる。 最低限の到達 ; 実施方法がある程度説明でき、不十分であるがリスクを配慮して実施できる。 目標に到達していない ; 実施方法が説明できない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	物理療法学総論	物理療法の総論、鎮痛のメカニズム、温熱療法の効果について生理学的に講義する。	講義	復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	鈴木克彦
2	ホットパック・パラフィン	ホットパック、パラフィンの特徴と温熱メカニズム、適応・禁忌、実施方法についてデモンストレーションを交えて講義する。	講義	復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	鈴木克彦
3	極超短波療法・超短波療法	電磁波療法の温熱メカニズム、生理的作用、適応・禁忌、実施方法をデモンストレーションを交えて講義する。	講義	復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	鈴木克彦
4	超音波療法	超音波の発生原理、物理的特性、生体への影響を講義する。	講義	復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	鈴木克彦
5	超音波療法	超音波療法の適応・禁忌、実施方法をデモンストレーションを交えて講義する。	講義	復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	鈴木克彦

6	寒冷療法	寒冷療法の生理的作用、適応・禁忌、実施方法について講義する。	講義	復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	鈴木克彦
7	水治療法	水の特性、水治療法の生理的作用、適応・禁忌、実施方法について講義する。	講義	復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	鈴木克彦
8	光線療法	赤外線療法、紫外線療法、レーザー療法の生理的作用、適応・禁忌、実施方法を講義する。	講義	復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	鈴木克彦
9	牽引療法	頸椎および腰椎牽引療法の目的、生体に及ぼす効果、適応・禁忌、実施方法について講義する。	講義	復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	鈴木克彦
10	持続的他動運動（CPM）療法 バイオフィードバック（BF）療法	CPMとBF療法の目的、生理的作用と原理、実施方法、生体に及ぼす効果について実技を交えて講義する。	講義・演習	復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	鈴木克彦
11	振動刺激療法	振動刺激療法の生理的作用、目的、実施方法、適応・禁忌について実技を交えながら講義する。	講義・演習	復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	鈴木栄三郎
12	物理療法演習1-1 ホットパック・パラフィン	物理療法機器を使用して、実践的な治療方法を実技演習する。 提示した課題を実践し、治療の生理学的作用・効果をグループ討議する。	実技演習+グループ討議	予習課題 実技を担当する物理療法について、教科書と配布資料を復習しておいてください。	永瀬外希子 室伏 祐介 鈴木栄三郎
13	物理療法演習1-1 ホットパック・パラフィン	物理療法機器を使用して、実践的な治療方法を実技演習する。 提示した課題を実践し、治療の生理学的作用・効果をグループ討議する。	実技演習+グループ討議	レポート課題 指定の課題について教科書と配布資料を参考にしてまとめ、レポートを提出してください。	永瀬外希子 室伏 祐介 鈴木栄三郎
14	物理療法演習1-2 超音波・極超短波	物理療法機器を使用して、実践的な治療方法を実技演習する。 提示した課題を実践し、治療の生理学的作用・効果をグループ討議する。	実技演習+グループ討議	予習課題 実技を担当する物理療法について、教科書と配布資料を復習しておいてください。	永瀬外希子 室伏 祐介 鈴木栄三郎
15	物理療法演習1-2 超音波・極超短波	物理療法機器を使用して、実践的な治療方法を実技演習する。 提示した課題を実践し、治療の生理学的作用・効果をグループ討議する。	実技演習+グループ討議	レポート課題 指定の課題について教科書と配布資料を参考にしてまとめ、レポートを提出してください。	永瀬外希子 室伏 祐介 鈴木栄三郎
16	物理療法演習1-3 寒冷・水治・振動刺激	物理療法機器を使用して、実践的な治療方法を実技演習する。 提示した課題を実践し、治療の生理学的作用・効果をグループ討議する。	実技演習+グループ討議	予習課題 実技を担当する物理療法について、教科書と配布資料を復習しておいてください。	永瀬外希子 室伏 祐介 鈴木栄三郎
17	物理療法演習1-3 寒冷・水治・振動刺激	物理療法機器を使用して、実践的な治療方法を実技演習する。 提示した課題を実践し、治療の生理学的作用・効果をグループ討議する。	実技演習+グループ討議	レポート課題 指定の課題について教科書と配布資料を参考にしてまとめ、レポートを提出してください。	永瀬外希子 室伏 祐介 鈴木栄三郎
18	電気刺激療法総論 経皮的電気神経刺激（TENS） 神経筋電気刺激（NMES）	電気刺激療法の原理、生理的作用、目的、実施方法、適応・禁忌について講義する。	講義	復習課題 講義内容の振り返りシートの提出	鈴木克彦
19	干渉電流療法（IFCS）	電気刺激療法の原理、生理的作用、目的、実施方法、適	講義	復習課題 講義内容の振り返りシートの	鈴木克彦

	機能的電気刺激 (FES)	応・禁忌について講義する。		提出	
20	物理療法演習2-1 TENS	電気刺激治療機器を使用して、実践的な治療方法を実技演習する。提示した課題を実践し、治療の生理学的作用・効果をグループ討議する。	実技演習+グループ討議	予習課題 実技を担当する物理療法について、教科書と配布資料を復習しておいてください。	鈴木克彦
21	物理療法演習2-2 NMES	電気刺激治療機器を使用して、実践的な治療方法を実技演習する。提示した課題を実践し、治療の生理学的作用・効果をグループ討議する。	実技演習+グループ討議	予習課題 実技を担当する物理療法について、教科書と配布資料を復習しておいてください。	鈴木克彦
22	物理療法演習2-3 IFCS	電気刺激治療機器を使用して、実践的な治療方法を実技演習する。提示した課題を実践し、治療の生理学的作用・効果をグループ討議する。	実技演習+グループ討議	予習課題 実技を担当する物理療法について、教科書と配布資料を復習しておいてください。 レポート課題 指定の課題について教科書と配布資料を参考にしまとめ、レポートを提出してください。	鈴木克彦
23	物理療法技術の確認	種々の物理療法について習得レベルを確認する。	実技演習	予習課題 実技を実施した物理療法について、教科書と配布資料を復習し、練習しておいてください。	鈴木 克彦 永瀬外希子 室伏 祐介 鈴木栄三郎

日付

6.4. 8(月)3
6.4.15(月)3・4
6.4.22(月)3・4
6.5.13(月)3・4
6.5.20(月)3・4
6.5.27(月)3・4
6.6. 3(月)3・4
6.6.10(月)3・4
6.6.17(月)3・4
6.6.24(月)3・4
6.7. 8(月)4・5
6.7.22(月)3・4

教科書	Crosslink 理学療法学テキスト 物理療法学. 吉田英樹 (編), メジカルビュー社
参考書	PT・OTビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法. 庄本康治 (編), 羊土社
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	

教員の連絡先	鈴木 克彦：研究室31 ksuzuki@yachts.ac.jp 永瀬外希子：研究室23 tishiguri@yachts.ac.jp 室伏 祐介：研究室40 ymurofushi@yachts.ac.jp 鈴木栄三郎：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp
備考	物理療法演習（12～17回、20～23回）では、肩関節や大腿部を露出することがありますので、あらかじめ可能な服装で出席してください。

授業科目	義肢装具学	科目英語表記	Prosthetics and Orthotics		
職名、担当教員氏名	講師 室伏 祐介 教授 村 成幸 非常勤講師 佐竹 将宏				
科目責任者氏名	室伏 祐介				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科 - 必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	義肢装具学は、理学療法士にとって重要な治療法のひとつを学ぶ授業である。 装具学では、装具の目的および各種装具の基本事項と理学療法、さらに各疾患・障害に対する装具療法について教授する。 義肢学では、切断術とリハビリテーションおよび各種義肢の基本事項と理学療法について教授する。				
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学2／理学5に関連して ① 装具の基本構造と各 부품の機能について説明できる。 ② 下肢装具のチェックアウトを実施できる。 ③ 脳卒中片麻痺者に対する装具療法について説明できる。 ④ その他各疾患・障害に対する装具療法について説明できる。 ⑤ 切断術および切断者の実態について説明できる。 ⑥ 義肢の基本構造と各 부품の機能について説明できる。 ⑦ 義足の各アライメントのチェックを実施できる。 ⑧ 切断者に対する理学療法について説明できる。 ⑨ 切断のリハビリテーションについて説明できる。				
成績評価方法	筆記試験：70%、授業内テスト：30% 到達目標①～⑨を評価				
成績評価基準	到達目標①～⑨に対して 特に優れている：適切で十分な根拠を踏まえて義肢装具を用いたリハビリテーションについて説明できる。 優れている：根拠を踏まえて義肢装具を用いたリハビリテーションについて説明できる。 良好である：根拠を踏まえて義肢装具を用いたリハビリテーションについて、ある程度説明できる。 最低限の到達：根拠は乏しいが、ある程度義肢装具を用いたリハビリテーションについて説明できる。 目標に到達していない：説明できない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	ガイダンス	義肢装具学の学習内容についての説明を行う。	事前学習型授業（講義）	予習課題 運動学・解剖学の知識が必要となりますので、復習をしておいて下さい。	室伏
2	切断術	切断術の適応、部位の選択、治癒過程を学ぶ。	講義	どのような疾患、外傷で切断術の適応となるのかを勉強しておいてください。	村
3	切断術とリハビリテーション	切断術の適応、部位の選択、治癒過程を学ぶ。	講義	切断部位の選択については、解剖学的、機能的な特徴も考慮されます。教科書を読んでおいてください。	村
4	脊椎装具	手術および脊椎外装で使用する頸椎、胸腰椎装具の種類を学ぶ。	講義	脊椎装具の種類とその特徴について予習してください。	村
5	脊椎装具	手術および脊椎外装で使用する頸椎、胸腰椎装具の種類を学ぶ。	学習状況の確認（試験を含む）	第2、3、4回の講義の内容について十分に復習してください。	村
6	装具学①：装具学総論、装具の基本構造と各 부품の機能	義肢装具に関する基礎テストの実施 Lec.1「装具学総論」 Lec.2「パーツ」	講義	・義肢装具学に必要な姿勢・歩行の運動学の知識 ・Lec.1とLec.2の予習	佐竹
7	装具学②：長下肢装具と短下肢装具	Lec.3「短下肢装具」 Lec.4「長下肢装具」	講義	Lec.3とLec.4（長下肢装具）の予習	佐竹

8	装具学③：その他の下肢装具	Lec.4「股装具・膝装具」 Lec.5「靴型装具」	講義	Lec.4（股装具・膝装具）と Lec.5の予習	佐竹
9	装具学④：(実習) 下肢装具のチェックアウト(1)	KAFO、金属支柱AFO、プラスチックAFOをそれぞれ装着し、グループ内でチェックアウト項目に沿ったチェックアウト実習を行う(1)	実技実習	Lec.3・4・5を復習、Lec.6を予習	佐竹
10	装具学⑤：(実習) 下肢装具のチェックアウト(2)	KAFO、金属支柱AFO、プラスチックAFOをそれぞれ装着し、グループ内でチェックアウト項目に沿ったチェックアウト実習を行う(2)	実技実習	(同上)	佐竹
11	義肢学①：総論。義足の基本構造と各部位の機能	「装具学」の復習テスト 義肢学総論、義足の構造と部品	講義	・前回の「装具学」の復習 ・事前学習：DVD「リハビリテーション医学第2版；切断と義肢Vol.2」を視聴し、レポートを提出（当日までに） ・Lec.1・8とLec.3・6・7の予習	佐竹
12	義肢学②：大腿義足と下腿義足	大腿義足、下腿義足	講義	Lec.12、Lec.13、Lec.14の予習	佐竹
13	義肢学③：その他の義足と義手	股義足、膝義足、サイム義足、足部義足 上肢切断と義手	講義	Lec.7・3・4とLec.5・6・7の予習 上肢の構造・機能・運動学の復習とLec.13の予習	佐竹
14	義肢学④：(実習) 義足アライメント・弾性包帯の巻き方・模擬義足歩行体験(1)	大腿義足と下腿義足のベンチアライメントを項目に沿ってチェックする、弾性包帯を学生相手に巻く、模擬義足を装着して義足歩行を体験する(1)	実技実習	Lec.4と5、Lec.9の弾性包帯の巻き方を予習	佐竹
15	義肢学⑤：(実習) 義足アライメント・弾性包帯の巻き方・模擬義足歩行体験(2)	大腿義足と下腿義足のベンチアライメントを項目に沿ってチェックする、弾性包帯を学生相手に巻く、模擬義足を装着して義足歩行を体験する(2)	実技実習	(同上)	佐竹
16	上肢装具	「義肢学」の復習テスト Lec.9「上肢装具」	講義	・前回の「義肢学」の復習 ・上肢の運動学の復習、装具学テキストのLec.9を予習	佐竹
17	疾患別装具（各障害に対する装具療法） ①	Lec.12「整形外科疾患」 Lec.13「リウマチ」 Lec.14「対麻痺・小児」	講義	Lec.12、Lec.13、Lec.14の予習	佐竹
18	疾患別装具（各障害に対する装具療法） ②	Lec.11「脳卒中片麻痺」	講義	Lec.11の予習	佐竹
19	疾患別装具（各障害に対する装具療法） ③	脳卒中患者の歩容から、装具の適応をグループで考える(1)	演習	・歩行分析と異常歩行の復習 ・脳卒中片麻痺でよく使われる装具の復習	佐竹
20	疾患別装具（各障害に対する装具療法） ④	脳卒中患者の歩容から、装具の適応をグループで考える(2)	演習	(同上)	佐竹
21	装具装着体験 ①	下肢装具の装着体験を通して、知識を深める。	事前学習型授業（講義）＋演習	予習課題 下肢装具について復習をしておいて下さい。 復習課題 授業内容の振り返りシートの提出	室伏
22	装具装着体験 ②	体幹装具の装着体験を通し、知識を深める。	事前学習型授業（講義）＋演習	予習課題 体幹装具について復習をしておいて下さい。 復習課題 授業内容の振り返りシートの提出	室伏

23	装具装着体験 ③	上肢装具の装着体験を通し、知識を深める。	事前学習型授業（講義）＋演習	予習課題 上肢装具について復習をしておいて下さい。 復習課題 授業内容の振り返りシートの提出	室伏
----	----------	----------------------	----------------	---	----

日付

6.5. 1 (水) 4
6.5.10 (金) 1・2
6.5.17 (金) 1・2
6.5.24 (金) 1～5
6.6.21 (金) 1～5
6.7. 5 (金) 1～5
6.7.19 (金) 3・4・5

教科書	・15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト、装具学（第2版）、佐竹将宏（責任編集）、中山書店 ・15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト、義肢学（第2版）、永富史子（責任編集）、中山書店
参考書	義肢装具のチェックポイント 第9版、日本整形外科学会 / 公益社団法人 日本リハビリテーション医学会（監）、医学書院
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2 / 理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	室伏祐介：研究室40 ymurofushi@yachts.ac.jp 村 成幸：研究室35 nmura@yachts.ac.jp 佐竹将宏：秋田大学 satake@hs.akita-u.ac.jp
備考	

授業科目	生活支援系理学療法学Ⅰ	科目英語表記	Physical Therapy for Life Support SystemsⅠ		
職名、担当教員氏名	准教授 丹野 克子				
科目責任者氏名	丹野 克子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科Ⅰ-必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	<p>・生活支援系の理学療法を身につけるために、日常生活活動（ADL）の概要・評価方法・分析の視点、生活機能障がい構造、生活環境整備のための基本的知識について、講義や演習を行う。</p> <p>・3年前期「生活支援系理学療法学Ⅱ」の修得に必要な基本的内容の講義や演習を行う。</p>				
到達目標	<p>ディプロマ・ポリシー理学2／理学5／理学6に関連して</p> <p>①日常生活活動（ADL）の概念の説明ができ、具体的動作が列挙できる。</p> <p>②評価基準を参照して、基本的ADLと手段的ADLの評価ができる。</p> <p>③基本動作の動作分析を観察により大まかに説明できる。</p> <p>④理学療法が対象とする代表的な疾患や障がいのある人の、日常生活活動（ADL）の特徴を説明できる。</p> <p>⑤生活機能と環境因子との関係を説明できる。</p>				
成績評価方法	<p>到達目標①～⑤に対して</p> <p>1. 課題レポート3回（各回30%）</p> <p>2. 授業への取り組み方（10%）</p>				
成績評価基準	<p>到達目標①～⑤について以下の基準で評価する。</p> <p>1. 課題レポート3回（各回30点配点）</p> <p>・特に優れている（30点）：課題に対応した適切な内容を、適切な国語表現・表記で記述し、提出ルールに従って提出できる。</p> <p>・優れている（26点）：課題に対応した適切な内容を、ある程度適切な国語表現・表記で記述し、提出ルールに従って提出できる。</p> <p>・良好である（22点）：課題に対応した適切な内容を、ある程度適切な国語表現・表記で記述し、提出できる。</p> <p>・最低限の到達（18点）：課題に対応したある程度適切な内容を、ある程度適切な国語表現・表記で記述し、提出できる。</p> <p>・目標に到達していない（0点）：課題に対応していない内容で提出した。または課題を提出しない。</p> <p>2. 授業への取り組み方（総合的に10点）</p> <p>出席した授業において、指示された事項や意見交換等に積極的に参加・関与することにより総合的に10点とする。</p> <p>・常に参加・関与できる：10点</p> <p>・おおよそ参加・関与できる：8点</p> <p>・時に参加・関与できる：6点</p> <p>・ほとんど参加・関与できない：2点</p> <p>・常に参加・関与できない：0点</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	オリエンテーション 日常生活活動（ADL） の概念と範囲	・日常生活活動の概念 ・BADLとIADL	講義 演習	【事前】自分の日常生活上で、どのような活動をしているかをメモしておく。 【授業後】授業の復習	丹野
2	日常生活活動（ADL） の概念と範囲	・BADLとIADL	講義 演習	【授業後】授業の復習	丹野
3	生活環境と身体機能 およびADLの関係	・生活環境に影響をうける ADL	講義 演習	【授業後】授業の復習	丹野
4	観察によるADL動作 分析	・姿勢の名称 ・観察による動作分析の視点	講義 実技	【授業後】授業の復習	丹野
5	観察によるADL動作 分析	・観察によるADL動作の分析 演習	講義 演習	【授業後課題】課題レポート ①作成	丹野
6	ADLと環境因子の関 係	・ADLを支援する福祉用具と 活用方法	講義 演習	【授業後】授業の復習	丹野

7	ADLと環境因子の関係	・物理的生活環境整備の基本的視点と法・制度	講義 演習	【授業後】授業の復習	丹野
8	ADLと環境因子の関係	・ADLの促進・阻害因子	講義	【授業後】授業の復習	丹野
9	ADLの評価方法	・ADLの評価方法の紹介 ・Barthel Indexの演習 ・FIMの演習	講義 演習	【授業後】授業の復習	丹野
10	ADLの評価方法	・LawtonのIADL Index ・老研式活動能力指標 ・その他のADL評価法	講義 演習	【授業後】授業の復習	丹野
11	代表的な疾患・障がい別のADL	・理学療法士が臨床で介入しやすい代表的疾患のADL	講義	【予習】課題レポート②作成	丹野
12	理学療法における介助	・理学療法士が行う治療的介助 ・基本的介助方法	講義 実技	【授業後】授業の復習	丹野
13	理学療法における介助	・理学療法士が行う治療的介助 ・基本的介助方法	講義 実技	【授業後】授業の復習	丹野
14	ICF概念の理解と活用 授業まとめ	・ICFモデルの概念、活用法	講義 演習	【授業後】授業の復習	丹野
15	ICF概念の理解と活用 授業まとめ	・ICFモデルを用いた障がい構造の理解 ・本科目全体の振り返り	講義 演習	【授業後課題】課題レポート③作成	丹野
日付					

教科書	・PT・OTビジュアルテキスト ADL, 柴喜崇ら(編), 羊土社 ・Crosslimkリハビリテーションテキスト 生活環境学, 白田滋(編), メジカルビュー社
参考書	・ICF国際生活機能分類, 中央法規 ・シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト, 細田多穂(監), 南江堂 ・OT・PTのための住環境整備論, 野村歡ら(著), 三輪書店
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5/理学6
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	丹野克子: 研究室6 ktanno@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	生活支援系理学療法学Ⅱ	科目英語表記	Physical Therapy for Life Support Systems II		
職名、担当教員氏名	准教授 丹野 克子 講師 赤塚 清矢 講師 永瀬外希子				
科目責任者氏名	丹野 克子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科Ⅰ-必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	理学療法の対象となる代表的な疾患の生活障がいとその援助方法について、講義と演習を行う。				
到達目標	ディプロマポリシー-理学2／理学5／理学6に関連して ① 代表的な疾患や障がいに対する日常生活活動（ADL）の評価、指導、介助の要点を説明できる。 ② 代表的な疾患や障がいの日常生活活動（ADL）の特徴やリスクを説明できる。 ③ 物理的生活環境について基準に基づいて評価できる。 ④ 国際生活機能分類（ICF）の概念を用いて生活機能障がいの構造を説明できる。 ⑤ 授業に主体的・意欲的・積極的に参加できる。				
成績評価方法	・レポート（90％）：丹野担当分（45％）、赤塚担当分（20％）、永瀬担当分（25％）：到達目標①～④を評価 ・授業への取り組み方（10％）：主体的・意欲的・積極的な態度を評価する。：到達目標⑤を評価				
成績評価基準	1. レポート（90％） ① 丹野担当分（45％）：レポートを3回課す。1回分を15点配点とする。 ② 赤塚担当分（20％）：レポートを2回課す。1回分を10点配点とする。 ③ 永瀬担当分（25％）：レポートを1回課す。25点配点とする。 評価基準は共通して以下の通り。 ・特に優れている：課題に対応した適切な内容を、適切な国語表現・表記で記述し、提出ルールに従って提出できる。 ・優れている：課題に対応した適切な内容を、ある程度適切な国語表現・表記で記述し、提出ルールに従って提出できる。 ・良好である：課題に対応した適切な内容を、ある程度適切な国語表現・表記で記述し、提出できる。 ・最低限の到達：課題に対応したある程度適切な内容を、ある程度適切な国語表現・表記で記述し、提出できる。 ・目標に到達していない：課題に対応していない内容で提出した。または課題を提出しない。 2. 授業への取り組み方（10％） 主体的・意欲的・積極的な態度を評価する。 ・特に優れている：自ら進んで適切に行える。 ・良好である：指名等の促しがあれば適切に行える。 ・到達しているといえない：指示や指摘を行っても主体性・意欲・積極性が教員に伝わらない。または不適切な言動を行う。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	オリエンテーション 移動・移乗動作介助の基本	移動・移乗介助実技	実技	【授業前予習】生活支援系理学療法学Ⅰで学修した移乗介助方法を復習してから出席する。	丹野
2	移動・移乗動作介助の基本	移動・移乗介助実技	実技	【授業前予習】生活支援系理学療法学Ⅰで学修した移乗介助方法を復習してから出席する。	丹野
3	脳血管障がい患者のADL	<ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障がい患者の動作の特徴 ・基本動作や車椅子操作の介助方法 ・5～7回授業の事例提示と準備 	実技	【授業前予習】生活支援系理学療法学Ⅰで学修した移乗介助方法を復習してから出席する。	丹野
4	脳血管障がい患者のADL	<ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障がい患者の動作の特徴 ・基本動作や車椅子操作の介助方法 ・5～7回授業の事例提示と準備 	実技	【授業前予習】生活支援系理学療法学Ⅰで学修した移乗介助方法を復習してから出席する。	丹野

5	物理的生活環境整備演習	・身体障がい（脳血管疾患後片麻痺と白内障）のある人を想定し、物理的環境の評価 ・物理的環境整備の検討および成果の発表	グループ演習	【授業前予習】生活支援系理学療法学Ⅰの物理的環境整備の基本 【授業後課題】レポート	丹野
6	物理的生活環境整備演習	・身体障がい（脳血管疾患後片麻痺と白内障）のある人を想定し、物理的環境の評価 ・物理的環境整備の検討および成果の発表	グループ演習	【授業前予習】生活支援系理学療法学Ⅰの物理的環境整備の基本 【授業後課題】レポート	丹野
7	物理的生活環境整備演習	・身体障がい（脳血管疾患後片麻痺と白内障）のある人を想定し、物理的環境の評価 ・物理的環境整備の検討および成果の発表	グループ演習	【授業前予習】生活支援系理学療法学Ⅰの物理的環境整備の基本 【授業後課題】レポート	丹野
8	神経難病の人のADL	神経難病の人のADL動作の実際をDVD等で学ぶ。	講義	【授業前予習】生活支援系理学療法学Ⅰの神経筋疾患の人のADL 【授業後課題】レポート	丹野
9	神経難病の人のADL	神経難病の人のADL動作の実際をDVD等で学ぶ。	講義	【授業前予習】生活支援系理学療法学Ⅰの神経筋疾患の人のADL 【授業後課題】レポート	丹野
10	脊髄損傷者・頸髄損傷者のADL①	脊髄損傷者の方に来学していただき、グループごとにADLを評価する。	グループ演習	【事前準備】ADL評価のための事前準備が必要 【授業後課題】レポート（第11回授業と合わせて1課題）	永瀬 丹野
11	脊髄損傷者・頸髄損傷者のADL①	脊髄損傷者の方に来学していただき、グループごとにADLを評価する。	グループ演習	【事前準備】ADL評価のための事前準備が必要 【授業後課題】レポート（第10回授業と合わせて1課題）	永瀬 丹野
12	車椅子の要点	車椅子のチェックポイントについて理解する。	講義と演習	【授業後課題】レポート	赤塚
13	自助具の要点	自助具の作成と評価から、ユーザビリティについて理解する。	講義と演習	【授業後課題】レポート	赤塚
14	脊髄損傷者・頸髄損傷者のADL②	脊髄損傷の損傷高位に対応する自助具の適応と種類	講義と演習	【事前準備】第10、11回授業で行った脊髄損傷者のレポート内容を確認しておくこと。	永瀬
15	障がい構造の理解と分析	国際生活機能分類（ICF）モデルに基づく障がいの理解	演習	【授業後課題】レポート	丹野

日付

6.4.18 (木) 1・2
6.4.25 (木) 1・2
6.5.10 (金) 3・4・5
6.5.16 (木) 1・2
6.5.23 (木) 1・2
6.5.30 (木) 1・2
6.6. 6 (木) 1・2

教科書	・PT・OTビジュアルテキスト ADL, 柴喜宗・下田信明（編）, 羊土社 ・Crosslink リハビリテーションテキスト 生活環境学, 白田滋（編）, メジカルビュー社
参考書	・ICF国際生活機能分類, 世界保健機関, 中央法規出版 ・シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト, 細田多穂（監）, 南江堂 ・動画で学ぶ脊髄損傷のリハビリテーション, 田中 宏太佳・園田 茂（編）, 医学書院
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学5/理学6
先修条件指定科目	非該当

先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	丹野：研究室 6 ktanno@yachts.ac.jp 赤塚：研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬：研究室23 tishiguri@yachts.ac.jp
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・各回に該当する2年次「生活支援系理学療法学Ⅰ」の内容を復習して出席してください。 ・学習方法が実技の場合は、実技にふさわしい服装と身だしなみで出席してください。 ・授業内容により実施場所が異なります。授業前に連絡します。

授業科目	地域リハビリテーション学	科目英語表記	Community Based Rehabilitation		
職名、担当教員氏名	准教授 丹野 克子				
科目責任者氏名	丹野 克子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科ー必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	地域リハビリテーションの概念、歴史的背景、活動、仕組み、関連諸制度の理解を目的とする。				
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学2／理学3／理学5／理学6に関連して ① 地域リハビリテーションの概念、歴史的背景、活動、関係職種、対象者を理解し、説明できる。 ② 地域リハビリテーションに関する基本的制度と社会資源を理解し、説明できる。 ③ 地域リハビリテーションにおける理学療法士の活動を理解し、説明できる。				
成績評価方法	1. 筆記試験 (60%) 2. レポート (40%) 筆記試験の得点が6割に満たない場合は再試験、2回のレポートの得点合算で6割に満たない場合は再提出を課す。				
成績評価基準	到達目標①・②・③を以下により評価する。 1. 筆記試験：到達目標①・②・③の知識を中心に評価：60点配点 2. レポート：到達目標①・②・③の思考・説明力を中心に評価：40点配点（レポート2回・1回20点配点） 特に優れている（20点）：課題に対応した内容を十分に論理的に構成し、国語表記の誤りなくルールに従って作成・提出できる。 優れている（18点）：課題に対応した内容を論理的に構成し、国語表記の誤りなくルールに従って作成・提出できる。 良好である（16点）：課題に対応した内容を論理的に構成し、国語表記に多少の誤りがあってもルールに従って作成・提出できる。 最低限の到達（12点）：課題に対応した内容を一部不十分だが論理的に構成し、国語表記に多少の誤りがあってもルールに従って作成・提出できる。 目標に到達していない（0点）：レポートの作成ができない。または提出しない。（0点） 筆記試験とレポートの得点を合算し、最終の学修評価A～Fとする。ただし、再試験・再提出のいずれにも該当した場合の評価は原則として「D」または「F」とする。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	地域リハビリテーションの概要①	地域リハビリテーションの定義と対象	講義	【授業後】授業の復習	丹野
2	地域リハビリテーションの概要②	・地域包括ケアシステムと共生社会 ・地域リハビリテーションにおける自立支援	講義	【授業後】授業の復習	丹野
3	地域リハビリテーションの関係諸制度と理学療法士の関与①	介護保険制度	講義	【授業後】授業の復習	丹野
4	地域リハビリテーションの関係諸制度と理学療法士の関与②	・介護予防 ・障がい予防	講義	【授業後】授業の復習	丹野
5	地域リハビリテーションの関係諸制度と理学療法士の関与③	・障害者総合支援法等の関連諸制度 ・医療圏と地域医療連携パス	講義	【授業後】授業の復習	丹野
6	地域リハビリテーションの関係諸制度と理学療法士の関与④	地域リハビリテーションにおける理学療法士の職域	講義 演習	【授業後】授業の復習	丹野
7	地域リハビリテーションにおける理学療法士の活動①	災害時の活動	講義 演習	【授業後】授業の復習	丹野

8	地域リハビリテーションにおける理学療法士の活動②	日本のCBR	講義	【授業後課題】第8～10回の学習成果レポート	佐藤美里 ※1 丹野
9	地域リハビリテーションにおける理学療法士の活動③	海外のCBR	講義	【授業後課題】第8～10回の学習成果レポート	Eleonor Rose A. Lopez ※2 丹野
10	地域リハビリテーションにおける理学療法士の活動④	理学療法の国際比較	講義	【授業後課題】第8～10回の学習成果レポート	須賀康平 ※3 丹野
11	地域在住者の生活リハビリテーションの多様な視点①	生活を支える視点に立つリハビリテーション	講義 演習	【授業後課題】第11～13回の学習成果レポート	丹野
12	地域在住者の生活リハビリテーションの多様な視点②	理学療法学、看護学、社会学、社会福祉学などを基礎とする専門職の職種間の視点の類似と相違	パネルディスカッション参加 (看護学科「ジェネラリズム看護論」と共同実施)	【授業後課題】第11～13回の学習成果レポート	丹野 遠藤(和) ※4 山田 ※5 外部講師 ※6
13	地域在住者の生活リハビリテーションの多様な視点③	理学療法学、看護学、社会学、社会福祉学などを基礎とする専門職の職種間の視点の類似と相違	パネルディスカッション参加 (看護学科「ジェネラリズム看護論」と共同実施)	【授業後課題】第11～13回の学習成果レポート	丹野 遠藤(和) ※4 山田 ※5 外部講師 ※6
14	地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割①	地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割を、ここまでの授業と課題レポートを踏まえて討論する。	演習・討論	【授業前課題】2つの学習成果レポートを振り返っておく	丹野
15	地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割②	地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割を、ここまでの授業と課題レポートを踏まえて討論する。	演習・討論	【授業前課題】2つの学習成果レポートを振り返っておく	丹野

日付

6.4.10(水) 3
6.4.17(水) 3
6.4.24(水) 3
6.5. 1(水) 3
6.5. 8(水) 3
6.5.15(水) 3
6.5.22(水) 3
6.5.29(水) 3
6.6. 5(水) 3・4
6.6.12(水) 3
6.6.20(木) 1・2
6.6.26(水) 3・4

教科書	標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学 牧田光代(監), 医学書院
参考書	理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション, 日本ヘルスプロモーション理学療法学会(編), 南江堂
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学2/理学3/理学5/理学6
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	

教員の連絡先	丹野克子：研究室6 ktanno@yachts.ac.jp
備考	※1 佐藤美里（理学療法士、なごみの陽訪問看護ステーション） ※2 Eleonor Rose A. Lopez（理学療法士、De La Salle University非常勤講師、ALRES PHILIPPINES THERAPY CENTER理学療法士） ※3 須賀康平（理学療法士、Physical Conditioning IKI） ※4 本学看護学科教授 ※5 本学看護学科講師 ※6 調整中

授業科目	地域理学療法学	科目英語表記	Community Based Physical Therapy		
職名、担当教員氏名	准教授 丹野 克子				
科目責任者氏名	丹野 克子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科一必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域理学療法として実施されている具体的な場面と活動を教授する。 ・地域における理学療法士への期待を実践者である他の専門職が教授する。 				
到達目標	ディプロマポリシー理学3／理学5／理学6に関連して ① 地域理学療法の領域と内容を述べるができる。 ② 通所サービスと訪問サービスにおける理学療法の特徴と内容を述べるができる。 ③ 地域における理学療法士に対するニーズと求められる役割を述べるができる。				
成績評価方法	1. レポートによる評価 (80%) 2. 演習への参加状況と成果 (20%)				
成績評価基準	到達目標①・②・③を以下により評価する。 1. レポートによる評価 80点配点 (到達目標①②③) 特に優れている (80点)：課題に対応した内容を十分に論理的に構成し、国語表記の誤りなくルールに従って作成・提出できる。 優れている (70点)：課題に対応した内容を論理的に構成し、国語表記の誤りなくルールに従って作成・提出できる。 良好である (60点)：課題に対応した内容を論理的に構成し、国語表記に多少の誤りがあってもルールに従って作成・提出できる。 最低限の到達 (50点)：課題に対応した内容を一部不十分だが論理的に構成し、国語表記に多少の誤りがあってもルールに従って作成・提出できる。 目標に到達していない (0点)：レポートの作成ができない。または提出しない。(0点) 2. 演習への参加状況と成果 20点配点 (到達目標③) 特に優れている (20点)：グループワークに積極的に、メンバーと協力して論理的で整合性のある結論に至ることができる。 優れている (18点)：グループワークに積極的に参加し、メンバーと協力してある程度論理的で整合性のある結論に至ることができる。 良好である (16点)：グループワークに参加し、メンバーと協力してある程度論理的で整合性のある結論に至ることができる。 最低限の到達 (12点)：グループワークに参加し、一定の結論に至ることができる。 目標に達していない (0点)：演習への参加ができない。または参加していてもグループメンバーとの協力が無い。 1と2の得点を合算し、最終の学修評価A～Fとする。 A：100点～90点 B：89点～80点 C：79点～70点 D：69点～60点 F：59点以下				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	地域理学療法の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・狭義の「地域」における理学療法士の職域と役割を理解する ・地域において連携する他職種の種類を理解する 	講義・演習	【事前】3年後期科目「地域リハビリテーション学」の復習	丹野
2	介護保険制度のケアプランと理学療法プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険サービスで提供される理学療法プログラムの、ケアプランの関係を理解する 	講義・演習	【事前】第1回授業の復習	丹野
3	通所サービスにおける理学療法	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険・医療保険の通所サービスの種類を理解する ・通所サービスで実施する理学療法を理解する 	講義・演習	【事前】第1回・第2回授業の復習	丹野

4	訪問サービスにおける理学療法	・介護保険・医療保険の訪問サービスの種類を理解する ・訪問サービスで実施する理学療法を理解する	講義・演習	【事前】第1回・第2回授業の復習	丹野
5	在宅療養生活を支える理学療法	・在宅における終末期医療、小児医療、障がい者、難病・呼吸器疾患の人への関与を理解する ・在宅療養支援施策における理学療法の位置づけを理解する	講義	【事前】配布資料の通読	丹野
6	高齢者の領域から理学療法士に期待すること	・理学療法士に対する他職種からの期待を理解する	講義	【事前】第2回授業の復習	寺崎 ※1 丹野
7	障がい者の領域から理学療法士に期待すること	・理学療法士に対する他職種からの期待を理解する	講義	【事前】総合支援法等、障がい者に関する制度の復習	会田 ※1 丹野
8	地域における理学療法士の役割	・理学療法士に対する他職種からの期待を理解する ・期待される役割の担い方を検討する	グループワーク	【授業後課題】課題作成	寺崎 ※1 会田 ※1 丹野

日付

6.4. 9(火) 3・4
6.4.15(月) 2・3
6.4.22(月) 2・3
6.4.30(火) 3・4

教科書	標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学. 牧田光代(監), 医学書院
参考書	随時紹介
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学3/理学5/理学6
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	丹野克子：研究室6 ktanno@yachts.ac.jp
備考	※1 居宅介護支援事業所心音 ・3年前期科目「地域リハビリテーション学」に連続する科目です。復習して臨んでください。

授業科目	理学療法研究法	科目英語表記	Foundations of Physical Therapy Research Science		
職名、担当教員氏名	講師 室伏 祐介				
科目責任者氏名	室伏 祐介				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科ー必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	研究論文を読み、理解するために必要となる基礎的な構成要素を講義・演習を通して教授する。				
到達目標	ディプロマポリシー理学4／理学5に関連して ① 医学系研究論文の基本的な読み方を理解できる。 ② 文献検索の方法を理解できる。 ③ 理学療法学科教員の研究内容について理解できる。				
成績評価方法	課題レポート 100% 到達目標①・②・③を評価				
成績評価基準	到達目標①・②・③を以下により評価する。 特に優れている : 適切で十分な根拠を踏まえて論理的に説明できる。 優れている : 根拠をふまえて論理的に説明できる。 良好である : 根拠を用いてある程度論理的に説明できる。 最低限の到達 : 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる。 目標に到達していない : 説明できない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	理学療法と研究	理学療法士にとっての研究とは何かについて講義する。	講義	予習 教科書を一読すること	室伏
2	論文の読み方①	論文の構成や種類、PECOなどについて説明する。	講義	予習 教科書13-26ページを読むこと 復習 振り返りシートの提出	室伏
3	論文の読み方②	研究デザイン・バイアスについて説明する。	講義	予習 教科書43-55ページまでを読むこと 復習 振り返りシートの提出	室伏
4	研究倫理について	研究倫理について説明する。	講義	予習 教科書56-71ページまで読むこと 復習 振り返りシートの提出	室伏
5	文献検索の方法①	文献検索の方法について説明する。	講義	予習 教科書27-42ページまでを読むこと 復習 振り返りシートの提出	室伏
6	文献検索の方法②	論文の検索を行い、読んだ論文についてまとめる。	講義+演習	予習 第5回授業の内容について復習すること 復習 振り返りシートの作成	室伏
7	研究紹介①	理学療法学科教員の研究内容について説明する。	講義	予習 理学療法学科の教員専門について調べておくこと 復習 振り返りシートの提出	学科 全教員

8	研究紹介②	理学療法学科教員の研究内容について説明する。	講義	予習 理学療法学科の教員専門について調べておくこと 復習 振り返りシートの提出	学科 全教員
日付					
6.4.8 (月) 2 6.4.15 (月) 1・2 6.4.22 (月) 2 6.5.13 (月) 1・2 6.5.20 (月) 1・2					

教科書	最新理学療法学講座 理学療法研究法, 対馬栄輝 (編著), 医歯薬出版
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学4/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	室伏祐介: 研究室40 ymurofushi@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	理学療法研究法演習	科目英語表記	Practice of Physical Therapy Research Science		
職名、担当教員氏名	教授 鈴木 克彦 教授 加藤 浩 教授 石川 仁 教授 村 成幸 教授 渡部 潤一 准教授 丹野 克子 准教授 南澤 忠儀 講師 赤塚 清矢 講師 永瀬外希子 講師 室伏 祐介 講師 鈴木栄三郎 助教 工藤 大輔				
科目責任者氏名	鈴木 克彦				
学内連絡教員氏名	室伏 祐介				
学科／分野	理学療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科ー必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	理学療法学における研究の必要性や方法を教授する。				
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学4／理学5に関連して 到達目標① 研究に必要な以下の項目について、ゼミを通して実施できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法に関する研究テーマの設定 ・研究テーマを設定していくための先行研究検索・収集・読解 ・研究方法の理解 ・研究計画作成過程における討論 到達目標② 研究計画を発表することができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・研究発表の方法の理解 ・研究計画のプレゼンテーション実施 				
成績評価方法	到達目標①②について 指導教員がゼミでの取り組みや成果、卒業研究計画発表を通して評価する：100%				
成績評価基準	到達目標① 特に優れている : 内容が適切で明確な発表資料となっている。 優れている : 内容が明確な発表資料となっている。 良好である : 内容が概ね明確な発表資料となっている。 最低限の到達 : 内容が一部明確でない資料となっている。 目標に到達していない : 資料が完成していない。 到達目標② 特に優れている : 発表内容が明確で、適切に発表できる。 優れている : 発表内容が明確で、概ね適切に発表できる。 良好である : 発表内容が概ね明確で、発表できる。 最低限の到達 : 発表内容の一部に不明確な部分があり、発表できても十分なアドバイスが必要である。 目標に到達していない : 発表できない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	ゼミ配置オリエンテーション	ゼミ配置決定、研究室での接遇、卒業研究の全体スケジュール	講義	予習 理学療法学科教員の研究内容について調べておくこと	室伏 祐介
2	理学療法研究におけるデータ解析	医療分野の論文の投稿規定における統計学の取り扱いについて 理学療法学分野における統計学手法の変遷、データ表記	講義	自らの研究課題で使用する統計手法のみならず他の学生のデータ解析手法も理解できるよう講義の復習を重ねてください。	石川 仁
3	理学療法研究におけるデータ解析	統計学的検定に必要な基礎知識、P値、交絡因子、オッズ比	講義	自らの研究課題で使用する統計手法のみならず他の学生のデータ解析手法も理解できるよう講義の復習を重ねてください。	石川 仁

4	理学療法研究におけるデータ解析	ロジスティック回帰分析、相関と回帰、重回帰分析	講義	自らの研究課題で使用する統計手法のみならず他の学生のデータ解析手法も理解できるよう講義の復習を重ねてください。	石川 仁
5	理学療法研究におけるデータ解析	95%信頼区間、統計学的有意と臨床学的有意、 Kaplan-Meier生存分析、COX比例ハザードモデル	講義	自らの研究課題で使用する統計手法のみならず他の学生のデータ解析手法も理解できるよう講義の復習を重ねてください。	石川 仁
6	理学療法研究におけるデータ解析	感度、特異度、カットオフ値、トレードオフ、偽陽性、偽陰性、メタ・アナリシス	講義	自らの研究課題で使用する統計手法のみならず他の学生のデータ解析手法も理解できるよう講義の復習を重ねてください。	石川 仁
7	ゼミ 先行研究検討 研究計画作成 研究計画発表方法	各指導教員が、研究に必要な文献の収集方法や研究実施方法等について定期的あるいは必要に応じて集中的に指導する。	演習	研究課題設定・計画作成のため、自ら先行研究や情報の収集・検討を行う。	各指導教員
8	ゼミ 先行研究検討 研究計画作成 研究計画発表方法	各指導教員が、研究に必要な文献の収集方法や研究実施方法等について定期的あるいは必要に応じて集中的に指導する。	演習	研究課題設定・計画作成のため、自ら先行研究や情報の収集・検討を行う。	各指導教員
9	ゼミ 先行研究検討 研究計画作成 研究計画発表方法	各指導教員が、研究に必要な文献の収集方法や研究実施方法等について定期的あるいは必要に応じて集中的に指導する。	演習	研究課題設定・計画作成のため、自ら先行研究や情報の収集・検討を行う。	各指導教員
10	ゼミ 先行研究検討 研究計画作成 研究計画発表方法	各指導教員が、研究に必要な文献の収集方法や研究実施方法等について定期的あるいは必要に応じて集中的に指導する。	演習	研究課題設定・計画作成のため、自ら先行研究や情報の収集・検討を行う。	各指導教員
11	ゼミ 先行研究検討 研究計画作成 研究計画発表方法	各指導教員が、研究に必要な文献の収集方法や研究実施方法等について定期的あるいは必要に応じて集中的に指導する。	演習	研究課題設定・計画作成のため、自ら先行研究や情報の収集・検討を行う。	各指導教員
12	ゼミ 先行研究検討 研究計画作成 研究計画発表方法	各指導教員が、研究に必要な文献の収集方法や研究実施方法等について定期的あるいは必要に応じて集中的に指導する。	演習	研究課題設定・計画作成のため、自ら先行研究や情報の収集・検討を行う。	各指導教員
13	卒業研究計画発表会 オリエンテーション、発表準備	発表者としてのコミュニケーション・スキル	発表	発表に向けての資料作成を進める。	室伏 祐介
14	卒業研究計画発表会	研究紹介とポスターでの討論	発表	発表時の討論とその後のゼミを通して計画を適宜修正する。	学科全教員
15	卒業研究計画発表会	研究紹介とポスターでの討論	発表	発表時の討論とその後のゼミを通して計画を適宜修正する。	学科全教員
日付					

教科書	授業中およびゼミ中に紹介する。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学4/理学5

先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	鈴木 克彦：研究室31・ksuzuki@yachts.ac.jp 加藤 浩：研究室36 hikato@yachts.ac.jp 石川 仁：研究室24 hishikawa@yachts.ac.jp 村 成幸：研究室35 nmura@yachts.ac.jp 渡部 潤一：研究室39 jwatanabe@yachts.ac.jp 丹野 克子：研究室6 ktanno@yachts.ac.jp 南澤 忠儀：研究室18 tminamisawa@yachts.ac.jp 赤塚 清矢：研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬外希子：研究室23 tishiguri@yachts.ac.jp 室伏 祐介：研究室40 ymurofushi@yachts.ac.jp 鈴木栄三郎：共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp 工藤 大輔：共同研究室 dkudo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	理学療法卒業研究	科目英語表記	Physical Therapy Graduation Thesis		
職名、担当教員氏名	教授 鈴木 克彦 教授 加藤 浩 教授 石川 仁 教授 村 成幸 教授 渡部 潤一 准教授 丹野 克子 准教授 南澤 忠儀 講師 赤塚 清矢 講師 永瀬外希子 講師 室伏 祐介 講師 鈴木栄三郎 助教 工藤 大輔				
科目責任者氏名	永瀬外希子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科－必修		
授業形態	演習	開講時期	通年	単位数	4単位
授業概要	研究計画に基づいて研究を実施し、卒業論文を完成させるまでの一連の過程を経験する。研究結果をまとめ、ポスターまたは口述での発表を行う。				
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学4／理学5に関連して ① 理学療法に関する研究テーマを見出し、その検証のために積極的に行動できる。 ② 研究テーマに関する先行研究の検索と読解を行い、適切に引用できる。 ③ 自らの研究テーマを検証するための研究計画を立案することができる。 ④ 研究計画に従って研究を実施し、得られた結果をまとめ、結果に対する妥当な考察、結論の導出ができる。 ⑤ 研究内容を他者に伝えるための発表と論文作成ができる。				
成績評価方法	到達目標 ①～⑤を評価 評価者：指導教員 100% ゼミを通して、研究発表、論文作成を含む研究への取り組み方や成果を評価します。				
成績評価基準	ゼミでの取り組み 到達目標①、②、③、④、⑤を評価 ① 理学療法に関する研究テーマを見出し、その検証のために積極的に行動できる。 特に優れている : 研究テーマを見出し、その検証のために積極的に行動できる。 優れている : 研究テーマを見出し、その検証のために行動できる。 良好である : 研究テーマを見出し、その検証のためにある程度行動できる。 最低限の到達 : 研究テーマを見出し、その検証のために最低限行動できる。 目標に到達していない : 研究テーマを見出せず、行動できない。 ② 研究テーマに関する先行研究の検索と読解を行い、適切に引用できる。 特に優れている : 先行研究の検索と読解を十分行い、適切に引用できる。 優れている : 先行研究の検索と読解を行い、適切に引用できる。 良好である : 先行研究の検索と読解をある程度行い、適切に引用できる。 最低限の到達 : 先行研究の検索と読解を最低限行い、引用できる。 目標に到達していない : 先行研究の検索と読解を行えず、引用できない。 ③ 自らの研究テーマを検証するための研究計画を立案することができる。 特に優れている : 自らの研究テーマを検証するための研究計画を適切に立案できる。 優れている : 自らの研究テーマを検証するための研究計画を立案できる。 良好である : 自らの研究テーマを検証するための研究計画をある程度立案できる。 最低限の到達 : 自らの研究テーマを検証するための研究計画を最低限立案できる。 目標に到達していない : 研究計画を立案することができない。 ④ 研究計画に従って研究を実施し、得られた結果をまとめ、結果に対する妥当な考察、結論の導出ができる。 特に優れている : 適切に研究を実施し、結果をまとめ、考察し、結論を導出できる。 優れている : 研究を実施し、結果をまとめ、考察し、結論を導出できる。 良好である : ある程度研究を実施し、結果をまとめ、考察し、結論を導出できる。 最低限の到達 : 最低限の研究を実施し、結果をまとめ、考察し、結論を導出できる。 目標に到達していない : 研究を実施し、結果をまとめ、考察し、結論を導出することができない。 ⑤ 研究内容を他者に伝えるための発表と論文作成ができる。 特に優れている : 発表と論文作成ができ、研究内容が他者に十分伝わる。 優れている : 発表と論文作成ができ、研究内容が他者に伝わる。 良好である : 発表と論文作成ができ、研究内容が他者にある程度伝わる。 最低限の到達 : 発表と論文作成ができ、研究内容が他者に最低限伝わる。				

目標に到達していない：発表と論文作成ができず、研究内容が他者に伝わらない。

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
卒業研究	研究の実施、研究のまとめ、プレゼンテーション、討論	研究の実施：対象者への説明と同意、測定や調査の実施、研究結果の解析、目的や仮説に応じた考察、結論の導出などについて各指導教員の指導をもとに実施する。 研究のまとめ：卒業論文や発表用スライドを指導教員の指導をもとに作成する。 プレゼンテーション：ポスターまたは口述発表を実施する。 口述発表では、座長および掲示係を学生が担当する。	演習（ゼミナール）、プレゼンテーション	自らの研究課題に関する情報の収集に努めるとともに、研究計画を基に指導教員による指示に従いながら、積極的に研究を実行してください。	理学療法学科全教員
日付					

教科書	指定なし。 研究テーマに関する資料、参考図書等は、指導教官と相談しながら選定します。
参考書	指定なし
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学4/理学5
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	鈴木 克彦：31研究室 ksuzuki@yachts.ac.jp 加藤 浩：36研究室 hikato@yachts.ac.jp 石川 仁：24研究室 hishikawa@yachts.ac.jp 村 成幸：35研究室 nmura@yachts.ac.jp 渡部 潤一：39研究室 jwatanabe@yachts.ac.jp 丹野 克子：6研究室 ktanno@yachts.ac.jp 南澤 忠儀：18研究室 tminamisawa@yachts.ac.jp 赤塚 清矢：14研究室 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬外希子：23研究室 tishiguri@yachts.ac.jp 室伏 祐介：40研究室 ymurofushi@yachts.ac.jp 鈴木栄三郎：理学・作業共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp 工藤 大輔：理学・作業共同研究室 dkudo@yachts.ac.jp
備考	測定機器は非常に高額で、他の学生や大学院生、教員も共同使用します。使用方法を遵守し、慎重に取り扱ってください。

授業科目	臨床実習Ⅰ	科目英語表記	Clinical EducationⅠ		
職名、担当教員氏名	講師 赤塚 清矢 教授 鈴木 克彦 教授 加藤 浩 教授 渡部 潤一 准教授 丹野 克子 准教授 南澤 忠儀 講師 永瀬外希子 講師 室伏 祐介 講師 鈴木栄三郎 助教 工藤 大輔				
科目責任者氏名	赤塚 清矢				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科Ⅰ-必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	1単位
授業概要	臨床実習Ⅰは臨床場面での初めての実習である。実習では多様化する理学療法を考慮し、各実習施設の目的や役割、組織等のもとより、そこで活躍する理学療法士の役割や業務内容を学習する。				
到達目標	ディプロマポリシー理学1／理学2／理学3／理学5／理学6に関連して ① 清潔で適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度で対象者に接することができる。 ② 実習施設等の規則や心得を遵守できる。 ③ 与えられた課題を確実に遂行することができる。 ④ 対象者、家族のニーズ・要望などに対し、自身の感情を制御して接することができる。 ⑤ 指導者と十分なコミュニケーションを保って良好な関係を維持することができる。 ⑥ 理学療法業務の概略を理解できる。 ⑦ 病院・施設における理学療法部門の位置付けを把握できる。 ⑧ 理学療法に対する意欲や向上心がみられる。 ⑨ 守秘義務を果たし、プライバシーを守ることができる。 ⑩ チーム医療の必要性を認識することができる。 ⑪ 実習施設で経験した内容の報告ができる。				
成績評価方法	実習後発表（30％）、課題レポート（20％）、臨床実習Ⅰ評価（50％）にて、到達目標の①～⑪を評価。				
成績評価基準	到達目標①②③④⑤⑨⑩ 特に優れている：正しく理解し十分実施できる。 優れている：正しく理解し概ね実施できる。 良好である：正しく理解しある程度実施できる。 最低限の到達：一部不十分な所もあるが、ある程度実施できる。 目標に到達していない：実施できない。 到達目標⑥⑦ 特に優れている：論理的に正しく、かつ明確に十分説明できる。 優れている：論理的に正しく、かつ明確に概ね説明できる。 良好である：論理的に正しく概ね説明できる。 最低限の到達：一部不十分な所もあるが、ある程度説明できる。 目標に到達していない：説明できない。 到達目標⑧ 特に優れている：自ら設定した目標に対し、積極的に行動することができる。 優れている：自ら設定した目標に対し、概ね積極的に行動することができる。 良好である：自ら設定した目標に対し、ある程度、積極的に行動することができる。 最低限の到達：自ら設定した目標に対し、不十分であるが行動することができる。 目標に到達していない：自ら設定した目標に対し、行動することができない。 到達目標⑪ 特に優れている：課題内容を理解し、構成力、表現力、説得力が十分な報告ができる。 優れている：課題内容を理解し、構成力、表現力、説得力が概ね十分な報告ができる。 良好である：課題内容を理解し、構成力、表現力、説得力がある程度十分な報告ができる。 最低限の到達：課題内容を理解し、一部不適切な部分はあるが、報告ができる。 目標に到達していない：報告できない。				

授業計画

回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション	実習前セミナー 実習後セミナー	実習前セミナーでは、臨床実習Ⅰの学習内容や諸手続きについて説明し、臨床実習に臨む心構えについて、グループ討議を行なう。 実習後セミナーでは、レポートと評価書を提出する。実習内容を説明し、自己評価による目標達成度や課題を発表する。	講義と演習	復習課題 臨床実習の手引き、臨床実習評価表、チェックリストを確認する。	赤塚清矢、他
実習	各実習施設における臨床実習	① 病院・施設内の各部門を見学する。 ② 理学療法の評価・治療を見学する。 ③ 日常業務に参加する。 ④ カンファレンスや勉強会に参加する。	実習	各実習施設での臨床実習では、臨床実習指導者の指示に従うこと。	理学療法士教員
日付					

教科書	臨床実習の手引き、臨床実習評価表、チェックリスト
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学1/理学2/理学3/理学5/理学6
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	科目の担当者と臨床実習指導者講習会を受講した理学療法士等が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する理学療法士）の指導の下、臨床現場での見学を行い、各施設の目的や役割、理学療法士の役割や業務内容を学ぶ科目です。 「V補足2」の記載内容程度とします。
教員の連絡先	赤塚：研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp
備考	初めての臨床実習です。臨床実習施設では責任ある態度と言動に心がけること。

授業科目	臨床特論	科目英語表記	Seminar of Clinical Education		
職名、担当教員氏名	教授 鈴木 克彦 教授 加藤 浩 教授 渡部 潤一 准教授 丹野 克子 准教授 南澤 忠儀 講師 赤塚 清矢 講師 永瀬外希子 講師 室伏 祐介 講師 鈴木栄三郎 助教 工藤 大輔				
科目責任者氏名	丹野 克子				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科ー必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	1. 臨床実習に向け、これまでの学内学習を総合的・応用的に振り返り、補填しておくべき技術を教授する。 2. 臨床実習における主体性・協調性・積極性、計画実行能力・質問力・内省力を養うグループ学習を指導する。				
到達目標	ディプロマポリシー（DP）理学1／理学2／理学3／理学5／理学6に関連して ① 臨床実習でお世話になる方々（患者等の対象者・指導者・他職種を含む実習施設職員）と適切にコミュニケーションできるような言動ができる。：DP1・3・5 ② 理学療法における適切な記録ができる。：DP5・6 ③ 観察による動作分析方法ができる。：DP2・5 ④ 患者等に対して必要な介助ができる。：DP2・5 ⑤ 患者等から直接、必要で十分な情報収集ができる。：DP2・5 ⑥ グループで知識・技術の確認・実施を行える。：DP1・2・3・5・6				
成績評価方法	到達目標①～⑥すべてを評価 到達目標に関するレポート課題、グループ学習への参加度で評価する。				
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・特に優れている：課題に適應した内容を、適切な国語表記で記述し、提出ルールを守って提出できる。かつ、グループ学習を相互協力して十分に行える。 ・優れている：課題に適應した内容を、おおよそ適切な国語表記法で記述し、提出ルールを守って提出できる。かつ、グループ学習を相互協力して十分に行える。 ・良好である：課題に適應した内容を、おおよそ適切な国語表記法で記述し、提出ルールを守って提出できる。 ・最低限の到達：課題におおよそ適應しているが、内容や国語表記法に指導を指導を受けて再提出できる。または内容および国語表記は問題ないが、提出ルールを守れない。 ・到達していない：指導や助言を受けた後の再提出によっても、最低限の到達に至らない。または提出しない。 				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	ガイダンス 統合と解釈の進め方	科目の理解（内容とスケジュール、成績評価方法、グループ学習方法） 「統合と解釈」を学ぶ	講義・演習	【授業後課題】学習内容をグループ学習に反映させる。	丹野・室伏・工藤
2	グループ学習の計画	既習の知識・技術を整理し、グループ学習の計画を作成する。	グループ学習	【授業後課題】学習内容をグループ学習に反映させる。	丹野・室伏・工藤
3	記録法	症例レポート、症例報告レジュメ、実習ノート、SOAPの記録方法を学ぶ。	演習	【授業後課題】学習内容をグループ学習に反映させる。	南澤
4	リスクの気づきと配慮方法	臨床場面で起こるインシデント・アクシデントリスクに気づき、配慮する方法	講義・演習	【授業後課題】学習内容をグループ学習に反映させる。	丹野・工藤
5	介助法	基本的なリフティングの方法	実技	【授業後課題】介助法が身につくように繰り返し練習してください。 【授業後課題】学習内容をグループ学習に反映させる。	永瀬・赤塚・鈴木栄

6	医療面接	模擬患者との面接演習	演習	<p>【事前準備】 模擬患者さんに失礼のないような身だしなみにしておくこと。 模擬患者の情報をふまえて医療面接の練習をしてください。</p> <p>【授業後課題】 学習内容をグループ学習に反映させる。</p>	井上京子 [スポット：元山形県立保健医療大学看護学科准教授]・永瀬・他
7	臨床実習におけるコミュニケーション (指導者編)	臨床実習を想定し、心構え、態度、コミュニケーションを学ぶ。	演習・実技	<p>【授業後課題】 学習内容をグループ学習に反映させる。</p>	丹野・工藤
8	臨床実習におけるコミュニケーション (その他編)	臨床実習を想定し、心構え、態度、コミュニケーションを学ぶ。	演習・実技	<p>【授業後課題】 学習内容をグループ学習に反映させる。</p>	丹野・工藤
日付					
6.4.12 (金) 3・4・5					
6.4.19 (金) 3・4・5					
6.4.26 (金) 3・4・5					
6.5.17 (金) 3・4・5					
6.5.31 (金) 3・4・5					

教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・指定なし。 ・講義時に資料を配布する。
参考書	適宜紹介する。
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学1/理学2/理学3/理学5/理学6
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	該当
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	丹野：研究室6 ktanno@yachts.ac.jp 室伏：研究室40 ymurofushi@yachts.ac.jp 工藤：理作共同研究室 dkudo@yachts.ac.jp 鈴木(克)：研究室31 ksuzuki@yachts.ac.jp 加藤：研究室36 hikato@yachts.ac.jp 渡部：研究室39 jwatanabe@yachts.ac.jp 南澤：研究室18 tminamisawa@yachts.ac.jp 赤塚：研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬：研究室23 tishiguri@yachts.ac.jp 鈴木(栄)：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp
備考	到達目標に至るためには、教員から学ぶだけでなく、学生同士が主体的に計画・実行するグループ学習が鍵になります。グループ学習を有益に活用してください。

授業科目	臨床実習 II	科目英語表記	Clinical Education II		
職名、担当教員氏名	講師 赤塚 清矢 教授 鈴木 克彦 教授 加藤 浩 教授 渡部 潤一 准教授 丹野 克子 准教授 南澤 忠儀 講師 永瀬外希子 講師 室伏 祐介 講師 鈴木栄三郎 助教 工藤 大輔				
科目責任者氏名	赤塚清矢				
学内連絡教員氏名	赤塚清矢				
学科／分野	理学療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科一必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	通年	単位数	4単位
授業概要	臨床実習 II は、客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination：OSCE(オスキー)）、山形県立中央病院でのプレ実習と各実習施設での4週間の臨床実習から構成される。 OSCEでは、模擬理学療法場面での医療面接、検査・測定、報告の技術を試験する。 プレ実習では、理学療法場面の見学や体験を通し、各実習施設での実習へ向かうための事前学習を実践する。 各実習施設の実習では、診療参加型臨床実習にて理学療法を実施する上で必要な情報を収集した上で、対象者に検査・測定を適切に実施し、それらの内容の統合と解釈を行う。さらに、問題点の抽出と目標設定の方法について学習する。				
到達目標	ディプロマ・ポリシー-理学1/理学2/理学3/理学5/理学6に関連して ① 模擬理学療法場面での医療面接、検査・測定、報告を行うことができる。 ② 検査・測定や対象疾患に対する基本的な知識がある。 ③ 検査項目・情報収集項目の抽出・取捨選択の理由を説明することができる。 ④ 検査・測定を正確に実施することができる。 ⑤ 対象者が抱える課題を抽出し、その抽出理由について説明することができる。 ⑥ 短期ゴール、長期ゴールを設定することができる。 ⑦ 基本的治療・指導項目を選択し、プログラムを立案できる。 ⑧ 実施内容を診療記録に記載することができる。 ⑨ 症例に関する口頭および文書による報告を適切に行うことができる。 ⑩ 指導者の助言を仰ぎながら、他部門との情報交換ができる。 ⑪ 指導者の助言を仰ぎながらリスクの配慮、管理ができる。 ⑫ 実習施設で経験した症例のプレゼンテーションができる。				
成績評価方法	成績評価は、実習前評価（OSCE）、実習後評価（報告会、実習後試験）および臨床実習 II 評価にて、到達目標の①～⑫を評価。 実習前評価（25%）、実習後評価（25%）、臨床実習 II 評価（50%）				
成績評価基準	到達目標①④⑥⑦⑧⑨⑩⑪ 特に優れている：正しく理解し十分実施できる。 優れている：正しく理解し概ね実施できる。 良好である：正しく理解しある程度実施できる。 最低限の到達：一部不十分な所もあるが、ある程度実施できる。 目標に到達していない：実施できない。 到達目標②③⑤ 特に優れている：論理的に正しく、かつ明確に十分説明できる。 優れている：論理的に正しく、かつ明確に概ね説明できる。 良好である：論理的に正しく概ね説明できる。 最低限の到達：一部不十分な所もあるが、ある程度説明できる。 目標に到達していない：説明できない。 到達目標⑫ 特に優れている：課題内容を理解し、構成力、表現力、説得力が十分なプレゼンテーションができる。 優れている：課題内容を理解し、構成力、表現力、説得力が概ね十分なプレゼンテーションができる。 良好である：課題内容を理解し、構成力、表現力、説得力がある程度十分なプレゼンテーションができる。 最低限の到達：課題内容を理解し、一部不適切な部分はあるが、プレゼンテーションができる。 目標に到達していない：プレゼンテーションできない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員

オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習指導者会議前セミナー ・臨床実習指導者会議での面談 ・臨床実習前セミナー ・OSCEガイドランス ・臨床実習後セミナー 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習指導者会議前セミナーでは、実習先施設の開示と臨床実習指導者会議での指導者との面談方法について説明する。 ・臨床実習指導者会議での面談では、臨床実習指導者と情報交換を行う。 ・臨床実習前セミナーでは、臨床実習Ⅱの学習内容や諸手続について説明する。 ・OSCEガイドランスでは、OSCEの説明を行う。 ・臨床実習後セミナーでは、実習関係書類の提出と実習内容を説明し、自己評価による目標達成度や課題を発表する。 	講義	臨床実習の手引き、臨床実習評価表、チェックリストを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習前セミナー：赤塚他 ・OSCEガイドランス：丹野・赤塚 他 ・臨床実習後セミナー：赤塚他
実習	<ul style="list-style-type: none"> ・OSCE ・プレ実習 ・各実習施設での臨床実習 ・報告会資料作成 ・報告会 ・実習後試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・OSCEでは、模擬患者を対象にした理学療法の検査・測定、評価と報告を行う。 ・プレ実習では、山形県立中央病院において臨床の場を体験する。 ・各実習施設での臨床実習では、診療参加型臨床実習にて、①症例に関する情報収集、②検査・測定、③一般情報、検査・測定結果の整理、統合、④問題点の抽出、⑤目標の設定、⑥基本的な治療プログラムの立案、⑦記録および報告、を行う。 ・報告会資料作成は、校内での報告会に向けた資料を作成する。 ・報告会は、各実習施設で経験した症例に関して、報告とディスカッションを行う。 ・実習後試験は各実習施設で経験した症例に関して、実技プレゼンテーションによる試験を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・OSCE：試験 ・プレ実習：実習 ・各実習施設での臨床実習：実習 ・報告会資料作成：演習 ・報告会：演習 ・実習後試験：試験 	各実習施設での臨床実習では、臨床実習指導者の指示に従うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・OSCE：理学療法士教員 ・プレ実習：赤塚、室伏、鈴木（栄） ・各実習施設での臨床実習：理学療法士教員 ・報告会資料作成：理学療法士教員 ・報告会：理学療法士教員 ・実習後試験：理学療法士教員
日付					
6. 7. 1 (月) 3・4 6. 7.10 (水) 1～5 6. 9. 2 (月) ～ 6. 9.27 (金) 6. 9.30 (月) 1 6.10. 3 (木) 1～3					

教科書	臨床実習の手引き、臨床実習評価表、チェックリスト
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学1／理学2／理学3／理学5／理学6
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当

実務経験のある教員	科目の担当者と臨床実習指導者講習会を受講した理学療法士が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する理学療法士）の指導の下、臨床現場で担当症例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、基本的な治療プログラムの立案まで行う科目です。 「V補足2」の記載内容程度とします。
教員の連絡先	赤塚清矢：研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp
備考	理学療法士になる立場であることを十分に自覚し、責任ある態度と言動に心がけること。

授業科目	臨床実習Ⅲ	科目英語表記	Clinical Education III		
職名、担当教員氏名	講師 赤塚 清矢 教授 鈴木 克彦 教授 加藤 浩 教授 渡部 潤一 准教授 丹野 克子 准教授 南澤 忠儀 講師 永瀬外希子 講師 室伏 祐介 講師 鈴木栄三郎 助教 工藤 大輔				
科目責任者氏名	赤塚 清矢				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	3年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科ー必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	8単位
授業概要	臨床実習施設において、臨床実習指導者の適切な指導・監督のもと基本的な理学療法を行う。				
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学1／理学2／理学3／理学5／理学6に関連して ① 総合臨床実習を行ううえでの理学療法の基礎的知識がある。 ② 治療プログラムに関する目的、技術等の基礎的知識がある。 ③ 問題点やゴールに対応した治療プログラムを立案することができる。 ④ 治療におけるオリエンテーションと動機付けができる。 ⑤ 基本的な治療（技術）を実施できる。 ⑥ 症状や治療結果に合わせて、適切に治療プログラムを変更することができる。 ⑦ 実習施設で経験した症例のプレゼンテーションができる。				
成績評価方法	成績評価は、実習前評価（実習前試験）、実習後評価（報告会、実習後試験）および臨床実習Ⅲ評価にて、到達目標①～⑦を評価。実習前評価（25%）、実習後評価（25%）、臨床実習Ⅲ評価（50%）				
成績評価基準	到達目標①② 特に優れている：論理的に正しく、かつ明確に十分説明できる。 優れている：論理的に正しく、かつ明確に概ね説明できる。 良好である：論理的に正しく概ね説明できる。 最低限の到達：一部不十分な所もあるが、ある程度説明できる。 目標に到達していない：説明できない。 到達目標③④⑤⑥ 特に優れている：正しく理解し十分実施できる。 優れている：正しく理解し概ね実施できる。 良好である：正しく理解しある程度実施できる。 最低限の到達：一部不十分な所もあるが、ある程度実施できる。 目標に到達していない：実施できない。 到達目標⑦ 特に優れている：課題内容を理解し、構成力、表現力、説得力が十分なプレゼンテーションができる。 優れている：課題内容を理解し、構成力、表現力、説得力が概ね十分なプレゼンテーションができる。 良好である：課題内容を理解し、構成力、表現力、説得力がある程度十分なプレゼンテーションができる。 最低限の到達：課題内容を理解し、一部不適切な部分はあるが、プレゼンテーションができる。 目標に到達していない：プレゼンテーションできない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習指導者会議前セミナー 臨床実習指導者会議での面談 臨床実習前セミナー 臨床実習後セミナー 	<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習指導者会議前セミナーでは、実習先施設の開示と臨床実習指導者会議での指導者との面談方法について説明する。 臨床実習指導者会議での面談では、臨床実習指導者と情報交換を行う。 臨床実習前セミナーでは、臨床実習Ⅲの学習内容や諸手 	講義	臨床実習の手引き、臨床実習評価表、チェックリストを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習前セミナー：赤塚他 臨床実習後セミナー：赤塚他

		<p>続について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習後セミナーでは、実習関係書類の提出と実習内容を説明し、自己評価による目標到達度や課題を発表する。 			
実習	<ul style="list-style-type: none"> ・各実習施設での臨床実習 ・報告会資料作成 ・報告会 ・実習後試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・各実習施設での臨床実習内容：①症例に関する情報収集、②検査・測定、③一般情報、検査・測定結果の整理、統合、④問題点の抽出、⑤目標の設定、⑥治療プログラムの立案、⑦治療プログラムの実施、⑧再評価、を実施する。 ・報告会資料作成は、学内での報告会に向けた資料を作成する。 ・報告会は、各実習施設で経験した症例に関して、報告とディスカッションを行う。 ・実習後試験は各実習施設で経験した症例に関して、実技プレゼンテーションによる試験を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各実習施設での臨床実習：実習 ・報告会資料作成：演習 ・報告会：演習 ・実習後試験：試験 	<p>各実習施設での臨床実習では、臨床実習指導者の指示に従うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各実習施設での臨床実習：理学療法士教員 ・報告会資料作成：理学療法士教員 ・報告会：理学療法士教員 ・実習後試験：理学療法士教員
日付					

教科書	臨床実習の手引き、臨床実習評価表、チェックリスト
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学1／理学2／理学3／理学5／理学6
先修条件指定科目	該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	科目の担当者と臨床実習指導者講習会を受講した理学療法士が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する理学療法士）の指導の下、臨床現場で担当症例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムを立案の上、基本的な理学療法を実施する科目です。「V補足2」の記載内容程度とします。
教員の連絡先	赤塚清矢：研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp
備考	理学療法士になる立場であることを十分に自覚し、責任ある態度と言動に心がけること。

授業科目	臨床実習Ⅳ	科目英語表記	Clinical Education Ⅳ		
職名、担当教員氏名	講師 赤塚 清矢 教授 鈴木 克彦 教授 加藤 浩 教授 渡部 潤一 准教授 丹野 克子 准教授 南澤 忠儀 講師 永瀬外希子 講師 室伏 祐介 講師 鈴木栄三郎 助教 工藤 大輔				
科目責任者氏名	赤塚 清矢				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科ー必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	前期	単位数	8単位
授業概要	臨床実習施設において、臨床実習指導者の適切な指導・監督のもと基本的な理学療法を行う。				
到達目標	ディプロマポリシー理学1／理学2／理学3／理学5／理学6に関連して ① 総合臨床実習を行ううえでの理学療法の基礎的知識がある。 ② 治療プログラムに関する目的、技術等の基本的知識がある。 ③ 問題点やゴールに対応した治療プログラムを立案することができる。 ④ 治療におけるオリエンテーションと動機付けができる。 ⑤ 基本的な治療（技術）を実施できる。 ⑥ 症状や治療結果に合わせて、適切に治療プログラムを変更することができる。 ⑦ 実習施設で経験した症例のプレゼンテーションができる。				
成績評価方法	成績評価は、実習前評価（実習前試験）、実習後評価（報告会、実習後試験）および臨床実習Ⅳ評価にて、到達目標①～⑦を評価。実習前評価（25%）、実習後評価（25%）、臨床実習Ⅳ評価（50%）				
成績評価基準	到達目標①② 特に優れている：論理的に正しく、かつ明確に十分説明できる。 優れている：論理的に正しく、かつ明確に概ね説明できる。 良好である：論理的に正しく概ね説明できる。 最低限の到達：一部不十分な所もあるが、ある程度説明できる。 目標に到達していない：説明できない。 到達目標③④⑤⑥ 特に優れている：正しく理解し十分実施できる。 優れている：正しく理解し概ね実施できる。 良好である：正しく理解しある程度実施できる。 最低限の到達：一部不十分な所もあるが、ある程度実施できる。 目標に到達していない：実施できない。 到達目標⑦ 特に優れている：課題内容を理解し、構成力、表現力、説得力が十分なプレゼンテーションができる。 優れている：課題内容を理解し、構成力、表現力、説得力が概ね十分なプレゼンテーションができる。 良好である：課題内容を理解し、構成力、表現力、説得力がある程度十分なプレゼンテーションができる。 最低限の到達：課題内容を理解し、一部不適切な部分はあるが、プレゼンテーションができる。 目標に到達していない：プレゼンテーションできない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習指導者会議前セミナー 臨床実習指導者会議での面談 臨床実習前セミナー 臨床実習後セミナー 	<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習指導者会議前セミナーでは、実習先施設の開示と臨床実習指導者会議での指導者との面談方法について説明する。 臨床実習指導者会議での面談では、臨床実習指導者と情報交換を行う。 臨床実習前セミナーでは、臨床実習Ⅲの学習内容や諸手 	講義	臨床実習の手引き、臨床実習評価表、チェックリストを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習前セミナー：赤塚他 臨床実習後セミナー：赤塚他

		<p>続について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床実習後セミナーでは、実習関係書類の提出と実習内容を説明し、自己評価による目標到達度や課題を発表する。 			
実習	<ul style="list-style-type: none"> 各実習施設での臨床実習 報告会資料作成 報告会 実習後試験 	<ul style="list-style-type: none"> 各実習施設での臨床実習内容：①症例に関する情報収集、②検査・測定、③一般情報、検査・測定結果の整理、統合、④問題点の抽出、⑤目標の設定、⑥治療プログラムの立案、⑦治療プログラムの実施、⑧再評価、を実施する。 報告会資料作成は、学内で報告会に向けた資料を作成する。 報告会は、各実習施設で経験した症例に関して、報告とディスカッションを行う。 実習後試験は各実習施設で経験した症例に関して、実技プレゼンテーションによる試験を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各実習施設での臨床実習：実習 報告会資料作成：演習 報告会：演習 実習後試験：試験 	<p>各実習施設での臨床実習では、臨床実習指導者の指示に従うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各実習施設での臨床実習：理学療法士教員 報告会資料作成：理学療法士教員 報告会：理学療法士教員 実習後試験：理学療法士教員

日付	<p>6.4. 8(月)2・3 6.5.13(月) ～ 6.7. 5(金) 6.7. 8(月)1 6.7.11(木)1・2・3</p>
----	---

教科書	臨床実習の手引き、臨床実習評価表、チェックリスト
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学1/理学2/理学3/理学5/理学6
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	科目の担当教員と臨床実習指導者講習会を受講した理学療法士が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する理学療法士）の指導の下、臨床現場で担当症例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムを立案の上、基本的な理学療法を実施する科目です。「V補足2」の記載内容程度とします。
教員の連絡先	赤塚清矢：研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp
備考	理学療法士になる立場であることを十分に自覚し、責任ある態度と言動に心がけること。

授業科目	臨床実習 V	科目英語表記	Clinical Education V		
職名、担当教員氏名	講師 赤塚 清矢 教授 鈴木 克彦 教授 加藤 浩 教授 渡部 潤一 准教授 丹野 克子 准教授 南澤 忠儀 講師 永瀬外希子 講師 室伏 祐介 講師 鈴木栄三郎 助教 工藤 大輔				
科目責任者氏名	赤塚 清矢				
学内連絡教員氏名					
学科／分野	理学療法学科	学年	4年		
科目区分	専門	必修・選択の別	理学療法学科一必修		
授業形態	講義／演習／実習若しくは実技	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションの見学を行い、実践的な地域理学療法を学ぶ。				
到達目標	ディプロマ・ポリシー理学1／理学2／理学3／理学5／理学6に関して ① 地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を説明することができる。 ② 通所リハビリテーションの理学療法を説明することができる。 ③ 訪問リハビリテーションの理学療法を説明することができる。				
成績評価方法	1. 実習レポート (50%) : 個人作成 2. プレゼンテーション (50%) : グループ作成				
成績評価基準	1. 実習レポート (50%) 到達目標①②③ ・特に優れている：課題に対応した適切な内容を、適切な国語表現・表記で記述し、提出ルールに従って提出できる。 ・優れている：課題に対応した適切な内容を、ある程度適切な国語表現・表記で記述し、提出ルールに従って提出できる。 ・良好である：課題に対応した適切な内容を、ある程度適切な国語表現・表記で記述し、提出できる。 ・最低限の到達：課題に対応したある程度適切な内容を、ある程度適切な国語表現・表記で記述し、提出できる。 ・目標に到達していない：課題に対応していない内容で提出した。または課題を提出しない。 2. プレゼンテーション (50%) 到達目標①②③ ・特に優れている：課題に対応した適切な内容を、十分に見やすい構成・わかりやすい説明で表現し、かつグループメンバーが協力し合ってプレゼンテーションできる。 ・優れている：課題に対応した適切な内容を、見やすい構成・わかりやすい説明のいずれか一方に不十分さがあっても表現し、かつグループメンバーが協力し合ってプレゼンテーションできる。 ・良好である：課題に対応した適切な内容を、見やすい構成・わかりやすい説明のいずれにも不十分さがあっても表現し、かつグループメンバーが協力し合ってプレゼンテーションできる。 ・最低限の到達：課題に対応した適切な内容を表現し、かつグループメンバーが協力し合ってプレゼンテーションできる。 ・目標に到達していない：課題に対応した適切な内容を表現できない。またはグループメンバーと協力できない。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
オリエンテーション	臨床実習 V における目標・内容・評価方法・スケジュール等の説明	学内実習と学外実習に関して、以下を理解する ・目標と目的の確認 ・内容の理解 ・評価方法の理解 ・実習施設とスケジュールの確認	講義 (説明)	【授業後課題】 ・実習施設の情報収集 ・実習レポートの作成準備 ・「地域リハビリテーション学」、「地域理学療法学」の復習	丹野 赤塚
実習	・地域理学療法の実際の学習 ・通所リハビリテーション提供施設での実習 ・訪問リハビリテーション提供施設での実習 ・各回とも学外実習後に実習内容のまとめ (実習レポート作	・地域理学療法の実際：通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションにおける理学療法を学習する。 ・通所リハビリテーション提供施設での実習 ・訪問リハビリテーション提供施設での実習 ・実習内容のまとめの全体会：実習成果についてのディスカッション	・地域理学療法の実際：講義と演習 ・通所リハビリテーション提供施設での実習：実習 ・訪問リハビリテーション提供施設での実習：実習 ・実習内容のまとめの全体会：演習 ・実習後報告会：演習	・通所リハビリテーションおよび訪問リハビリテーションの施設での実習の終了後は、各回のおよび全体会・報告会に備える。	・地域理学療法の実際：丹野・赤塚 ・通所リハビリテーション提供施設での実習：理学療法士教員 ・訪問リハビリテーション提供施設での実習：理学療法士教員 ・実習内容のまとめの全体会：丹野・赤塚

成を含む) ・実習後報告会(プレゼンテーションを含む)	・実習後報告会:実習成果のプレゼンテーション		・実習後報告会:理学療法士 教員
日付			
6.7.16(火) ～ 6.8.2(金)			

教科書	資料は適宜、配布します。
参考書	資料は適宜、配布します。
ディプロマ・ポリシーとの関連	理学1/理学2/理学3/理学5/理学6
先修条件指定科目	非該当
先修条件指定科目においてあらかじめ修得しておかなければならない科目	非該当
実務経験のある教員	科目の担当教員と臨床実習指導者講習会を受講した理学療法士が指導します。
実務経験をいかした教育内容	本科目は、実習指導者(実習施設に勤務する理学療法士)の指導の下、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションの見学を行い、実践的な地域理学療法を学ぶ科目です。 「V補足2」の記載内容程度とします。
教員の連絡先	赤塚清矢:研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp 丹野克子:研究室6 ktanno@yachts.ac.jp
備考	理学療法士になる立場であることを十分に自覚し、責任ある態度と言動に心がけること。